

令和元年度  
男女共同参画に関する市民意識調査  
報 告 書

令和2年3月  
佐 賀 市



I 総括	1
II 調査の概要	11
III 調査の概要と課題	15
IV 調査結果	17
1 結婚や家庭生活について	17
(1) 結婚観、家庭観	17
(2) 家庭生活での役割分担	23
(3) 家事にかかる時間	26
(4) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方	30
2 教育・子育て・介護について	34
(1) 子どもの育て方	34
(2) 少子化の原因	39
(3) 男女の協力関係を築くために必要な学校での教育	40
(4) 男性の「育児休業」「介護休業」取得に関する考え	41
(5) 介護をするために転職、離職する人が増加する原因	42
3 職業生活について	43
(1) 「女性が職業に就くこと」に対する考え	43
(2) 女性が仕事を継続する上での障がい	44
(3) 女性の再就業に必要なこと	45
(4) 職業の有無とその理由	46
(5) 週の就労時間と就労日数	50
(6) 就労形態等	51
4 健康・福祉について	52
(1) 妊娠、出産、性生活に対する考え	52
(2) 望ましい介護者	53
5 女性の活躍について【新規項目】	55
(1) 地域での女性の活躍状況	55
(2) 女性が活躍した方が良いと思う分野	61
(3) 市の方針決定等への女性の意見や考え方の反映程度	62
(4) 市の方針決定等に女性の意見や考え方が反映されていない理由	62

6	LGBTについて【新規項目】	63
	(1)「LGBT」の認知	63
	(2)LGBT関連の取り組みに関する考え	64
7	地域活動について	69
	(1)地域活動をする場合の障がい	69
	(2)防災・災害復興時において、男女共同参画に根ざした対応をとるために必要なこと	70
8	人権について	71
	(1)ドメスティック・バイオレンスの実態と対応	71
	(2)メディアにおける性や暴力の表現に対する考え	77
	(3)セクシュアル・ハラスメントの実態と対応	78
	(4)女性に対する暴力への対策	80
9	男女平等・男女共同参画社会について	81
	(1)男女共同参画についての学習経験	81
	(2)男女共同参画関連用語の認知	82
	(3)男女平等に関する意識	85
10	自由意見	99
V	調査票	163

# I 総括



# I 総括

## “なんちゃって、からの脱却を

—佐賀市「令和元年度男女共同参画に関する市民意識調査報告書」の講評—

佐賀大学教育学部教授（法哲学）吉岡剛彦

### I. はじめに——調査の概観

“なんちゃって育休、という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。

育児をする男性たちを意味する「イクメン」が先頃（平成22年）流行語にもなったように、昨今ではさかんに男性（父親）の育児参加が呼びかけられています。それが功を奏したのか、年ごとに少しずつながら男性労働者の育児休業（育休）取得率も上がっています。育休は、原則として父母が合計で1年間（子どもが1歳になるまで）取得でき、それぞれの家庭の事情に応じて最大2年間（2歳になるまで）認められます。平成30年度のデータによれば、女性（母親）の育休の状況は、取得率が82.2%で、取得期間は「10～12か月」が31.3%、「12～18か月」が29.8%でした。ところが、男性の育休はというと、近年は上昇してきたといいながらも、そもそも取得率がわずか6.16%しかないうえに、取得期間も「5日未満」が36.3%、「5日～2週間」が35.1%で、実に2週間未満が7割を超えています（厚生労働省『平成30年度雇用均等基本調査』）。

このように、残念ながら男性育休の現状は、まるで会社と男性社員の実績づくりのために、ほんの1週間か2週間ぼっきり、ただ形だけの育休を取って済ませているという実態があります。そうした男性育休の現状を、皮肉をこめて批判する言葉が“なんちゃって育休、です。「なんちゃって」とは、表向きを取りつくろっているのみで肝心の実質がそなわっていない「名ばかり、見かけ倒し」を揶揄する俗語です。

今回の佐賀市「令和元年度男女共同参画に関する市民意識調査」の結果について、敢えて辛口に概括するならば、全体的に「今なお“なんちゃって男女共同参画、にとどまっているのではないか」という印象を禁じえません。なるほど、意識面だけを見れば、ずいぶんと改善が見られ、「家庭、職場、地域、政治といった社会生活のあらゆる分野において、女性と男性の平等な参加と分担が進められるべきだ」という男女共同参画の理念がかなり浸透してきたといえそうです。しかしながら、そのようにアンケートで尋ねれば“正解、を答えられる人たちが、それを日々の生活において実践できているか」というと非常に不満足な結果だといわざるをえません。つまり、建前（意識）ばかりで、それに見合った内実（行動）はともなっておらず、その意味で“なんちゃって男女共同参画、という厳しい評価を下すべきでないか、と私は考えています。

なお、この佐賀市『男女共同参画に関する市民意識調査』は、5年ごとに実施されており、前回は平成26年におこなわれました。今回の市民意識調査は、平成27年度から令和2年度までを実施期間として目下推進中の「第三次佐賀市男女共同参画行動計画（パートナーシップ21）」の達成状況を確認するとともに、来年度（令和2年度）に予定されている「第四次計画」の策定に向けた基礎資料とすることが見込まれているものです。佐賀市において「男女共同参画（社会）」の実現がどれくらい進んでいるのか（あるいは進んでいないのか）を探るための、重要な指標になります。

この講評では、家庭における男女共同参画の意識と実状について中心的に検討します。加えて、地域・政治における男女共同参画の必要性、LGBTの人権、DV被害をめぐる各論点について付言してみたいと思います。

## II. 家庭における男女共同参画の意識と実状

まず最初に、【問1-B】を見てみます。問1は、回答者の結婚観・家庭観を尋ねる設問で、そのBでは性別役割分業（意識）に対する賛否を問うています。性別役割分業（意識）とは「夫が外で働き、妻が家を守る（べきだ）」とする在り方（考え方）のことで、ジェンダー規範の中心を成すものです。

ジェンダー（gender）とは「社会的性別」とも訳されますが、ある人が「女だから／男だから」という性別を理由として、その人の言動（生き方）に型枠をはめてしまう社会の制度や慣習、思考をいいます。端的に述べれば「女は女らしく、男は男らしくあれ」という見方のことです。このような性別にもとづく型枠（ジェンダー）が無くなっていけば、個人ごとに多種多様な生き方が可能になり、社会は「多様性」（ダイバーシティ）をもつようになると見込まれます。各人がそれぞれの望みに従って多様な生き方を選べる社会が、男女共同参画の最終目標です。そこで、ジェンダーを否定する人（性別によって自分や他人の生き方に枠をはめようとしらない人）がどれくらい増減したかを測定するための指標として、上記の性別役割分業（「夫が外で働き、妻が家を守る」）に反対する人たちの割合の変化を継続的に追跡しています。佐賀市でも、男女共同参画の進捗度を判断するための重要指標としており、実施中の「第三次計画」では、性別役割分業への反対割合を、令和元年度（平成31年度）までに65%とする目標を立てています。

今回の調査結果では、性別役割分業に『反対』（「どちらかといえば反対」を含む）の割合が、全体で70.3%を占めて、第三次計画の目標をクリアしました。男女比では、女性は74.9%に上り、60歳代を除いた全世代で7割を上回りました。男性も65.9%に達し、50歳代以下の各世代で7割前後となりました。経年比較でも市民全体の『反対』割合は、平成21年46.2%、26年55.3%、そして今回70.3%と、回を重ねるごとに順調に上昇しています。もはや「男は仕事、女は家庭」なんて時代では無い、と考える市民は着実に増えてきていることが分かります。

これに関連して、家庭での役割分担の理想像を訊いた【問2-①】に目を向けます。炊事や洗濯などの家事、育児や介護、町内会などの地域活動、学校行事への参加の各項目において、「妻と夫（母と父）が同じ程度に分担」と「家族全員」を合計した『家族内分担』型を「あるべき姿」とする回答が7割弱から8割強に及んでいます。また、仕事と家庭生活などの優先順位について「希望」を尋ねた【問4】では、男性でも（旧来の「男は仕事」という性別役割分業を意識しつつ、ここでは敢えて「男性でも」と記します）、70歳代を除いた全世代で「家庭生活を優先したい」という回答が最多となり、40歳代や60歳代では5割前後、30歳代では6割近くに上っています。逆に【問11】では、「女性が職業に就くこと」について自分の考え方に近いものを、以下の選択肢から、すなわち「女性は職業に就かないで、家事に専念すべき」「職業に就くのは結婚・妊娠・出産まで」「出産・育児の時期は一時退職して、子どもが成長してから再就職」「結婚・出産後も育休などを利用しながら仕事を継続」「その他」の中から選んでもらっています。過去2回の調査（平成21年と26年）では、このうち「再就職」型を選ぶ回答者がいちばん多かった（44.3%、44.1%）のですが、今回は初めて「育休等も使いながら仕事継続」という回答が最多となり、しかも半数に達しました（50.2%）。女性自身は全体で51.6%、60歳代を除いた全世代で5～6割前後が「仕事継続」を選んでいます。加えて、男性の場合も全体の47.8%、20歳代から50歳代のいわゆる「子育て世代」ではおおむね5～6割が「仕事継続」を選んでおり、特に30歳代では65.5%に達しています。

これらの回答結果はいずれも、性別を理由として個人の生き方に枠をはめてしまうジェンダーを拒絶する意識、とりわけ「男が外で働いて家計をまかない、女が家事・育児・介護を担うべきだ」という性別役割分業を否定する意識の浸透をうかがわせます。つまり「男性も（仕事をするとともに）家庭での役割を負うべきであり、女性も（家庭での役割を分担しつつ）仕事を続けて良いのだ」という認識が拡がりつつあることを示しています。こうした結果は、市民と行政とが協働して男女共同参画の進展に努力してきた成果として、まずは高く評価されるものです。

しかし反面で、この結果を手放しで賞賛するばかりでは済まされない現実もあります。

上記【問2-①】は、家庭での役割分担の理想像に関する設問でしたが、次いで【問2】では、家庭での役割分担について、実際の状況を尋ねています。すると、前述の各項目について、炊事や洗濯などの家事で69.5%、育児や介護で50.6%、町内会などの地域活動で33.4%、学校行事への参加で51.3%の回答者が「主に妻（母）」を選んで最多となっています。また同じように【問4】では仕事と家庭生活などの優先順位について「希望」を訊いていましたが、つづく【問5】では現実の優先順位を問うています。その結果、家庭優先を「希望」する割合が最多であった男性も、全体の43.8%までが実際には「仕事優先」であり、わけても男性の30歳代で48.3%、40歳代で46.7%、そして50歳代では64.9%が「仕事優先」と答えています。

このような（理想や希望からほど遠い）実態を如実に反映しているのが、1日あたりの家事従事時間を質問した【問3】です。本問では「A. 平日」と「B. 休日」に分けて「1日に平均してどれくらいの時間を家事（育児・介護を含む）にかけていますか」と尋ねました。その結果を「平日」について見てみると、女性全体では「3時間以上」が最多で34.9%、次いで「2～3時間」19.6%、「1～2時間」19.0%となり、女性の54.5%が『2時間以上』家事をおこなっていることがわかります。世代別に見ると、「結婚」している（パートナーと同居生活している）場合が多いと考えられる30歳代以上において、多くの女性が非常に長い時間を家事に費やしている（割かされている）現状が顕著です。「3時間以上」と「2～3時間」を合算した『2時間以上』の回答割合は、30歳代で64.5%、40歳代で78.9%、50歳代で56.3%、60歳代で61.1%、70歳代で62.1%に達しています。平日に溜まった家事をまとめてこなすためなのか、「休日」の家事従事時間はいっそう長くなる傾向が見られます（休日について女性全体では61.3%が『2時間以上』）。

これとちょうど「裏返し」になっているのが、男性の家事従事時間です。同じく「平日」を見てみると、男性全体では、「全くしていない」24.6%、「30分未満」27.6%、「30分以上、1時間未満」22.4%となっており、これらを足し合わせた『1時間未満』が実に4分の3（74.6%）にも上りません。ここでも「結婚」している割合が多いと思われる30歳代以上を各世代別に見ると、30歳代で65.4%、40歳代で66.7%、50歳代で80.7%、60歳代で80.3%、70歳代で56.7%が『1時間未満』と答えています。

30歳代以上に限って家事従事時間を見てみると、女性の64.5%が『2時間以上』、男性の70.0%が『1時間未満』という結果であり、きわめてはっきりと好対照を成しています。ここには「家事をしない男性」の像を認めざるをえません。これは欧米諸国とも共通する状況です。2000年代における「6歳未満の子どもをもつ夫婦の1日あたりの家事・育児関連時間」を国際比較したデータがあります（内閣府・男女共同参画局『男女共同参画白書 令和元年度版』）。米国、英国、スウェーデンでは、夫婦合計の家事・育児時間がおよそ9時間であり、日本とほぼ同程度です。これら3国における夫（男性）の家事・育児時間を見ると、米国が3時間10分、英国2時間46分、スウェーデン3時間21分と、いずれも妻（女性）に比べてだいぶ短いのですが、そのなかでも日本の夫はといえ、わずか1時間23分（!）と突出して短く、妻（7時間34分）の5分の1にも満たないのです。

家事従事時間（育児・介護を含む）に、男女間でここまでの隔差があれば、過重な家事負担を一方的に背負わされている女性（妻）の側が不公平感を抱くのも道理です。家庭生活における男女間の平等度について質問している【問37-A】では、女性全体の55.7%が『男性が優遇されている』（「どちらかといえば」を含む）と回答しており、特に60歳代女性では70.3%に上っています[\*]。

[\*] 家庭生活に対する不平等感（『男性が優遇』という回答割合）が60歳代女性において、やや突出して高くなっている要因については、以下のようにも推測されます。女性の就労促進に大きな効果を発揮し、女性も働くことを「常識」とすることに貢献した「男女雇用機会均等法」は1985年に制定（翌年施行）されたものであり、現在の50歳代の多くが、同法の下で就職した「均等法第一世代」です。60歳代女性とすれば、いくらか生まれる時代が早かったために、均等法の恩恵に浴することが叶わず、結婚などを機にキャリアをあきらめて家庭に入ったケースも多かったかもしれません。そうした時代状況に対する不満も背景の一つにあるのかもしれません（ただし、女性が結婚や出産をきっかけに、仕事の継続を断念し、専業主婦等として家庭に入ることは、均等法制定後も続いています）。また、この家庭生活における男女平等度を尋ねた【問37-A】を仔細に見ると、男性の20歳代と30歳代において、逆に『女性が優遇されている』（「どちらかといえば」を含む）という回答が、かなりはっきりと一定の比率を占め

ていることが眼を引きます。20歳代で27.3%、30歳代で27.5%と、4人に1人までが『女性優遇』と感じています。先述のとおり、家事負担が女性に偏重している現状を見ても、決して現実には『女性優遇』とは言いがたいと思いますが、若い世代の男性に見られるこうした不平等感（『女性優遇』の見方は、現在の生活に対する何らかの不平・不満の投影かもしれない）、少し注意を向けておきたいところです。

また、この家事従事時間の大きな違いとの関連性を思わせて興味深いのが、誰からの介護を希望するかを尋ねた【問 19】です。本問では「もし在宅で介護を受けることになった場合、誰に介護をしてもらいたいか」を訊いています。回答結果を見ると、男性全体の約半数（49.6%）が「配偶者」と答え、60歳代では64.3%に及んでいます。これに対して、女性では、「配偶者」を選んだのは、全体のわずか15.9%にとどまり、とりわけ50歳代ではたったの8.8%です[\*]。女性の多く（全体の53.8%、50歳代では77.5%）は「ヘルパーなど介護専門職」からの介護を望んでいます。ここからは、まさしく“夫の片思い”という現状が見えてくるようです。男性の多くが、老後の世話を妻に頼りたいと考えている反面で、妻のほうは夫に期待していないのです。しかし、ほとんど家事・育児をしない（しなかった）夫の姿を見せつけられては「この人を当てにはできない」と考えるのも、むべなるかな、というところかもしれません。

【\*】なお、今回の意識調査において「配偶者」という場合、法律婚のみならず事実婚等のカップルを広く包摂するものであり、「配偶者」として、異性パートナーを想定した回答が多いかもしれませんが、同性のパートナーを念頭に置いた回答も含まれている可能性があります。

再確認しておけば、確かに性別役割分業（「男が外で働き、女が家を守るべきだ」）に『反対』と答える人たちは少しずつ増えて、女性で74.9%、男性も65.9%に上りました。しかしながら、性別役割分業を否定する男性たちが、みずから身体を動かして家事を引き受け、女性たちも、男性パートナーに家事を分担させているかといえ、決してそうは言えない。既述のとおり、「結婚」（パートナーとの同居生活を含む）している割合が多いだろうと推定される30歳代以上では、女性の64.5%が『2時間以上』家事をしている一方、男性の70.0%は『1時間未満』しか家事をしていません。つまり、性別役割分業について質問すれば『反対だ』と“正解”を答えられる人たちは増えていますが、それは言ってみれば口先だけのものに過ぎず、実行動に裏づけられたものとは評価しがたいのです。本稿の冒頭部において、名ばかりで見かけ倒しの“なんちゃって男女共同参画”ではないかと疑念を呈した所以です。付言しておけば、子どもの育て方について尋ねる【問 6-C】では「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい」という考え方について、『賛成』（「どちらかといえば」を含む）とする割合が、前々回・前回の調査から漸減しているとはいえ、今回もなお依然として全体で52.1%（女性44.6%、男性61.0%）に上りました。この設問が言う「女の子／男の子らしく育てる」とは、まさにジェンダー（性別を理由として個人の生き方に枠をはめること）そのものというべきですが、こうしたジェンダーの囚われから、行動面のみならず、意識面でも（むしろ意識面においてこそ）、なかなか脱却しづらいことがうかがわれる結果のように思います。

なぜ男性たち（夫）は家事や育児をしないのか。この疑問に対する一つの手がかりになりそうなのが、男性が育児や介護をすることについて尋ねた【問 9】と【問 10】です（いずれも複数回答）。前者の【問 9】では、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、多くの人たちが「男性自身の成長のためにも望ましい」（45.4%）し、そもそも「家族として当然である」（40.1%）と考えている反面、実際には「職場の上司や同僚に理解がないのでとりにくい」（36.4%）、「職場において育児休業・介護休業の制度が整備されていないためとれない」（32.4%）と悲観しています。後者の【問 10】でも「介護のための転職・離職が増加している原因」について「職場において介護休業などの制度が整備されていない」（58.1%）、「職場の上司や同僚に介護に対する理解がない」（37.1%）と、前問と同様の回答が多くなっています。仮に男性が育児や介護（さらには家事全般）をしたいと望んでも、それをなかなか許さない職場環境が今なお厳存していることが推察されます。

日本の企業社会の宿弊ともいえるべき長時間労働が、性別役割分業（意識）を残存させ続ける大きな要因になっていることは長らく指摘されてきました。男女がともに夜遅くまで工場や会社などで残業しては、家のこと（炊事や洗濯、子どもや老親の世話など）をまかなえないため、どうしても女性（妻・母）に家のことが任されがちになります。すると、どうしても女性は家のことを優先

して仕事を辞めたり、家のこととの両立を考えて短時間勤務を選んだりせざるをえなくなります。かくして、雇用現場は（意思決定や主要任務をおもに男性労働者が担う）男性中心型となり、片や女性のほうは、結婚や出産を機とした職歴（キャリア）途絶や、待遇において不満足さや不安定さがある非正規雇用などに追いこまれてしまいます。苛酷な長時間勤務を強いるブラック職場やそれによる過労自殺・過労死が（ふたたび）世間の耳目を集めるなかで、国は平成30年に「働き方改革法」を制定し、翌年から順次実施されています。残業時間に歯止めをかける時間外労働の上限規制や、終業時間から始業時間までに一定の間隔を空けるように定める勤務間インターバル制度などが盛り込まれています。こうした国の施策が「掛け声倒れ」に終わらないよう、つまり「なんちゃって」働き方改革に堕さないよう着実に実行されれば、それは、男女共同参画の推進（特に家庭内におけるパートナー間・家族間における役割分担）にも直接間接にプラスの効果をもたらすものと期待されます。

### Ⅲ. その他の留意すべき調査結果について

#### （a）地域・政治における男女共同参画の必要性

続いて、地域や政治における女性の参画状況に眼を向けます。居住先の地域においてどのくらい女性が活躍しているかを尋ねた【問20】から、いくつかの項目（分野）を拾ってみます。女性が『とても＋ある程度活躍している』の割合は、たとえば「A. 自治会」では68.0%に達しました。この数値だけを見ると、地域の自治会において女性活躍がかなり進んでいるように思われます。ところが、「地域や社会活動の場」における男女平等度を訊いた【問37-D】においては、女性全体の47.0%（男性も43.8%）が『男性が優遇されている』（「どちらかといえば」を含む）と答えており、相当数の女性が、地域における男女平等・女性参画の現状に不満を感じていることが分かります。これに関連して、内閣府ホームページ「市町村女性参画状況見える化マップ」によれば、佐賀市内の各自治会の自治会長に占める女性の割合は、平成30年時点でも664人中31人で、わずか4.7%にとどまっている実態があります（こうした実態を反映するように、【問23】を見ると、市政に女性の意見が『あまり＋ほとんど反映されていない』と考える市民[全体の37.7%]のうち28.8%が「自治会のリーダーに女性が少ない」を挙げています）。この点を踏まえると「女性が活躍している」という場合に、その活躍の「質」を問うべきであることが見えてきます。具体的には、女性が、各組織等の意思決定をおこなう場に、ちゃんと参与できているかどうかが問題とされるべきです。公民館や地域での催し物など、地元の女性たちが自治会活動で忙しく立ち回っている状況は見られるかもしれませんが、その多くは、もしかすると炊き出しやこまごまとした下準備といった「裏方仕事」にとどまっていなかったかどうか。自治会の運営方針を決める会合に、十分な人数の女性たちが参加したうえで、しっかり発言権をもっているかどうか。このような視角での検証が必要になるでしょう。

意思決定の場における女性参画という観点からは、自治体の政策決定に女性の意見が反映されていないと捉えている市民の多いことが注目されます。上述の【問20-F】では「政治・議会」において、女性が『あまり＋ほとんど活躍していない』と見ている市民が7割（70.7%）に上ります。この結果と対応するように、後続の【問22】では、市民の37.7%までが、「市の予算の使い方や市民の方針を決める」場合に「女性の意見や考え方」が『あまり＋ほとんど反映されていない』と考えています。こうした実状を受けて、【問21】では「どのような分野で、もっと女性が活躍した方が良いと思いますか」という問いかけ（複数回答）に対して、55.0%までの市民が「政治・議会」を挙げており、ダントツの一位となりました。現時点（令和元年度末）において、佐賀市議会における女性議員はわずか3名（定数36名中）にとどまります。

社会の各分野における男女平等度を尋ねた【問37-E】では、「政治の場」において『男性が優遇されている』（「どちらかといえば」を含む）と考える割合が、全体で72.7%に達し、特に女性では79.5%と8割近くに上りました（男性は65.1%）。直近で同じ質問をおこなったのは前々回調査（平成21年度）であり、前々回に比べて『男性が優遇』の割合は5.2ポイント増ですが、今回の調査で、端的に「男性が優遇されている」という選択肢（「どちらかといえば」では無く）を選んだ市民の割合は、前回比12.4ポイント増の40.1%であり、女性全体の46.1%がこの「男性が優遇されている」

の選択肢をはっきりと選んでいます。市民のあいだ、とりわけ女性のあいだに、男性主導型の政治の現状に対する強烈な不公平感の広がっていることが見て取られます。こうした政治に対する不満を反映するように「法律や制度に関して」男女平等度を問うた同じ【問 37-F】でも、『男性が優遇』の回答割合は、市民全体で 41.8%（前々回比 4.4%増）となり、女性に限って見れば 48.7%と半数近くを占めました（男性は 33.5%にとどまり、男女間で明らかな意識差が見られました）。法律や制度は、政治（家）による政策決定の産物とも言えますから、【問 37】において「E. 政治の場」と「F. 法律や制度に関して」における不平等感（男性優位）は、たがいに連動しあっているものと言えるでしょう。

佐賀市（地方レベル）のみにとどまらず、まずは何よりも、国政の場（国会や内閣）に女性議員や女性閣僚が圧倒的に足りないという現実があります。たとえば、平成 30 年 1 月 1 日時点で見ると、衆議院の女性議員数は、総数 463 人（定数 465 人）中、わずか 47 人（10.2%）しかおらず、これは世界 193 カ国中、実に先進国では最低水準の第 165 位という惨澹たる状況です。また、内閣の閣僚に占める女性大臣の割合は 19 名中 1 名（5.3%）であり、これは 193 カ国中 171 位でした（国際順位は、いずれも列国議会同盟〔I P U〕の調査集計による——なお、令和元年度末時点の女性閣僚数は 2 名）。ある研究者が、ずばり「オッサン政治」と評する所以です（憲法学者・谷口真由美氏）。こうした実状を改めるべく、先ごろ「政治分野における男女共同参画推進法」が制定されました（平成 30 年 5 月成立・施行）。国政や地方の選挙において、女性と男性の候補者数を「できる限り均等」とするよう各政党に努力義務を課する法律です。同法は、なるほど半歩前進とは言えますが、しかし各政党の自主的な取組みに期待するという理念法にとどまっており、その実効性に対しては疑問符が付けられてもいます（同法施行後初の国政選挙となった令和元年 7 月の参議院選挙では、女性議員 28 人〔定数 245 名〕が当選し、女性議員数は過去最多とはなったものの、比率はわずか 22.6%でした）。こうした政治分野における女性参画の遅滞が大きく響くかたちで、男女共同参画の進捗状況を総合的に国際比較したグローバル・ジェンダー・ギャップ指数（GGI）における日本の国際順位は、平成 21 年 101 位（政治分野 110 位）、平成 26 年 104 位（同 129 位）、そして令和元年には 121 位（同 144 位）と低落傾向である上に過去最低となり、もはや世界的潮流から大きく取り残されつつあります。

## （b）LGBTの人権をめぐる

次に、LGBTに関する設問を検討します。LGBTという言葉を知っているかを尋ねた【問 24】では、「内容まで知っている」53.7%、「内容までは知らないが聞いたことがある」24.3%となり、だいぶ認知度が高まっていることがうかがわれます。

LGBTとは「性的少数者」（セクシュアル・マイノリティ）のうち、代表的なタイプを英語表記した頭文字です（性的少数者全体の総称として「LGBT」の語が用いられることもあります）。性的少数者という場合の「性的」は、「性別に関して」を意味します。ですから「性的少数者」とは、「性別に関して、世の中の多数派とは違う特徴を持つ人たち」というように、まずおおまかに定義することができます。このとき、性別に関する「多数派」とは「シスジェンダーで、かつ、ヘテロセクシュアル」の人たちをいいます。前者「シスジェンダー」とは、出生時に割り当てられた性別（からの性別や戸籍上の性別とほぼ同じもの）と「こころの性別」に不一致が無いことをいいます。また、後者「ヘテロセクシュアル」とは異性愛のことで、女性が男性を、あるいは、男性が女性を恋愛やセックスの対象とする場合のように、自分の「こころの性別」（性自認）とは異なる性別（異性）の人だけに恋愛の感情が向かうことをいいます。簡略に言えば、性別に関する多数派（シス・ヘテロ）とは、戸籍に登録された自分の性別に対する違和感が無く、かつ、異性に対してのみ恋愛感情をもつ人たちのことです。

他方、性的少数者とは、出生時に割り当てられた性別と「こころの性別」とのあいだに不一致がある、あるいは／ならびに、その「こころの性別」と同じ性別（同性）の人に恋愛感情が向かう人たちであると、ひとまず（まだ不完全な説明ですが）言えます。性的少数者の代表的なタイプである「LGBT」は、それぞれ、女性同性愛者（レズビアン）の「L」、男性同性愛者（ゲイ）の「G」、同性と異性の両方に恋愛感情が向かう両性愛者（バイセクシュアル）の「B」、それから、出生時に

割り当てられた性別と「こころの性別」に不一致があって、「こころの性別」で暮らしていきたいと望んでいる性別違和者（トランスジェンダー）の「T」を組み合わせたものです。こうした人たちは「少数者」とされますが、いくつかの調査結果によれば、全人口の8%前後くらいだとされており、おおよそ12人に1人という割合になります。

従来の「男女平等」や「男女共同参画」では多くの場合、その「男女」の語が示すように、人の性別は「男か女か」という2つの種のみに分けられ（性別二元論）、恋愛や結婚はその男女間に成立するという見方（異性愛主義）を前提として考えられてきました。しかし、男女という二つの性の組み合わせだけで「男女平等」や「男女共同参画」を考えていては、その視野からこぼれ落ちてしまう人たちがいること、すなわちLGBTなど性的少数者の存在にも眼を向けるべきことが、近時ようやく認識されるようになってきたのです。

今回の意識調査の【問 25-D】において「同性婚の法制化」に対する賛否を訊いていますが、『賛成』（「どちらかといえば」を含む）が市民全体で60.3%に上りました。性別比では、女性69.2%、男性49.6%で、女性の賛成率が明確に高く、男女を通じて、若い世代ほど賛成率が高いという結果でした。

また、つづく【問 25-E】では「パートナーシップ証明制度の導入」に対する賛否を尋ねています。この制度は、2015年に東京都渋谷区で開始されたのを皮切りに、全国各地で導入されつつあります。女性どうしのカップル、あるいは、男性どうしのカップルが、居住先の自治体に申請すると、自治体が「当の同性カップルは、男女間の結婚に相当するパートナー関係にある」ことを確認する「証明書」を公的に発行する、という制度です。ただし現在のところ、この「証明書」の法的効力は皆無とあってよく、男女間の法律婚カップルであれば自動的に認められる遺産相続や配偶者控除など、たとえ「証明書」を取得しても同性カップルにはいっさい認められません。したがって、あくまで象徴的な意味合いしか持たないものですが、同性愛者や両性愛者（をはじめ性的少数者全体）に対する社会的承認を拡げる第一歩として、多くの当事者から切望されている制度です。この「パートナーシップ証明制度」について、意識調査では、『賛成』（「どちらかといえば」を含む）が市民全体で65.0%を占めました。性別比では、女性71.7%、男性56.6%で、女性の賛成率が有意に高く、男女ともに若い世代ほど賛成率が高いという、前問（同性婚への賛否）と同様の傾向が見られました。令和2年1月20日時点では、全国33の自治体で実施されており、本市でも早急な検討が求められます。

これまで折々に述べてきた「ジェンダー」は、各人の生き方に「男らしさ／女らしさ」という型枠をはめるものです。たとえば、「女は「女らしい」服装をせよ」というジェンダーは、生まれたときに届け出られた戸籍上の性別は「女性」だけれど、本人の「こころの性別」（性自認）としては男性であり、男性として生活していきたいトランスジェンダー（性別違和）の中高生などが、学校の制服として、性自認に反するスカートをはくよう強えられる、といった事態を招くものでもあります。トランスジェンダーの児童生徒のこうした苦痛を緩和する一方策として、最近「制服選択制」を採用する学校が少しずつ増えてきました。これは、トランスジェンダーの児童生徒だけに限定すること無く（制服に関してはトランスジェンダーの児童生徒に「カミングアウト」を強いること無しに）、その学校のすべての児童生徒を対象に、女子についてはスカートかスラックスか（さらに、男子については学生服かスカートか）などを、児童生徒それぞれの属性（性自認など）や趣味（おしゃれ感覚）、あるいは、その日の体調や天候などに応じて、自由に選択できるようにする仕組みです。この「制服選択制」に対する賛否を問うているのが【問 25-A】です。結果は、『賛成』（「どちらかといえば」を含む）が市民全体で73.3%に上りました。性別比では、女性78.4%、男性66.9%で、ここでも女性の賛成率が高くなりました。制服選択制は、佐賀県でも新年度（令和2年度）から数校で導入予定とされ、佐賀市内では成章中学校で、他市では嬉野中学校や小城高校で始められます（佐賀新聞2020年2月6日付）。なお、次問【問 25-B】で賛否を尋ねた「男女混合名簿」についても、佐賀県下の全公立学校において、令和2年4月までに導入が完了する予定と伝えられています（佐賀新聞2020年1月22日付）。

ジェンダーは、性別役割分業（「男は仕事、女は家庭」）に明らかに見られるように、異性間（男女間）の恋愛や結婚を当然視してしまうものでもあります。ジェンダーが前提としている異性愛主義が、同性愛者などを苦しめることにもなります。したがって、世の中のジェンダーを取り除いていくことは、LGBT（性的少数者）の人たちにとっても暮らしやすい社会をつくることになるのです。これからの男女共同参画の推進は、LGBTにも十分に目配りしたものであるべきです。

### （c）DV被害について

夫婦間・恋人間における暴力である「ドメスティック・バイオレンス」(DV)についても一言しておきます。DVの被害/加害体験を尋ねた【問 28】を見ると、「A. 殴る、蹴る。物を投げる、物を壊す」といった身体的DVについて、女性全体で、被害 5.5%/加害 2.6%、男性全体で、被害 4.0%/加害 4.0%。また、「B. 怒鳴る、無視する、脅す、人格を否定するような暴言を吐く」といった精神的DVについて、女性全体で、被害 16.1%/加害 9.5%、男性全体で、被害 9.9%/加害 18.4%という結果でした。DVについては「男性が加害者、女性が被害者」という構図で語られることが一般的です[\*]。ところが、今回の結果からは、意外なことに、一定数の女性にも加害の体験がある一方で、男性も少なからず被害者になっている……ようにも見えます。しかしながら、この結果について、佐賀県DV総合対策センター所長で、佐賀市男女共同参画審議会の委員でもある原健一さんは「DVのあるカップルは相互加害（被害者も加害行為をおこなう状態）に陥りやすいこと」「男性が被害を受けるケースもむろん見過ごせないが、DVの全般的な現状としては、やはり女性が被害者となるケースが圧倒的に多いこと」を指摘されていました。専門的見地からの重要な指摘であると考えます。

[\*] なお、DVは、男女の異性カップル間のみならず、女性どうし/男性どうしの同性カップル間でも起こります。今回の調査結果についても、回答者の中には、同性のパートナーからのDV加害について答えた人がいる可能性があります。

また、DV被害を受けた場合の対処を訊いた【問 29】(複数回答)でも、やや心配な結果が出ています。質問の選択肢を変更したため単純比較はできませんが、「相談等をしたかったが、我慢した」が、前々回(平成 21 年: 70.3%)、前回(平成 26 年: 62.8%)と比較して、今回は 18.8%と「激減」しました。代わりに多数を占めた回答は「相手方に直接、抗議した」33.0%(今回新設した選択肢)と、「謝ったり、なだめたりした」25.9%(前々回 18.9%、前回 22.1%)でした。なるほど、DV被害を受けたときに「我慢」せず、相手方(加害者)にじかに「抗議」できる被害者が多いのならば、DVの発生しにくい対等な(たがいに言いたいことを言い合える)関係性を築けるカップルが増えている、という肯定的な見方も成り立つかもしれません。しかし、加害者に対する「抗議」によってその場は何とか暴力が収められても、その後ふたたび暴力がくりかえされたり、「抗議」したことによって、さらに暴力がエスカレートしたりしたケースが無いのかどうか、非常に気懸かりです。また、暴力に関しては加害者側に完全に非があり、責められるべきは加害者であるのにもかかわらず、被害者の側が「謝ったり、なだめたり」するというのは、いかにも理不尽な事態であり、相手方からの暴力から取りあえず逃れたいという気持ちから発した、単なる当座しのぎの対処法に過ぎない(ゆえに肯定しうる「正しい対処法」とは到底いえない)と私は考えます。

従来DVについては、被害者が一人きりで苦悩を抱え込むことが無いよう、友人知人や外部機関などに相談することを呼びかけ、被害者になるべく安心して訪ねて行けるような相談機関の整備が進められてきました。しかし、今回の調査結果では、選択肢(「相手方に抗議」)の追加という事情があったにせよ、「家族・親族に相談した」「友人に相談した」「婦人相談所や市役所などの相談窓口で相談した」「医師やカウンセラーに相談した」「民間の支援グループに相談した」「警察へ通報した」といった『だれかに/どこかに相談した』という回答は、一部で微増したほかは、かなり減少するか、きわめて低率にとどまっています(具体的には「家族・親族へ相談」は前回 20.4%から今回 10.7%、「警察へ通報」は前回 5.3%から今回 0.9%へと減少)。加えて「相談しようとは思わなかった」という回答は、前々回 7.4%、前回 12.4%に対して、今回は 17.0%まで増加してしまっています。この「相談しようとは思わなかった」という回答の漸増と、前述の「相手方に抗議」「謝った、なだ

めた」の高い割合とを考え合わせると、DV被害者が（外部に相談しようという発想に至らないまま）内部的に自力で対応しようとする傾向を強めているのではないかと、とも危惧されます。

では、なぜ相談に至らないのか。この点を尋ねたのが次の【問 30】です。本問では、前問において「相談等をしたかったが、我慢した」および「相談しようとは思わなかった」と回答した人たちに対して「それはなぜか」を問うています（複数回答）。「相談するほどのことではないと思ったから」（50.0%）や「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」（36.8%）といった回答が上位を占めるなかで、「どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから」が15.8%で、前々回3.8%、前回7.6%と、回を追うごとに倍増している点が、たいへん気になります。同時に、「相談しても無駄だと思ったから」が34.2%となり前回（40.5%）より減少はしたものの一定割合を保っている点、さらに「相談されたことがわかると、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから」が少しずつながら増加し続けている点（前々回4.7%、前回7.6%、今回7.9%）も懸念されるポイントです。どこにどのようなDV被害の相談窓口が設置されており、相談窓口ではどのような救済や支援のメニューを用意しているのか、また、相談したことによって被害が憎悪するようなことが無いようにプライバシー（秘密厳守）にも十分な配慮がおこなわれることなど、佐賀市をはじめとした行政の相談窓口についてのアピール（広報・周知）に改善の余地がないか、再度の点検が必要だと思われる。

#### IV. おわりに——意識を行動へ

今回の意識調査では、性別役割分業への『反対』（前回比15ポイント増の約7割）をはじめ、女性就労への考え方（「結婚・出産後も仕事継続」への支持が5割を超えて初のトップ）、同性婚法制化への『賛成』（約6割に達した）など、性別・結婚・家族などをめぐって柔軟な意識の拡がり確認され、男女共同参画社会（ジェンダーに囚われず個々人の生き方が尊重される社会）への前進として、おおいに評価されます。

しかし、既述（Ⅱ節）のとおり、そうした意識面での変化が、具体的な行動として表われているとは未だ言えない状況です。このことは、男性の4人に3人（74.6%）までの家事従事時間が今もなお「1時間未満」にとどまっている現状が端的に象徴しています。

本年、令和2年（2020年）は、女性活躍推進法（2015年）から5年、男女共同参画基本法（1999年）から21年、男女雇用機会均等法（1985年）から35年、そして、性差別の禁止を含めた「法の下での平等」を掲げる日本国憲法の施行（1947年）からは実に73年を迎えます。もはや、意識面における改善のみをもって成果を誇れるような段階では断じてありません。

単に意識ばかりで実際の行動がともなわない「なんちゃって男女共同参画」の克服に向けて、より真剣に知恵をしぼらなければならないと痛感させられる調査結果です。



## Ⅱ 調査の概要



## Ⅱ 調査の概要

### 1 調査目的

佐賀市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の男女共同参画施策及び第四次佐賀市男女共同参画計画策定の基礎資料とするために実施した。

### 2 調査対象

- (1)母集団 佐賀市内に居住する16歳以上の男女
- (2)標本数 2,300人
- (3)抽出方法 等間隔無作為抽出法

### 3 調査時期

令和元年7月11日(木)～令和元年8月5日(月)

### 4 調査方法

郵送による配布、回収

### 5 回収結果

有効回収票…626票

有効回答率…27.2%(626票/2,300票)

### 6 報告書の見方

- ・文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は百分比のポイント以下2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならないことがある。
- ・男女別、年齢別のグラフは一部省略したところがある。
- ・2つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は100%を超える。
- ・数表に記載された「N」「n」は、回答割合算出上の基数(回答数)である。

$N$  = 標本全数                       $n$  = 該当数(その質問を回答しなくてよい人を除いた数)

- ・前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出した。
- ・文中では選択肢(変数)を「 」で示した。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがある。また、2つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示した。
- ・比較分析において利用した調査名は次のとおりである。

国の調査－令和元年度 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

県の調査－平成26年度 佐賀県「男女共同参画社会づくりのための県民意識調査」

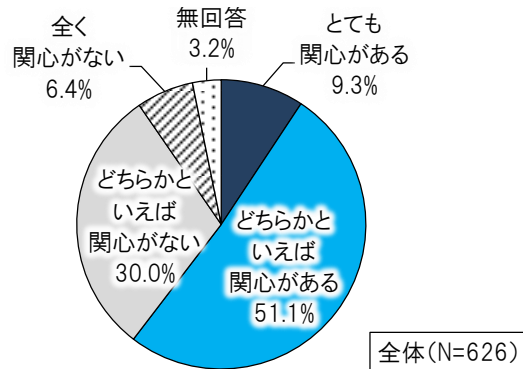
平成26年度調査－平成26年度 佐賀市「男女共同参画社会づくりのための市民意識調査」

平成21年度調査－平成21年度 佐賀市「男女共同参画社会づくりのための市民意識調査」

## 7 回答者の属性

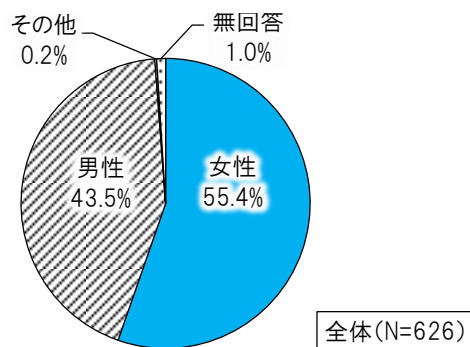
### (1) 男女共同参画に対する関心度【新規設問】

男女共同参画について「とても関心がある」、「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心』は60.4%であり、女性(65.7%)が男性(54.8%)を10.9ポイント上回っている。



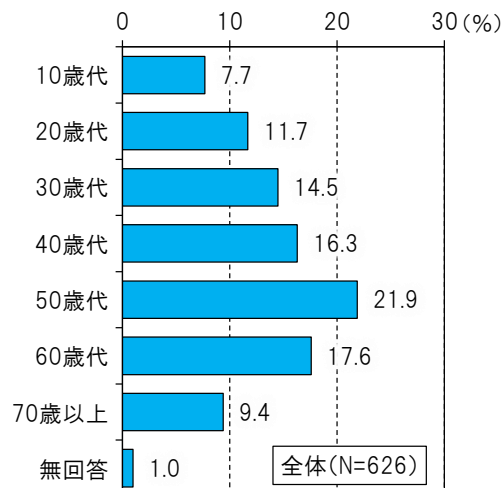
### (2) 性別

アンケート回答者の性別は、「女性」(55.4%)が「男性」(43.5%)を11.9ポイント上回っている。



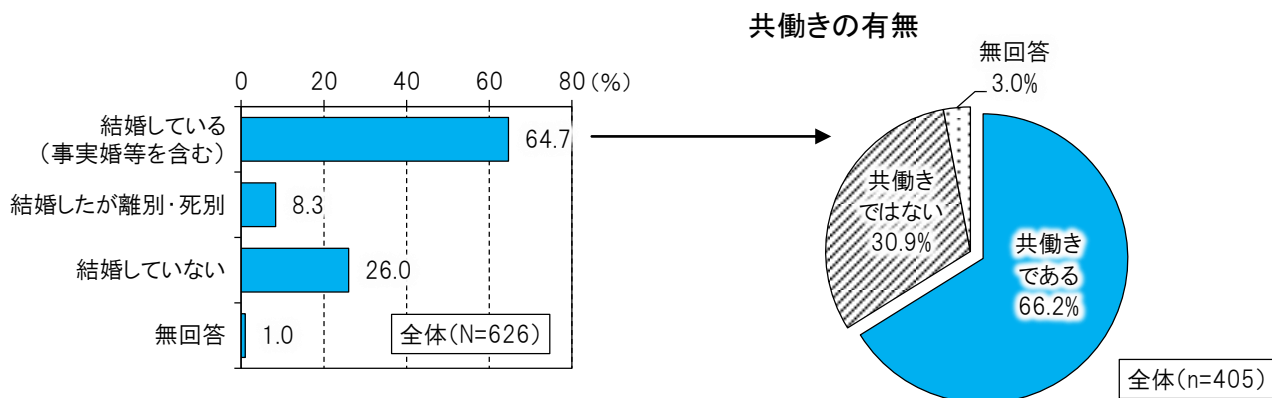
### (3) 年代

アンケート回答者の年代構成は、「10歳代(16歳～19歳)」が7.7%、「20歳代」が11.7%、「30歳代」が14.5%、「40歳代」が16.3%、「50歳代」が21.9%、「60歳代」が17.6%、「70歳以上」が9.4%となっている。



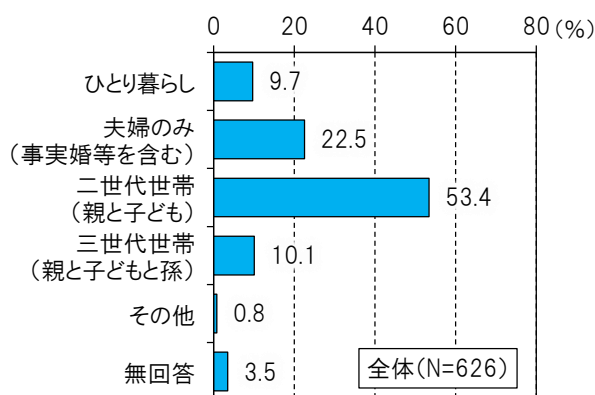
#### (4) 既婚・未婚の別と共働きの有無

アンケート回答者の未既婚状況は、「結婚している」が 64.7%であり、女性(63.4%)、男性(68.0%)ともほぼ同様となっている。また、結婚している人の共働き状況は、「共働きである」が 66.2%であり、女性(65.9%)、男性(66.5%)ともほぼ同様となっている。



#### (5) 家族構成

アンケート回答者の家族構成は、「二世世代家族(親と子ども)」が 53.4%で最も多く、次いで、「夫婦のみ(事実婚等を含む)」が 22.5%、「三世世代家族(親と子どもと孫)」が 10.1%、「ひとり暮らし」が 9.7%となっている。





### Ⅲ 調査の概要と課題



## Ⅲ 調査の概要と課題

### 1. 結婚や家庭生活について

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に反対の割合が7割を超えた。固定的性別役割分担意識は解消に向けて前進している。
- 家庭生活での家事・育児・介護は「家族全員」で分担するべきだと考えられているものの、実際は女性はその役割の大半を担っている。男性の意識啓発とともに行動を促す施策が求められる。
- 「家庭生活」を優先したいという希望に対して、現状は「仕事を優先」している。事業所に対し、仕事と家庭生活等の両立に配慮した職場づくり(ワーク・ライフ・バランスの推進)を促すための啓発が必要である。

### 2. 教育・子育て・介護について

- 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい」と考える人は前回調査より減ってはいるものの、約5割が賛成であり、特に女性の50歳代以上、男性の30歳代以上で高くなっている。今後も、引き続き子どもだけではなく親や祖父母世代を対象とした意識啓発を続けていくことが重要である。
- 男性が「育児休業」「介護休業」を取ることに、「男性自身の成長のためにも、取ることが望ましい」「家族として当然である」がそれぞれ4割を超えたが、一方「職場の上司や同僚が育児休暇や介護休暇をとることに理解がないのでとりにくい」「育児休業や介護休業の制度が整備されていないためとれない」もそれぞれ3割を超えていることから、事業主に対する、育児休業・介護休業制度及び取得しやすい職場環境整備の推進と啓発が必要である。

### 3. 職業生活について

- 女性が職業に就くことについて「結婚や出産後も、産休や育休なども利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」が5割を超えた。ただし、男女共同参画が進まない中で女性が仕事を継続していくことは、女性の仕事と家事の負担をますます増大させるため、男性には家事参画、事業所には女性が働きやすい制度や職場環境の整備が求められる。

### 4. 健康・福祉について

- 在宅で介護を受けるようになった場合、女性はヘルパーなどの介護サービスに期待する人が多いが、男性は約半数が配偶者による介護を希望している。男性の家事時間の少なさからも、男性が女性に家事や身の回りのことを頼っている様子がうかがえる。このため、男性の家庭における自立を促す施策や、利用しやすい介護サービスの仕組みを整備していくことが必要である。

### 5. 女性の活躍について

- 地域での女性の活躍状況について「自治会」や「子ども会、PTA、部活動の役員など」「民生委員・児童委員」「体育協会・スポーツ関係の行事」ではある程度活躍しているが、「消防団・防災関係」「政治・議会」の分野ではあまり活躍していない。防災や政治における女性参画の必要性について啓発を行っていく必要がある。

## 6. LGBT について

- 「LGBT」は聞いたことがある人も含めると認知度は約8割であり、若年層を中心に理解が広がっている。「制服選択制の導入」「男女混合名簿の使用」「ジェンダーフリートイレの増設」「同性婚の法制化」「パートナーシップ証明制度の導入」に対して約6割～7割が賛成と回答しており、今後、個別に検討を進める時期に来ているといえる。

## 7. 地域活動について

- 地域活動をする場合の障がいとして「仕事が忙しすぎる」が最も多く、「精神的にゆとりがない」「人づきあいがわずらわしい」と続く。ワーク・ライフ・バランスの推進が地域活動への参加促進につながる可能性があることを示唆している。

## 8. 人権について

- DV を受けた経験がある人の対処方法として「相談等をしたかったが、我慢した」が前回と比べると3分の1に減り、「相手方に直接、抗議した」「謝ったり、なだめたりした」が多くなった。そして、警察や家族・親族、医師やカウンセラー等に相談したという回答が少なくなっていること、また、「相談しようとは思わなかった」が約2割に増えていることを考えると、DV 被害者が、外部に相談するという発想に至らず、自力で対応しようとしている可能性も危惧される。また、相談しなかった理由として「どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから」が約16%いることを踏まえると、DV 防止の啓発とともに相談窓口のPR がさらに必要であると考えられる。
- 新聞・テレビ・インターネット・SNS 等における性や暴力の表現について「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」が4割を超えている。メディアリテラシー（メディアから発信される情報をそのまま受け取るのではなく主体的に読み解いて活用する能力、またメディアを活用し、自分の考えを表現する能力）の教育や啓発が引き続き必要である。

## 9. 男女平等・男女共同参画社会について

- 男女平等や男女共同参画について「学校や大学で学んだことがある」「研修会や公民館の講座などに参加したことがある」が増えており、教育現場や公民館等における広報・啓発の成果がうかがえる。しかし、「学んだことがない」と答えた人が約4割いる（前回から 13.2 ポイント減少）ため、引き続き地域や学校での広報・啓発活動が必要である。
- 「家庭」や「職場」「政治の場」「就職採用の際」で「男性優遇」と感じる人は約半数かそれ以上である。特に「政治の場」では7割を超える人が「男性優遇」と感じていることから、さらなる広報・啓発が求められている。

## IV 調査結果



## IV 調査結果

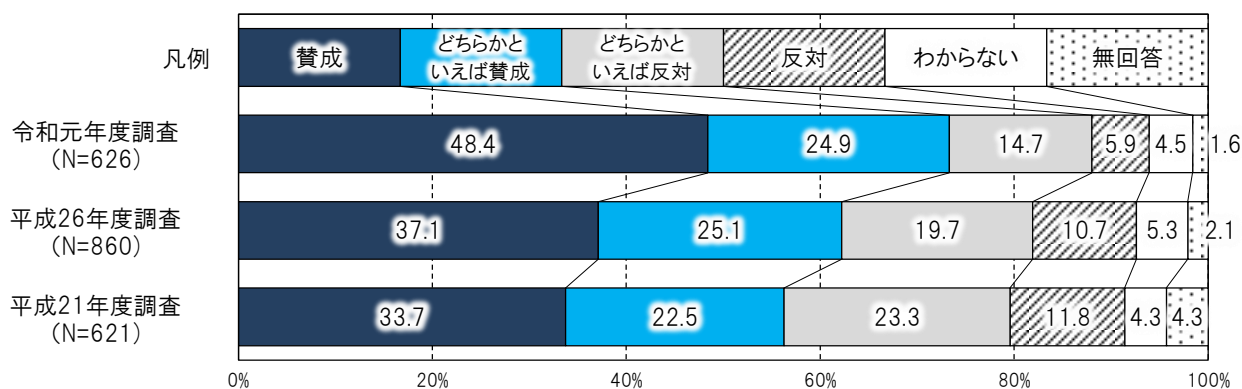
### 1 結婚や家庭生活について

#### (1) 結婚観、家庭観

問1 結婚・家庭についてどのように考えますか。

A 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい

- 『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が7割以上を占めており、「男性」より「女性」、高齢者より若年者で『賛成』の人が多い
- 『賛成』は、前々回から増加傾向



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに『賛成』と回答した人の割合が高く、「女性」(81.3%)が「男性」(64.4%)より 16.9 ポイント高い。

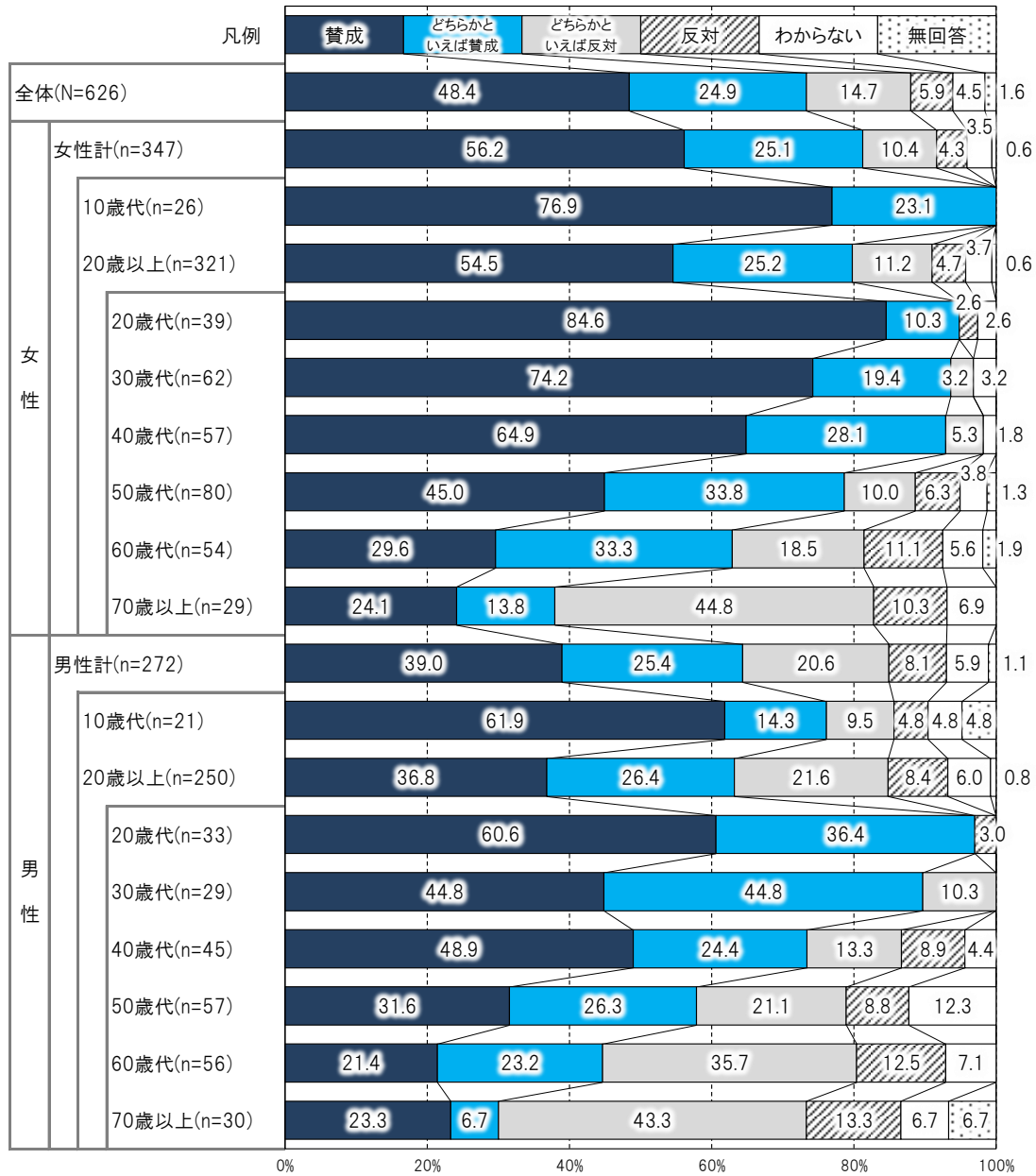
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」が 100.0%で、「男性」(76.2%)より 23.8 ポイント高い。

#### ◆20歳以上結果

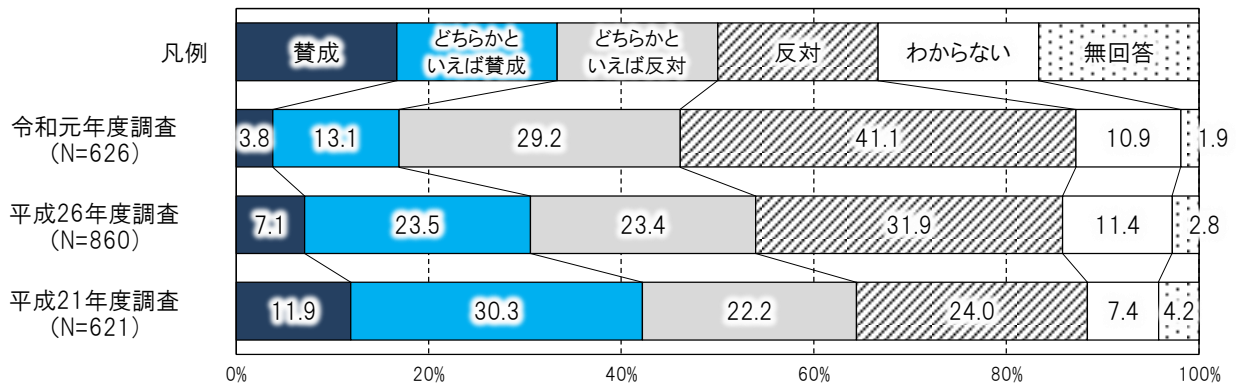
◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」が 79.7%で、「男性」(63.2%)より 16.5 ポイント高い。

◇性・年代別:女性は「70歳以上」を除くすべての年代で『賛成』と答える人が多く、年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられる。中でも「20歳代」(94.9%)の割合が最も高い。一方、男性は「60歳代以上」を除くすべての年代で『賛成』と答える人が多く、年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられる。中でも「20歳代」(97.0%)の割合が最も高い。



## B 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」だと思う

- 『反対』（「反対」+「どちらかといえば反対」）が7割を占める
- 『反対』は、前々回から増加傾向



### ◆国、県の調査結果との比較

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についての反対層の割合を国や県の調査と比較すると、佐賀市は国及び佐賀県の調査結果より高い。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について反対層の割合

	国 (R1)	佐賀県 (H26)	佐賀市		
			H21 調査	H26 調査	今回調査
全体	59.8%	62.9%	46.2%	55.3%	70.3%
女性	63.4%	66.0%	53.3%	56.9%	74.9%
男性	55.6%	60.1%	36.8%	50.0%	65.9%

※対象は18歳以上

### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに『反対』と回答した人の割合が高く、「女性」(74.9%)が「男性」(65.9%)より9.0ポイント高い。

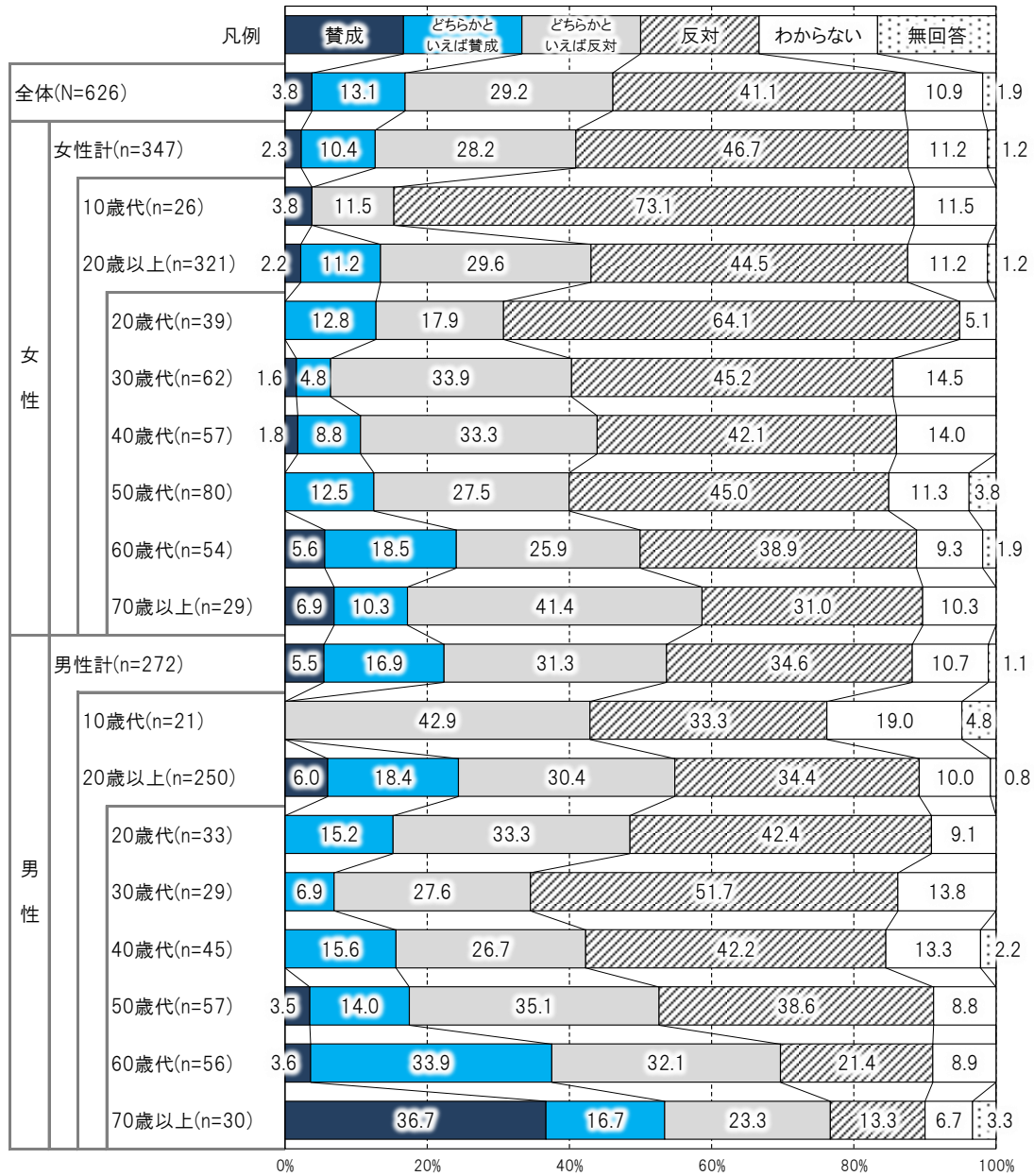
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『反対』と回答した人の割合は、「女性」が84.6%で、「男性」(76.2%)より8.4ポイント高い。

### ◆20歳以上結果

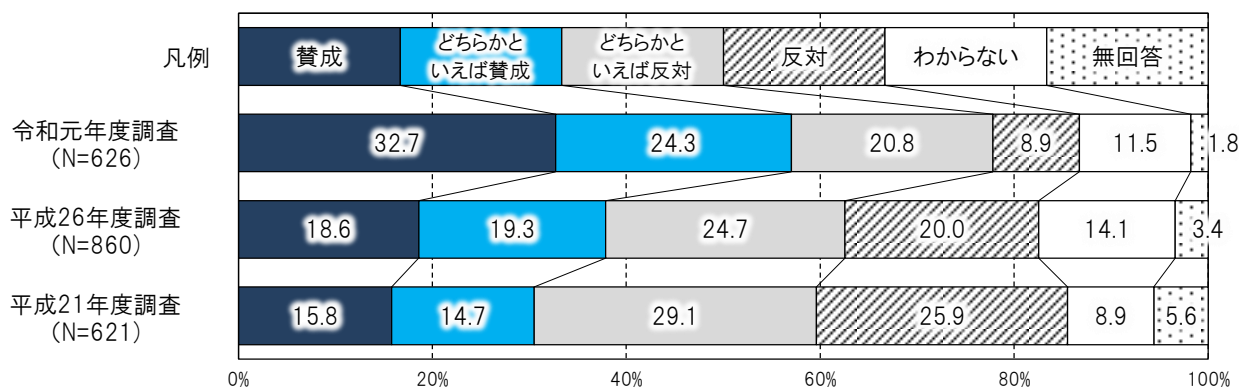
◇性別:『反対』と回答した人の割合は、「女性」が74.1%で、「男性」(64.8%)より9.3ポイント高い。

◇性・年代別:女性では、すべての年代で『反対』と回答した人が『賛成』と回答した人より多く、特に「女性20歳代」では『反対』が82.0%と、『賛成』(12.8%)を大きく上回っている。男性では、「70歳以上」を除くすべての年代で『反対』と回答した人が多く、特に「男性30歳代」では『反対』が79.3%と、『賛成』(6.9%)を大きく上回っている。



## C 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

- 『賛成』（『賛成』+『どちらかといえば賛成』）が過半数を占めており、「男性」より「女性」、高齢者より若年者で『賛成』の人が多い
- 『賛成』は、前々回から増加傾向



### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに『賛成』と回答した人の割合が高く、「女性」(65.1%)が「男性」(47.5%)より 17.6 ポイント高い。

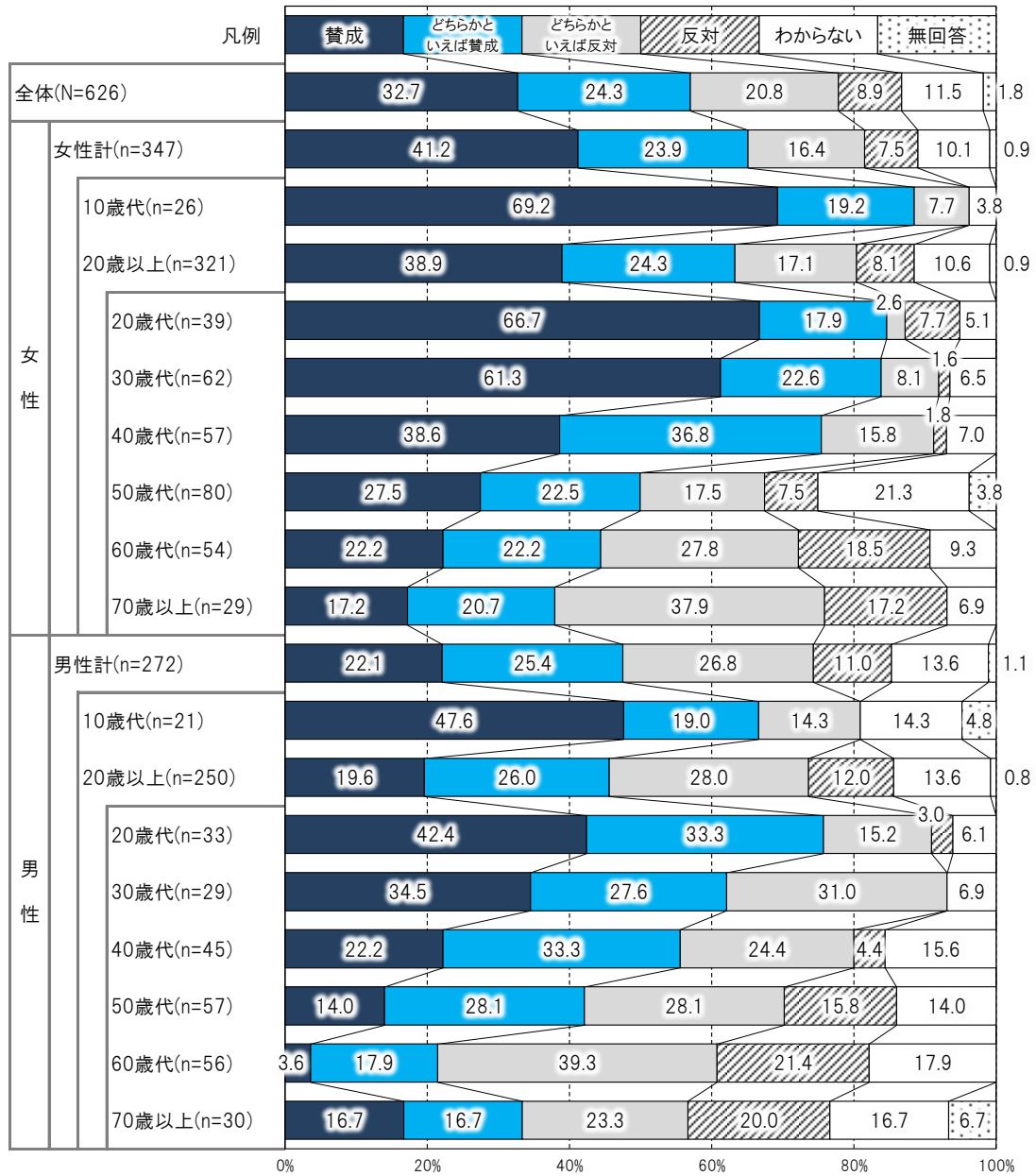
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」が 88.4%で、「男性」(66.6%)より 21.8 ポイント高い。

### ◆20歳以上結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」が 63.2%で、「男性」(45.6%)より 17.6 ポイント高い。

◇性・年代別:女性は、年齢が低いほど『賛成』の回答割合が高くなる傾向がみられ、中でも「20歳代」(84.6%)の割合が最も高い。一方、男性は『40歳代以下』で『賛成』と答える人が多く、年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられる。中でも「20歳代」(75.7%)の割合が最も高い。

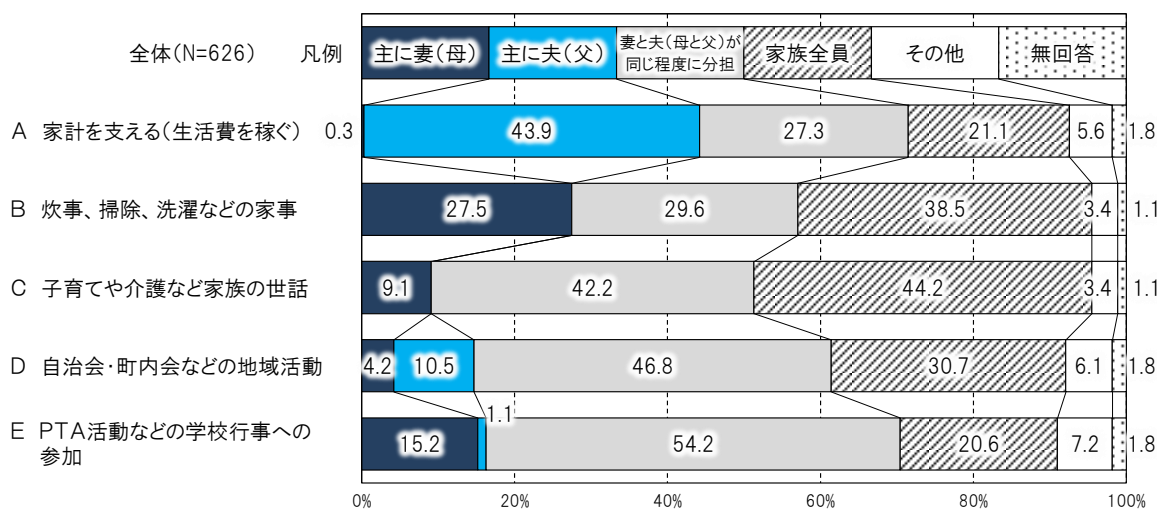


## (2) 家庭生活での役割分担

問2 家庭での役割分担について、どう思いますか。

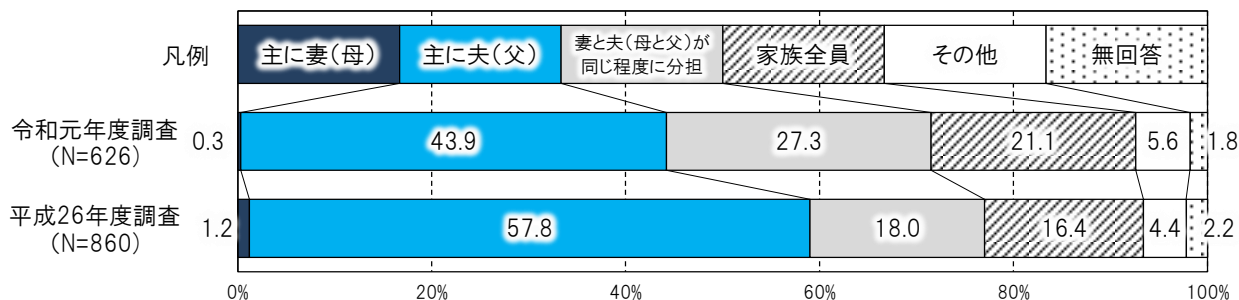
### ① その役割を行うべきと思う人

- 理想としては、＜家計を支える＞は「主に夫」の回答が最多
- 一方、＜地域活動＞、＜学校行事への参加＞は「妻と夫が同じ程度に分担」の回答が最多



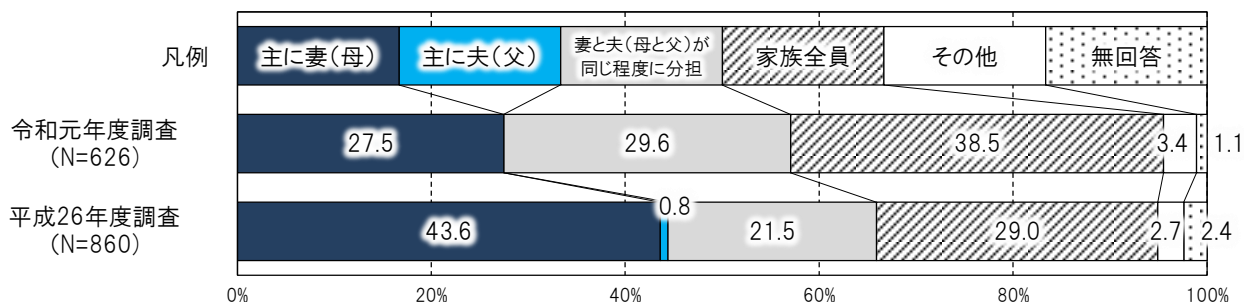
### A 家計を支える(生活費を稼ぐ)

- 「主に夫(父)」と考える人が4割以上を占める



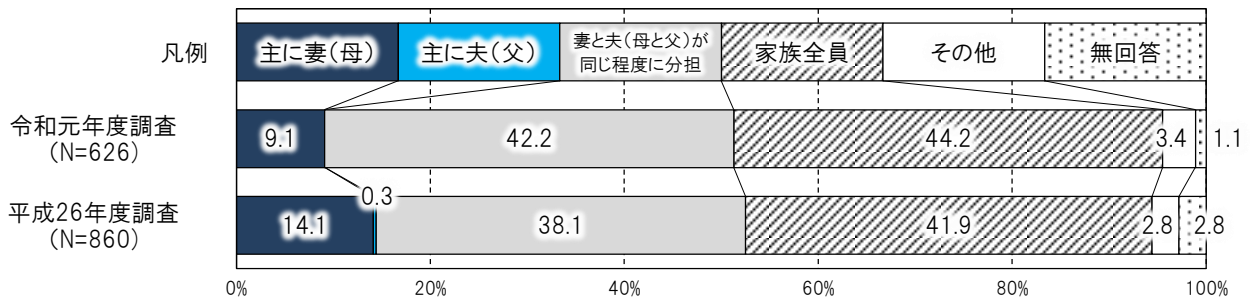
### B 炊事、掃除、洗濯などの家事

- 「主に妻(母)」「妻と夫が同じ程度」「家族全員」の3パターンに分かれる



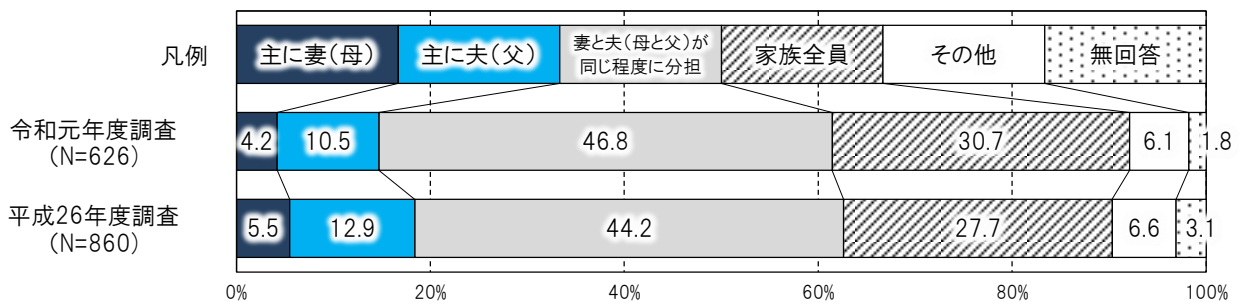
### C 子育てや介護など家族の世話

●「妻と夫(母と父)が同じ程度」「家族全員」で分担と考える人が多い



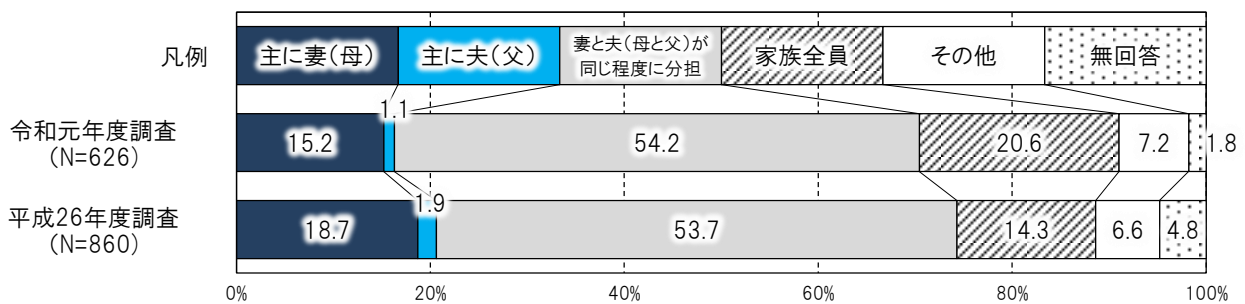
### D 自治会・町内会などの地域活動

●「妻と夫(母と父)が同じ程度」で分担と考える人が多い



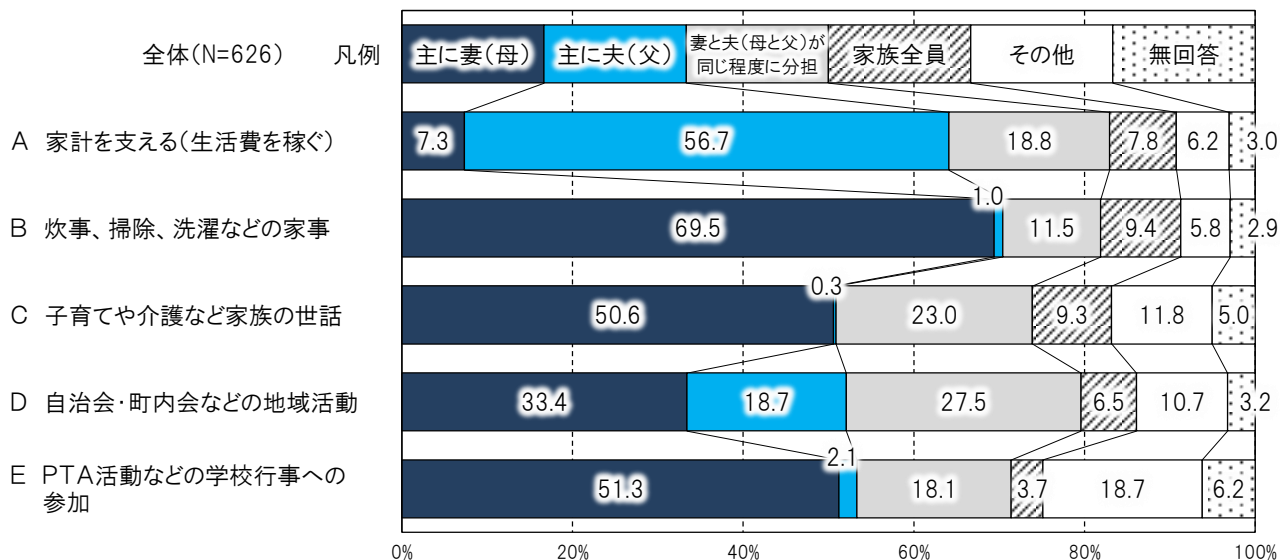
### E PTA活動などの学校行事への参加

●「妻と夫(母と父)が同じ程度」で分担と考える人が多い



## ② 実際にその役割を行っている人

- 実際には、＜家計を支える＞は「主に夫」、他の4項目は「主に妻」と回答する人が最多
- 特に、「主に妻」における現実の回答割合が理想の回答割合を大きく上回っている
- すべての項目で、前回と同様傾向



### A 家計を支える(生活費を稼ぐ)

- 「主に夫(父)」と答える人が過半数を占める

### B 炊事、掃除、洗濯などの家事

- 「主に妻(母)」と答える人が7割を占める

### C 子育てや介護など家族の世話

- 「主に妻(母)」と答える人が過半数を占める

### D 自治会・町内会などの地域活動

- 「主に妻(母)」「妻と夫が同じ程度」の2パターンに分かれる

### E PTA活動などの学校行事への参加

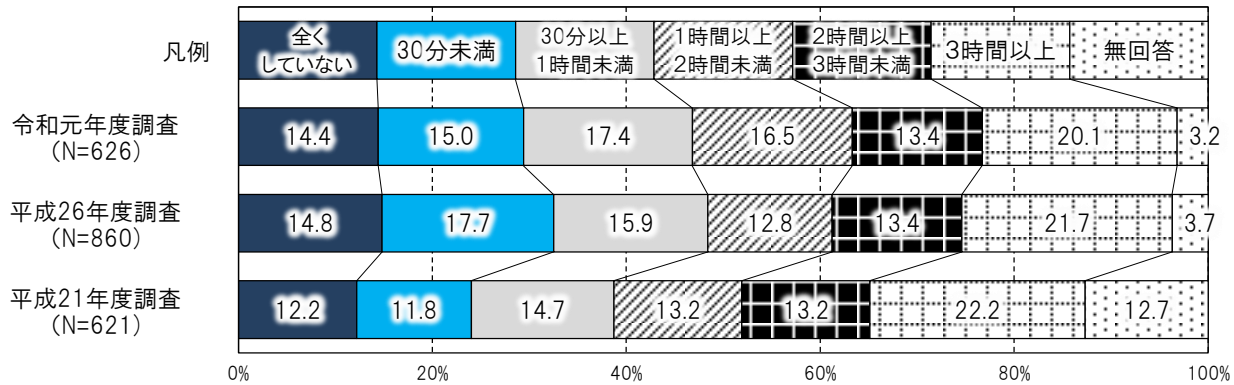
- 「主に妻(母)」と答える人が過半数を占める

### (3)家事にかかる時間

問3 1日に平均してどれくらいの時間を家事(育児・介護を含む)にかけていますか。

A 平日

●「女性 30 歳代」「女性 40 歳代」で「3時間以上」の回答は半数を占める



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

「3時間以上」と回答した人は、「女性」の34.9%に対し「男性」(1.8%)は33.1ポイント低くなっている。また、男性で「全くしていない」人は24.6%となっている。

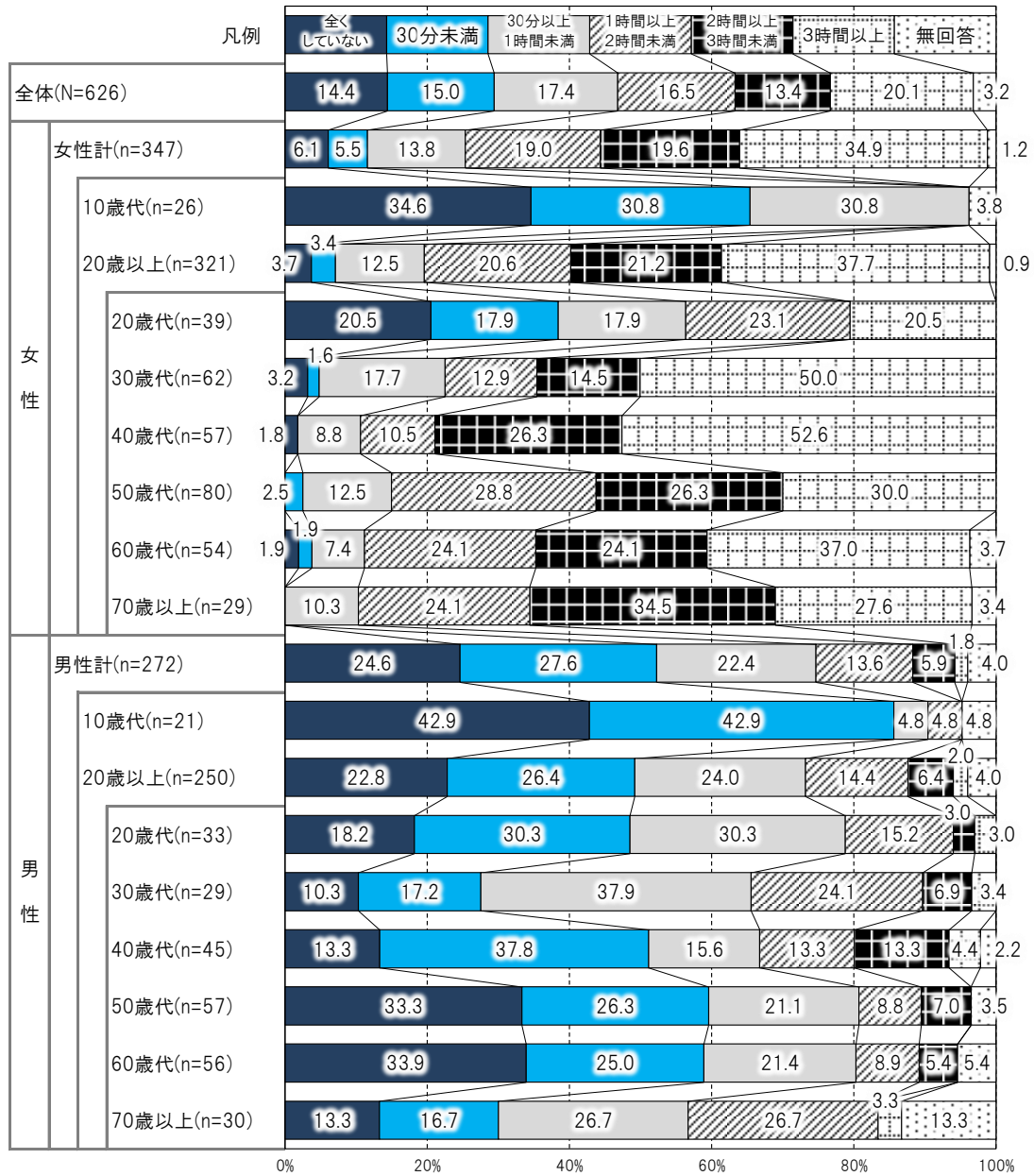
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:「全くしていない」の回答割合は、「男性」(42.9%)が「女性」(34.6%)より8.3ポイント高い。

#### ◆20歳以上結果

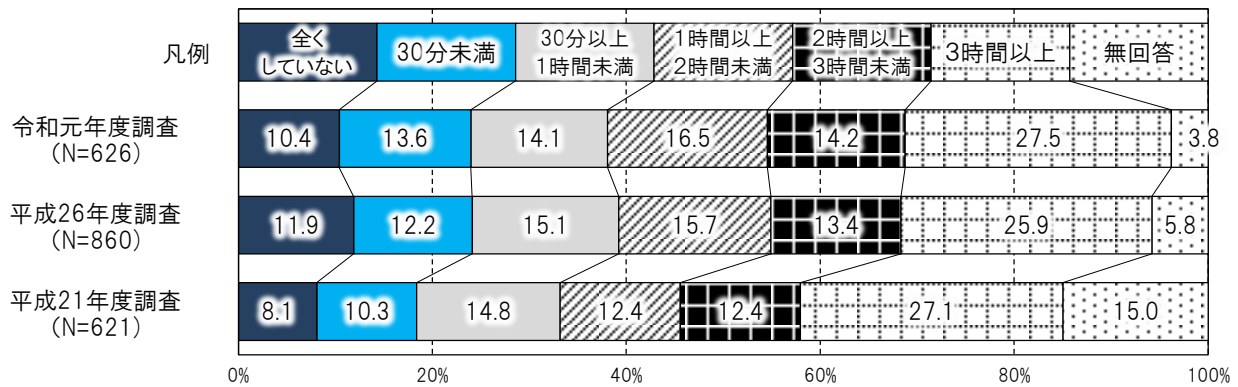
◇性別:「3時間以上」の回答割合は、「女性」が37.7%で「男性」(2.0%)より35.7ポイント高い。一方、「全くしていない」の回答割合は、「男性」(22.8%)が「女性」(3.7%)より19.1ポイント高くなっている。

◇性・年代別:「2時間以上」と回答した割合は女性では、「30歳代」(64.5%)、「40歳代」(78.9%)となっている。男性では、「全くしていない」と回答した人は、「50歳代」(33.3%)、「60歳代」(33.9%)となっている。どの年代でも女性の家事負担が大きくなっている。



## B 休日

●「女性 30 歳代」「女性 40 歳代」「女性 50 歳代」で「3時間以上」の回答は過半数を占める



### ◆性別(女性計、男性計)結果

「3時間以上」と回答した人は「女性」の42.9%に対し「男性」(8.5%)は34.4ポイントも低い。  
また、男性で「全くしていない」人は17.3%となっている。

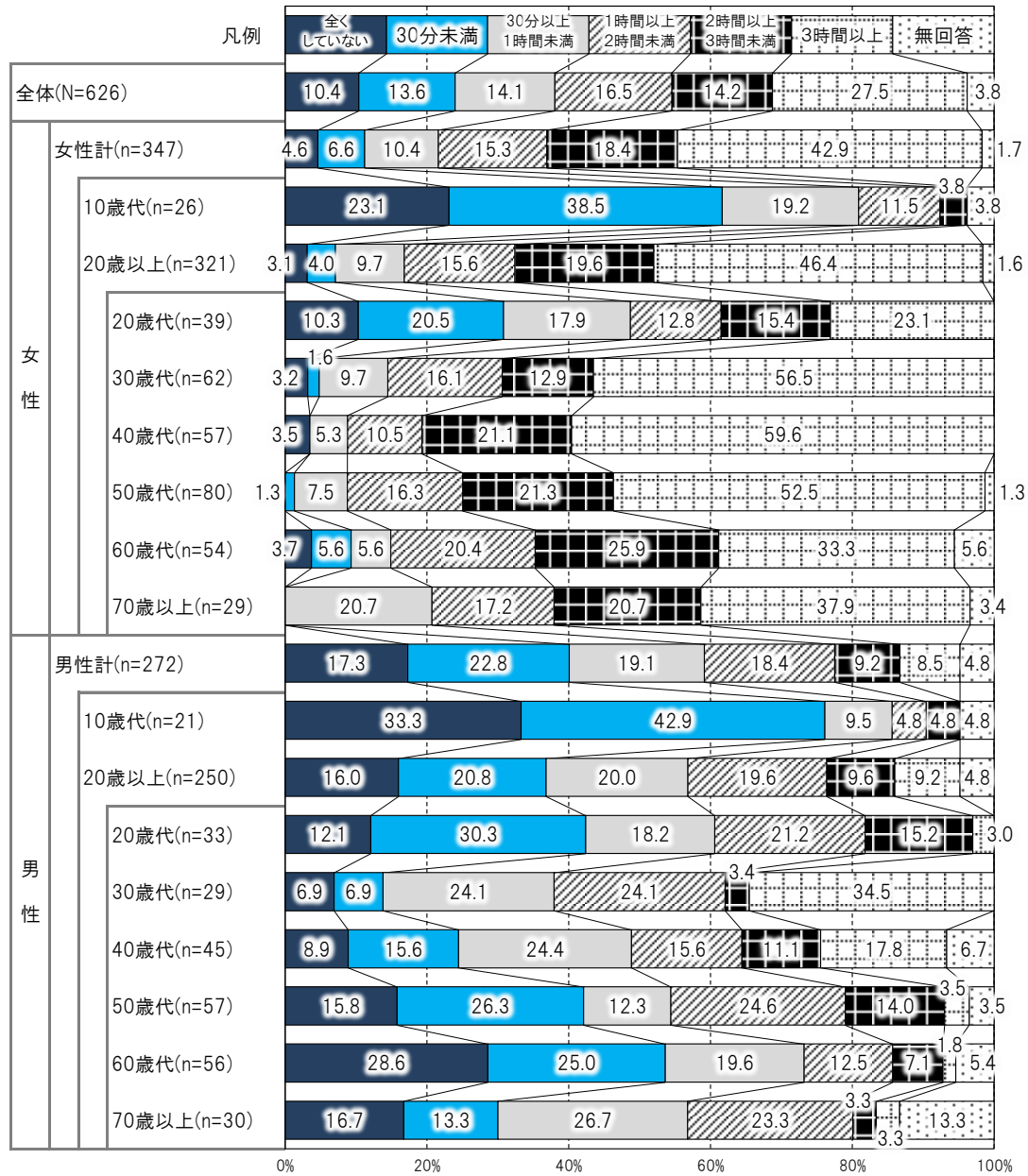
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:「全くしていない」の回答割合は、「男性」(33.3%)が「女性」(23.1%)より10.2ポイント高い。

### ◆20歳以上結果

◇性別:「3時間以上」の回答割合は、「女性」が46.4%で「男性」(9.2%)より37.2ポイント高い。一方、「全くしていない」の回答割合は、「男性」(16.0%)が「女性」(3.1%)より12.9ポイント高い。

◇性・年代別:女性では、『2時間以上』と回答した割合は、「30歳代」(69.4%)、「40歳代」(80.7%)、「50歳代」(73.8%)となっている。男性では、『2時間以上』と回答した割合は、「30歳代」(37.9%)で、平日の家事時間(10.3%)と比べると、3倍以上となっている。

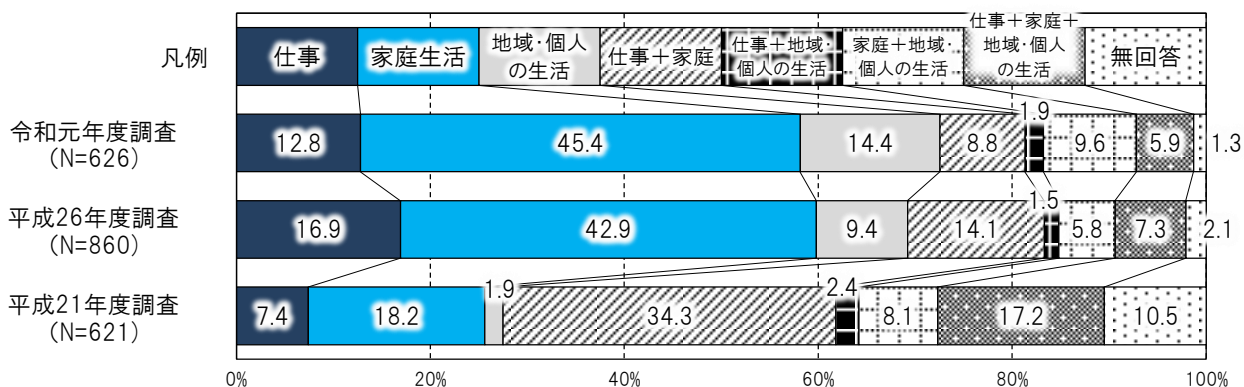


## (4)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方

問4 仕事と生活について何を優先したいですか。(〇はいくつでも)

<希望>

●「家庭生活」を優先したいが最多の 45.4%



※平成 21 年度調査では選択肢に「わからない」があったため「無回答」に合算した。

### ◆性別(女性計、男性計)結果

「仕事」を優先したいは、「男性」(19.1%)が「女性」(7.8%)より 11.3 ポイント高い。

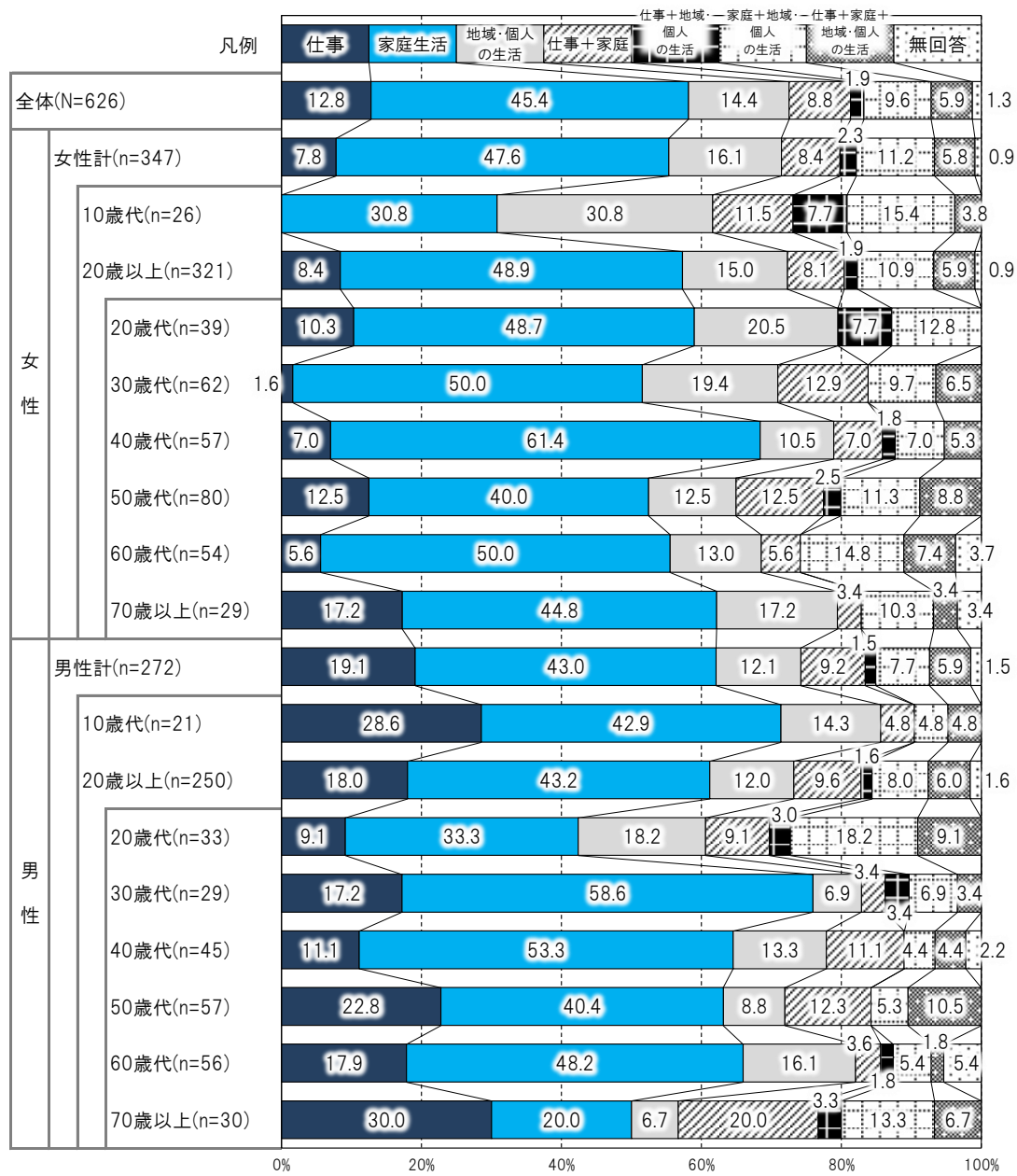
### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

◇性別:「家庭生活」の回答割合は、「男性」(42.9%)が「女性」(30.8%)より 12.1 ポイント高い。一方で、「地域・個人の生活」の回答割合は、「女性」(30.8%)が「男性」(14.3%)より 16.5 ポイント高い。なお、女性では「仕事」と回答する人は 0 人となっている。

### ◆20 歳以上結果

◇性別:「仕事」の回答割合は、「男性」(18.0%)が「女性」(8.4%)より 9.6 ポイント高い。

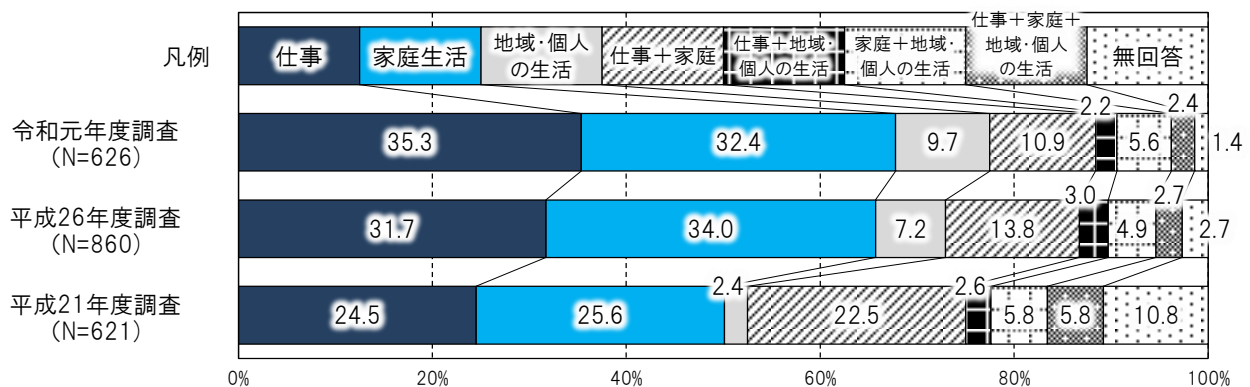
◇性・年代別:「家庭生活」の回答割合は、女性では「40 歳代」(61.4%)、男性では「30 歳代」(58.6%)が最も高い。



問5 現実に何を優先していますか。(〇はいくつでもかまいません)

<現状>

- 優先したいこと(希望)に比べて現状は「仕事を優先」が 22.5 ポイント高い
- 「仕事を優先」は、前々回から増加傾向



※平成 21 年度調査では選択肢に「わからない」があったため「無回答」に合算した。

◆性別(女性計、男性計)結果

「仕事」を優先しているは、「男性」(43.8%)が「女性」(28.8%)より 15.0 ポイント、「家庭生活」を優先しているは、「女性」(37.2%)が「男性」(26.8%)より 10.4 ポイント高い。

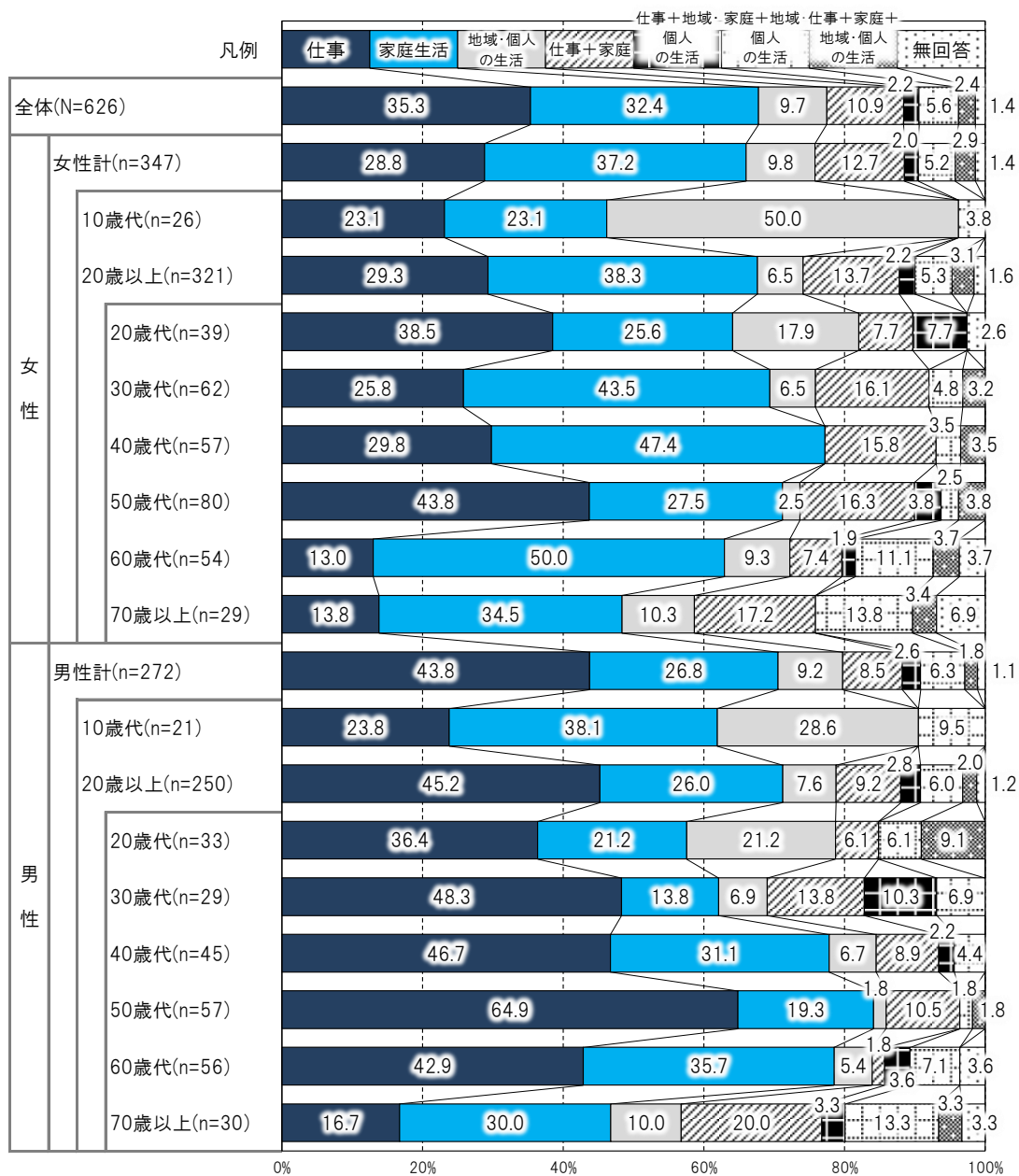
◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

◇性別:「家庭生活」の回答割合は、「男性」(38.1%)が「女性」(23.1%)より 15.0 ポイント高い。一方で、「地域・個人の生活」の回答割合は、「女性」(50.0%)が「男性」(28.6%)より 21.4 ポイント高く、全体結果(9.7%)と比べても「女性」は 40.3 ポイント高い。

◆20 歳以上結果

◇性別:「仕事」の回答割合は、「男性」(45.2%)が「女性」(29.3%)より 15.9 ポイント高い。一方で、「家庭生活」の回答割合は、「女性」(38.3%)が「男性」(26.0%)より 12.3 ポイント高い。

◇性・年代別:女性の「30 歳代」「40 歳代」は、現実には「仕事」よりも「家庭生活」を優先している回答が多い。男性の「20 歳代」から「60 歳代」までは、現実には「家庭生活」より「仕事」を優先している回答が多い。



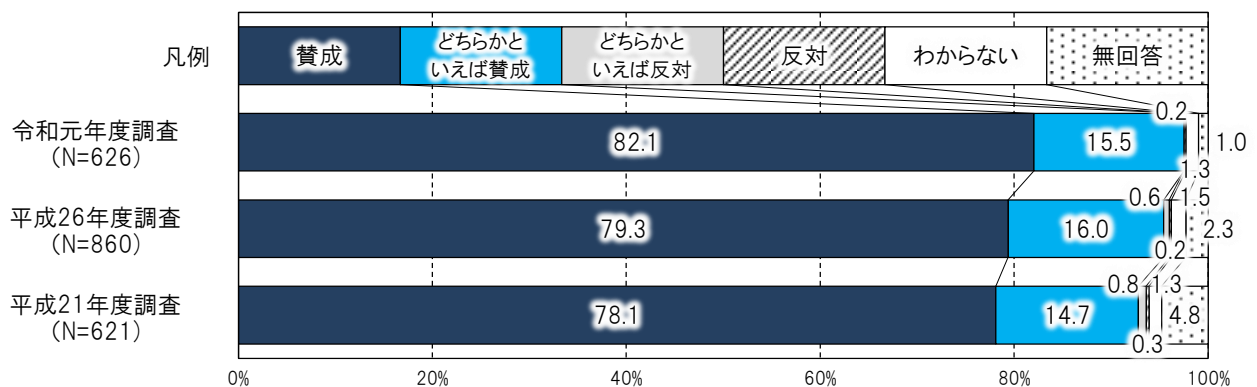
## 2 教育・子育て・介護について

### (1)子どもの育て方

問6 子どもの育て方について、どのような考えをお持ちですか。

A 女の子も男の子も、経済的に自立できるように育てたほうがよい

- <女の子も男の子も、経済的に自立できるように育てたほうがよい>の回答が9割強を占める
- 『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は、前々回から増加傾向



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

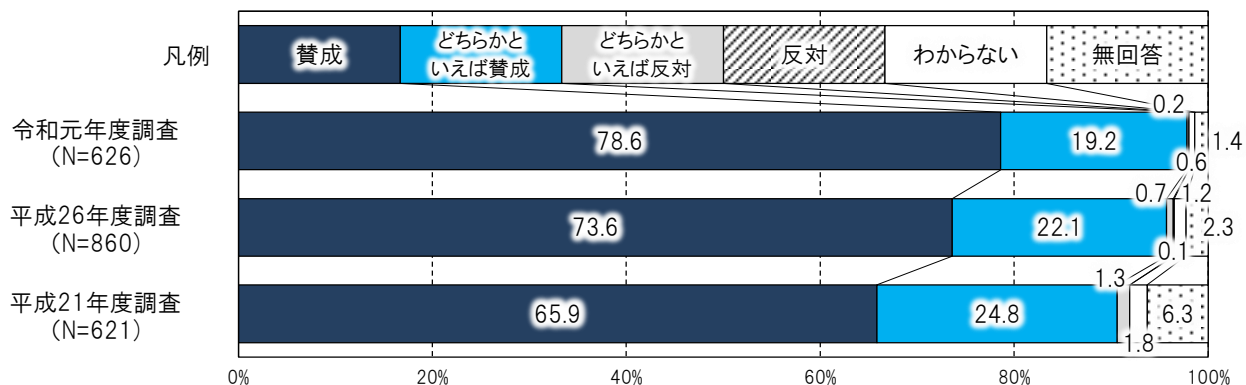
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:女性では『賛成』と回答した人の割合は100.0%となっている。

B 女の子も男の子も、炊事、掃除、洗濯など、生活していくために必要な技術を身につけるように育てたほうがよい

●<女の子も男の子も、生活していくために必要な技術を身につけるように育てたほうがよい>の回答が9割強を占める

●『賛成』(『賛成』+『どちらかといえば賛成』)は、前々回から増加傾向



◆性別(女性計、男性計)結果

「賛成」は、「女性」(83.6%)が「男性」(72.8%)より 10.8 ポイント高い。

◆10歳代(16歳~19歳)結果

◇性別:女性では『賛成』と回答した人の割合は 100.0%となっている。

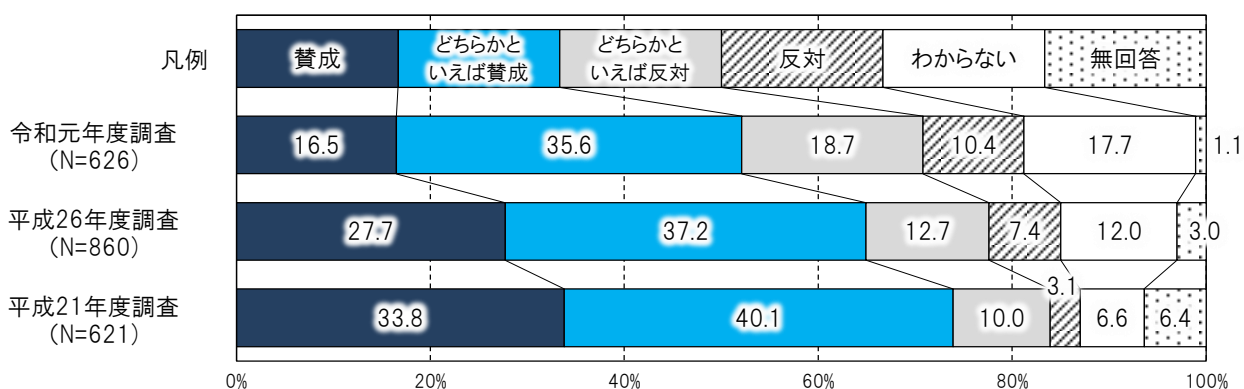
◆20歳以上結果

◇性別:「賛成」は、「女性」(83.8%)が「男性」(71.6%)より 12.2 ポイント高い。

◇性・年代別:男女とも年齢が高いほど「賛成」の回答割合が低い傾向がみられ、女性では「60歳代」(66.7%)、男性では「70歳以上」(56.7%)の割合が最も低い。

### C 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい

- <女の子は女の子らしく、男の子男の子らしく育てたほうがよい>の回答は、若い女性(20歳代以下)を中心に『反対』が増加している
- 『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は、前々回から減少傾向



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

『賛成』の回答割合は、「女性」(44.6%)が「男性」(61.0%)より16.4ポイント低い。

#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『賛成』の回答割合は、「女性」(23.1%)が「男性」(47.7%)より24.6ポイント低い。一方、『反対』の回答割合は、「女性」(50.0%)が「男性」(23.8%)より26.2ポイント高い。

#### ◆20歳以上結果

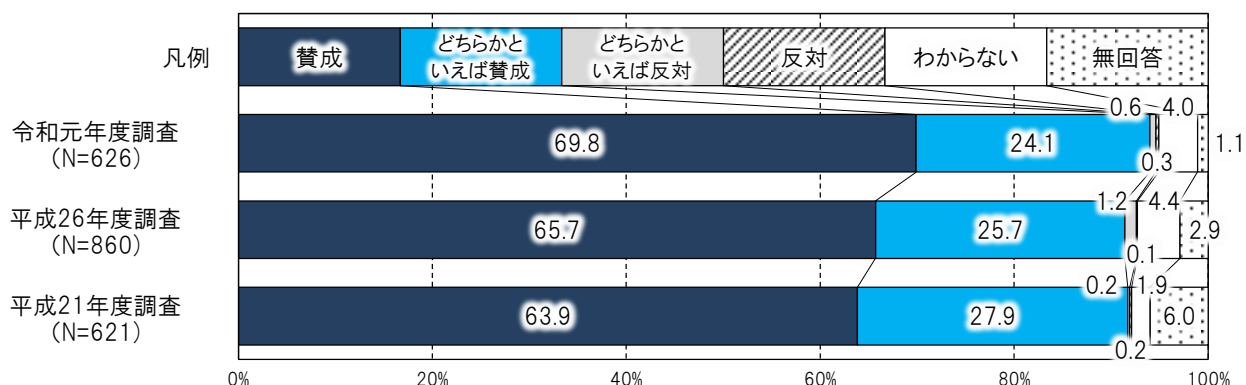
◇性別:『賛成』の回答割合は、「女性」(46.4%)が「男性」(62.0%)より15.6ポイント低い。一方、『反対』の回答割合は、「女性」(35.2%)が「男性」(20.0%)より15.2ポイント高い。

◇性・年代別:男女とも年齢が低いほど『賛成』の回答割合が低く、女性では「20歳代」(30.7%)、男性では「20歳代」(39.4%)が最も低い。

D 女の子も男の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てたほうがよい

●<女の子も男の子も、個性・才能を活かして育てるほうがよい>の回答が9割を占める

●『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は、前々回から増加傾向



◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◆10歳代(16歳~19歳)結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」(92.3%)が「男性」(76.2%)より16.1ポイント高い。

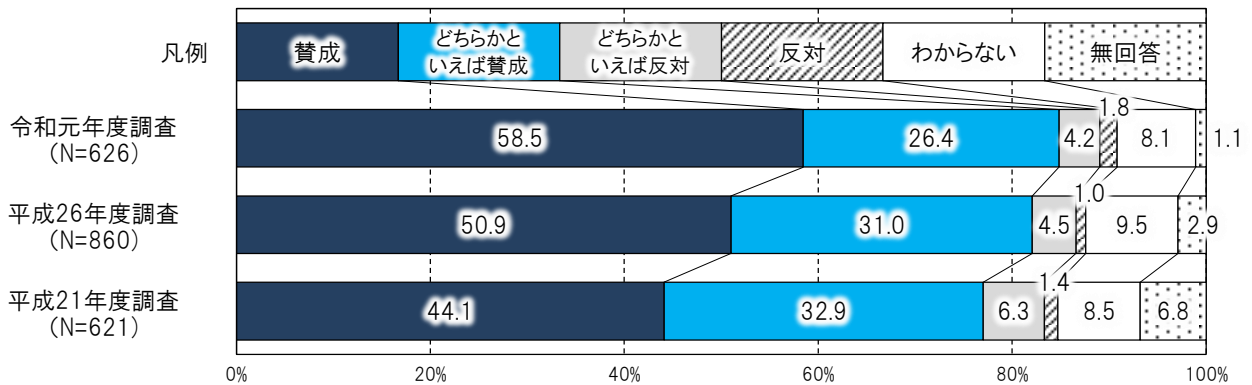
◆20歳以上結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:『賛成』と回答した人の割合は、男女ともに「20歳代」では100.0%となっている。

E 女の子も男の子も同じ程度の学歴を持たせたほうがよい

- <女の子も男の子も、同じ学歴を持たせた方がよい>の回答が8割以上を占める
- 『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は、前々回から減少傾向



◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

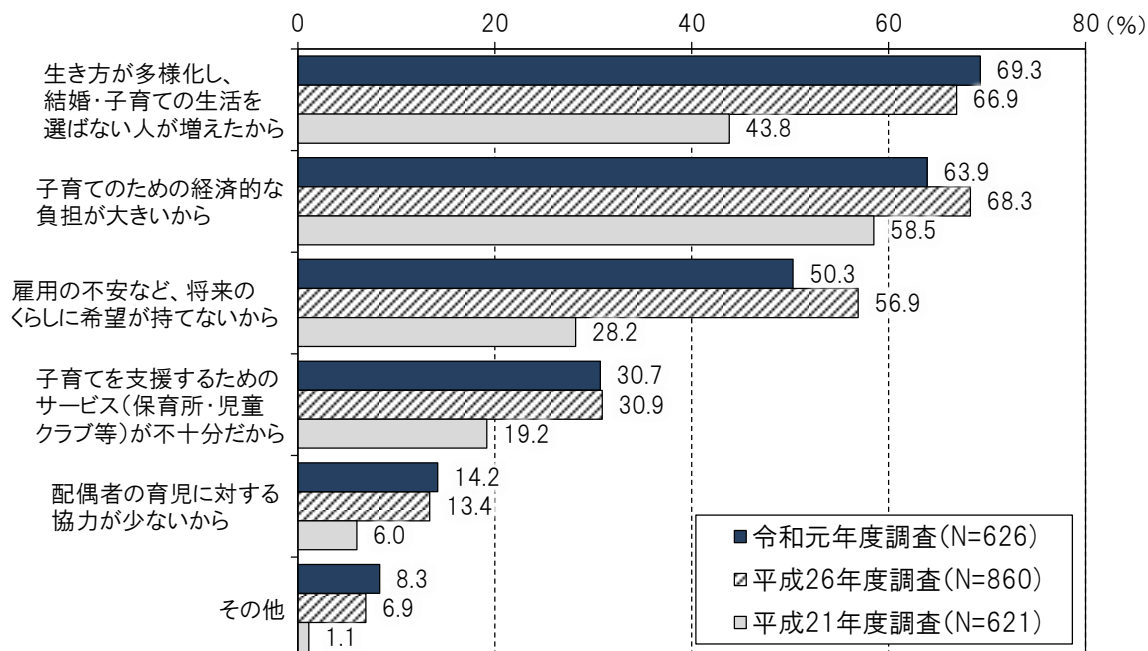
◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」(84.6%)が「男性」(66.7%)より17.9ポイント高い。

## (2) 少子化の原因

問7 わが国では近年少子化傾向にあります、その理由は何だと思えますか。(複数回答可)

「生き方の多様化」、「経済的理由」と考える人が多い



### ◆20歳以上結果

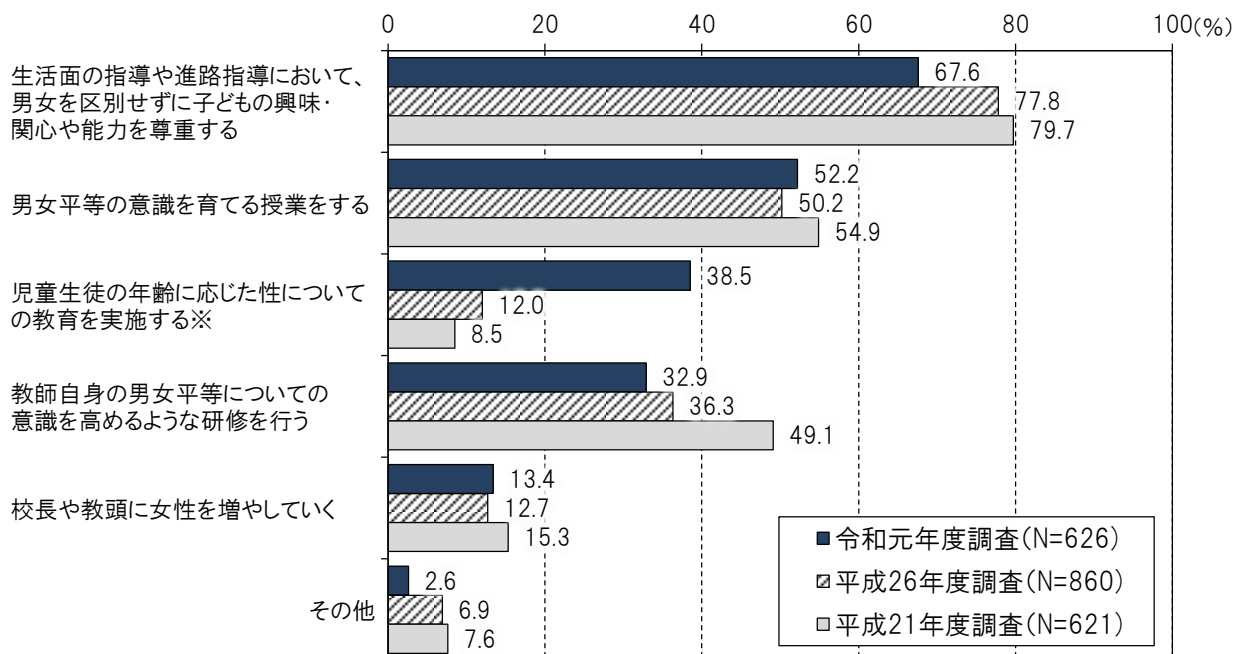
◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示しているが、女性 20 歳代において「子育てを支援するためのサービスが不十分だから」(51.3%)と答える人が、他の層に比べ多くみられる。

### (3) 男女の協力関係を築くために必要な学校での教育

問8 性差別(性別による差別)のない社会をつくっていくために、学校教育の場でどのようなことに力を入れたほうがよいと思いますか。(複数回答可)

- 「生活面の指導や進路指導において、男女を区別せずに、子どもの興味(関心)や能力を尊重する」が最も多い
- 「児童生徒の年齢に応じた性についての教育を実施する」が、前回、前々回よりも大きく増加



※「児童生徒の年齢に応じた性についての教育を実施する」は、平成21年度調査、平成26年度調査の「性教育を推進する」と比較を行った。

#### ◆20歳以上結果

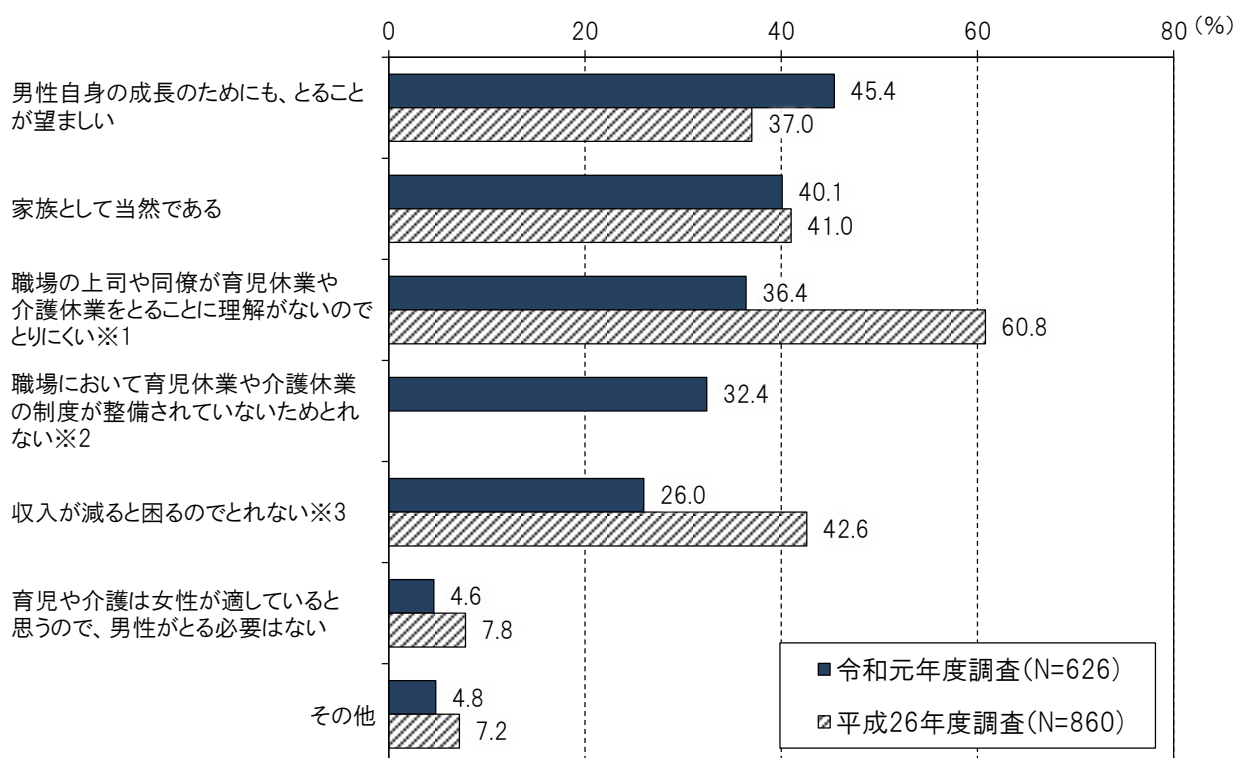
◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示しているが、男性20歳代において「児童生徒の年齢に応じた性についての教育を実施する」(57.6%)と答える人が、他の層に比べ多くみられる。

#### (4) 男性の「育児休業」「介護休業」取得に関する考え

問9 男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか。(複数回答可)

●前回と比べて、職場環境よりも個人的理由による取得が上位にあがっている



※1 「職場の上司や同僚が育児休業や介護休業をとることに理解がないのでとりにくい」は、平成 26 年度調査の「職場環境を考えるとりにくい」と比較を行った。

※2 「職場において育児休業や介護休業の制度が整備されていないためとれない」は、令和元年度調査より新たに設けた選択肢。

※3 「収入が減ると困るのでとれない」は、平成 26 年度調査の「収入が減ったり、無くなると困るのでとれない」と比較を行った。

#### ◆20 歳以上結果

◇性別:「男性自身の成長のためにも、とることが望ましい」と回答した人の割合は、「女性」(51.4%)が「男性」(36.0%)より 15.4 ポイント高い。

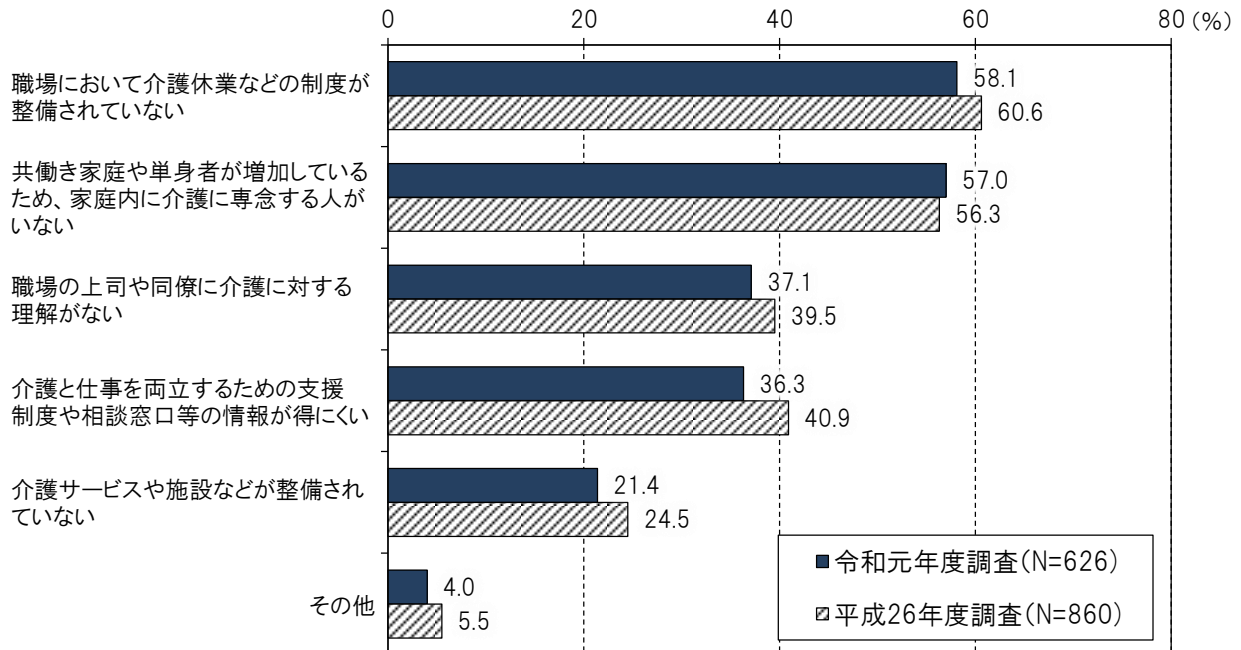
◇性・年代別:女性 20 歳代において「男性自身の成長のためにも、とることが望ましい」(61.5%)、女性 70 歳以上において「職場において育児休業や介護休業の制度が整備されていないためとれない」(62.1%)と答える人が、他の層に比べ多くみられる。

## (5)介護をするために転職、離職する人が増加する原因

問10 介護をするために転職、離職する人が増加していますが、何が原因だと思いますか。

(複数回答可)

●「職場の制度不備」「介護の専念者不足」の回答が6割を占める



### ◆20歳以上結果

◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

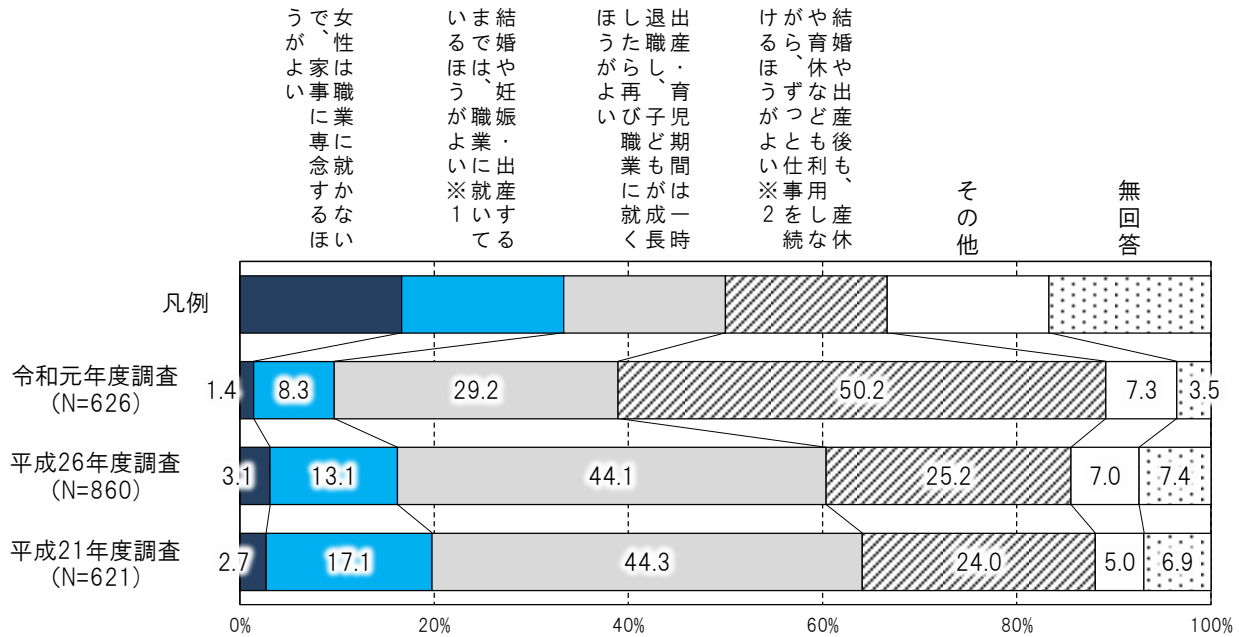
◇性・年代別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

### 3 職業生活について

#### (1)「女性が職業に就くこと」に対する考え

問 11 「女性が職業に就くこと」について、どう思われますか。

- 「結婚や出産後も、産休や育休なども利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」の回答が半数を占める
- 「ずっと仕事を続けるほうがよい」が、前々回から増加傾向。



※1 「結婚や妊娠・出産するまでは、職業に就いているほうがよい」は、平成 21 年度調査の「結婚するまでは、職業を持つほうがよい」「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」の合算と比較を行った。

※2 「結婚や出産後も、産休や育休なども利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」は、平成 21 年度調査の「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」、平成 26 年度調査の「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」と比較を行った。

#### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

#### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

◇性別:「結婚や出産後も、産休や育休なども利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」と回答した人の割合は、「女性」(50.0%)が「男性」(28.6%)より 21.4 ポイント高い。

#### ◆20 歳以上結果

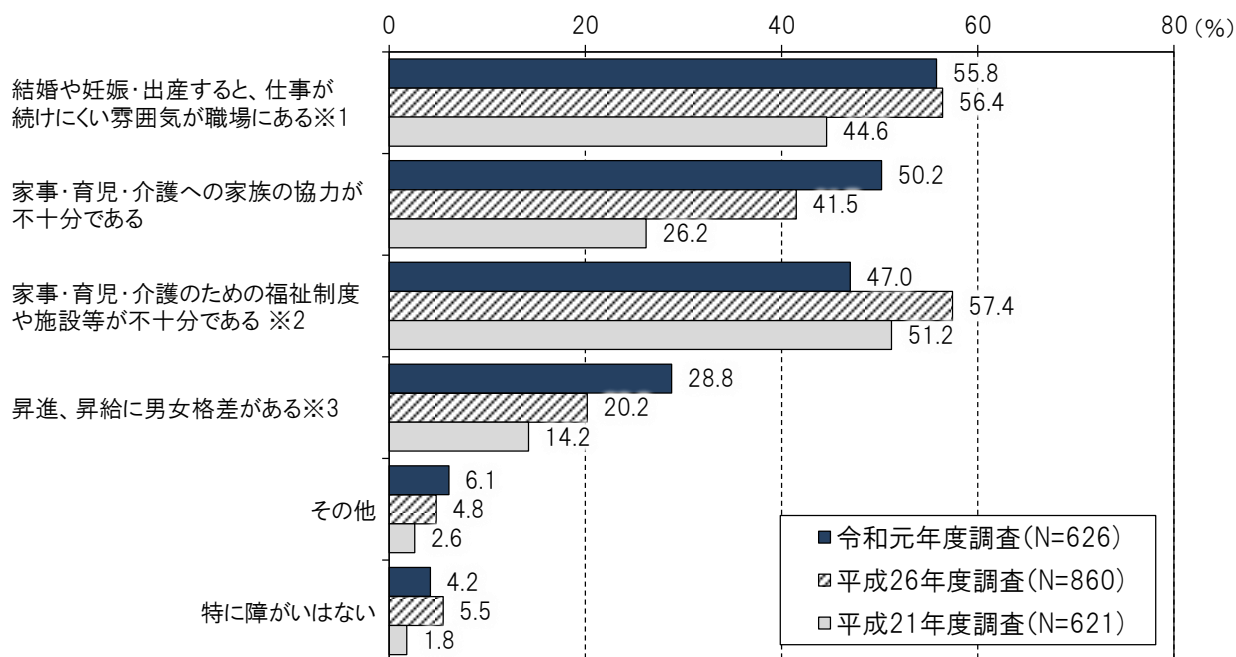
◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:男女ともすべての年代において「結婚や出産後も、産休や育休なども利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」と回答する人が最も多く、中でも「男性 30 歳代」(65.5%)の回答割合が他の層に比べ最も高い。

## (2) 女性が仕事を継続する上での障がい

問 12 女性が仕事を続けていくうえで、障がいになっていることは何だと思えますか。(複数回答可)

- 「結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気が職場にある」「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」と考える人が多い
- 「昇進、昇給に男女差がある」が、前々回から増加傾向



※1 「結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気が職場にある」は、平成 21 年度調査の「職場に、結婚したり子どもが生まれたりすると、勤め続けにくい雰囲気がある」と比較を行った。

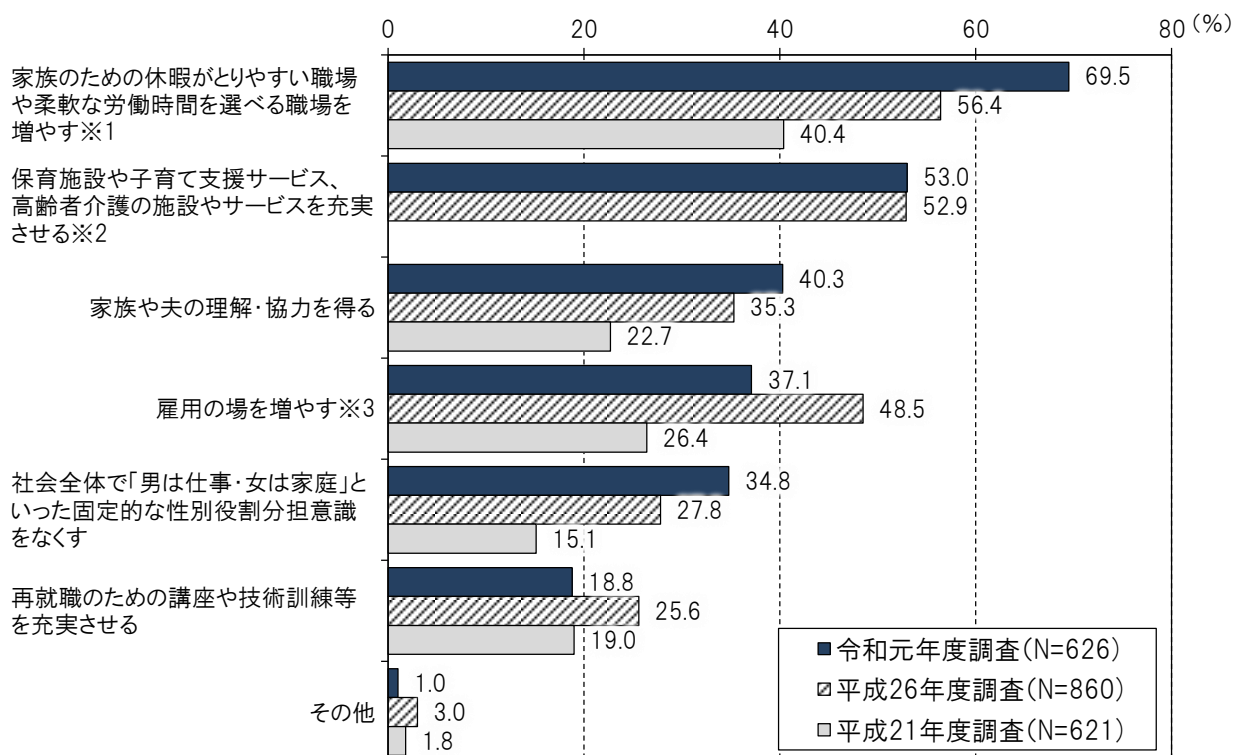
※2 「家事・育児・介護のための福祉制度や施設等が不十分である」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」と比較を行った。

※3 「昇進、昇給に男女格差がある」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「昇進、昇給に男女格差がある」と比較を行った。

### (3) 女性の再就業に必要なこと

問 13 女性が結婚や出産によって仕事をやめる場合がありますが、女性が再び仕事に就くためにどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)

- 「家族のための休暇がとりやすい職場や柔軟な労働時間を選べる職場を増やす」の回答が約7割を占める
- 「社会全体で固定的な性別役割分担意識をなくす」が、前々回から増加傾向



- ※1 「家族のための休暇がとりやすい職場や柔軟な労働時間を選べる職場を増やす」は、平成21年度調査、平成26年度調査の「家族のための休暇がとりやすい職場を増やす」と比較を行った。
- ※2 「保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる」は、平成26年度調査より新たに設けた選択肢。
- ※3 「雇用の場を増やす」は、平成21年度調査の「正規職員での雇用の場を増やす」と比較を行った。

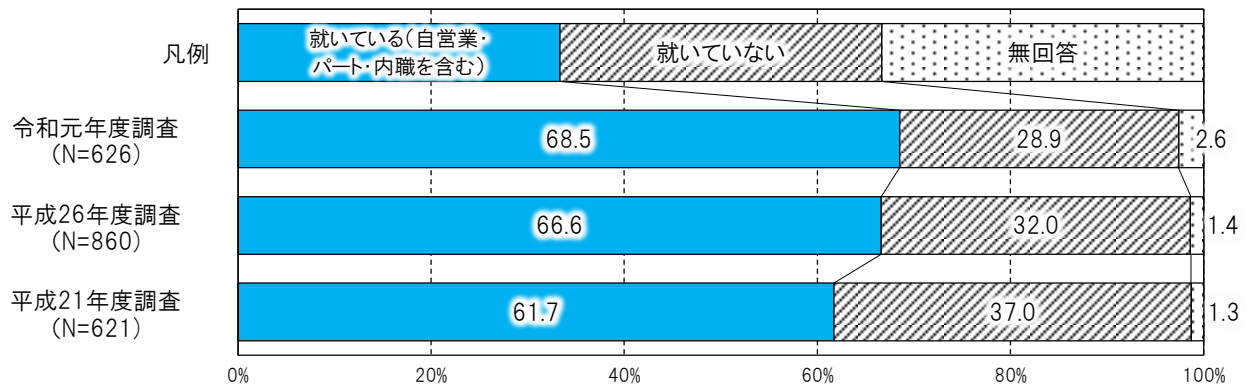
#### ◆20歳以上結果

- ◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。
- ◇性・年代別: 男女とも大半の年代において「家族のための休暇がとりやすい職場や柔軟な労働時間を選べる職場を増やす」と回答する人が最も多く、中でも「女性 40歳代」(87.7%)の回答割合が最も高い。

## (4)職業の有無とその理由

問 14 現在職業に就いていますか。

●男性の7割以上、女性の6割以上が「職業に就いている」



### ◆性別(女性計、男性計)結果

「就いている」と回答した割合は、「男性」(73.9%)が「女性」(64.6%)より9.3ポイント高い。

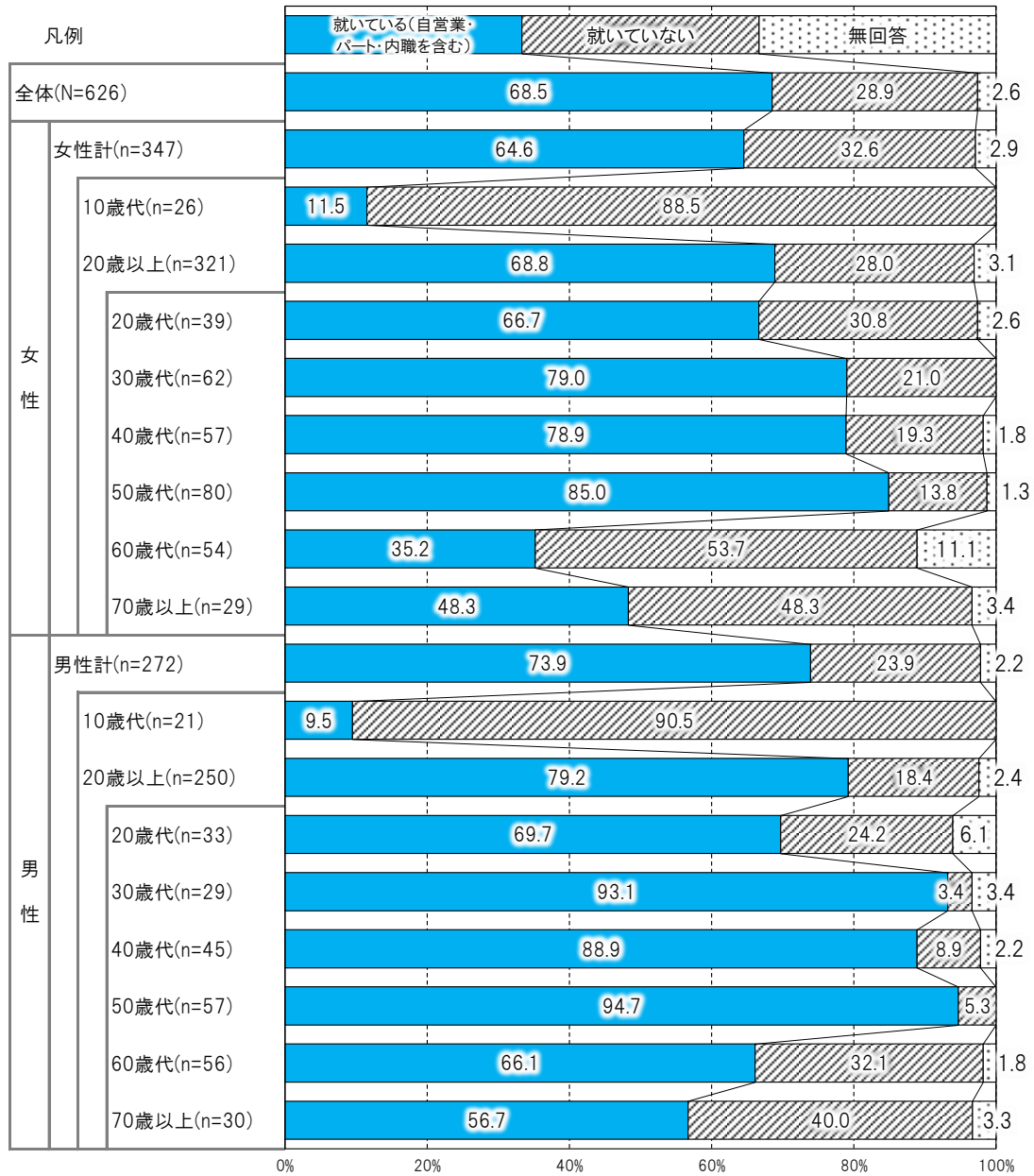
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

### ◆20歳以上結果

◇性別:「就いている」と回答した割合は、「男性」(79.2%)が「女性」(68.8%)より10.4ポイント高い。

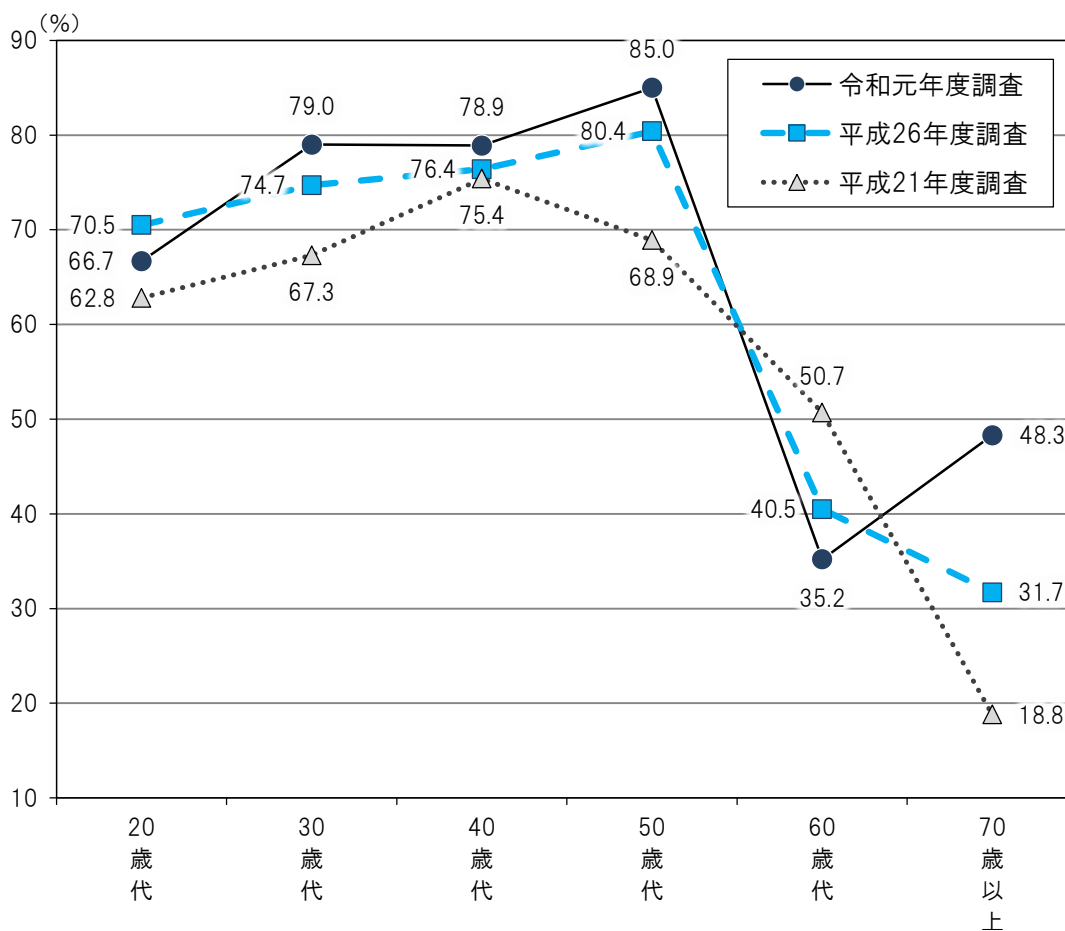
◇性・年代別:「就いている」と回答した割合は、男女ともに「50歳代」が最も高く、「男性 50歳代」は94.7%、「女性 50歳代」は85.0%となっている。



### (参考)※職業を持っている女性の割合の推移

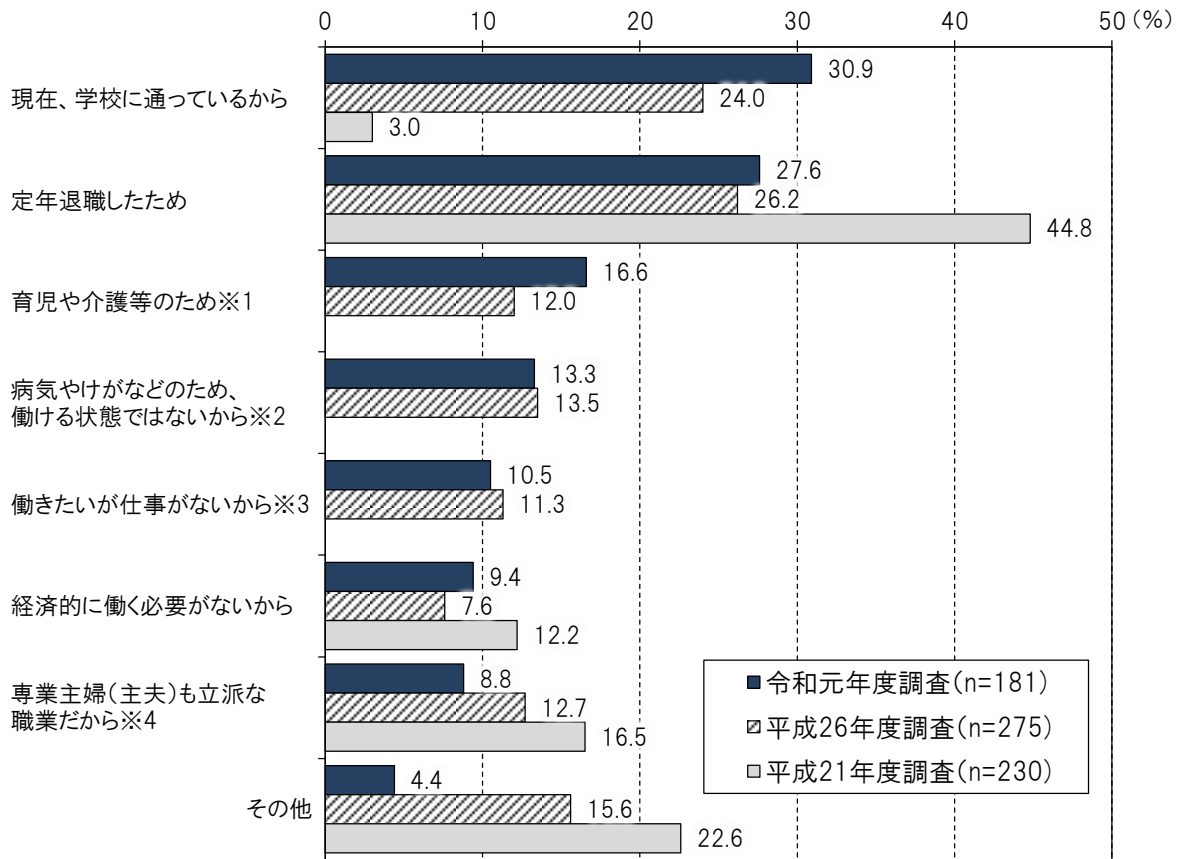
各年度において職業を持っている女性の割合をみると、令和元年度は『30～50 歳代』の割合が最も高い。特に、「50 歳代」では 85.0%を占めている。

また、「60 歳代」は平成 21 年度 (50.7%)より 15.5 ポイント低く、平成 26 年度 (40.5%)より 5.3 ポイント低い、「70 歳代」は平成 21 年度 (18.8%)より 29.5 ポイント高く、平成 26 年度 (31.7%)より 16.6 ポイント高い。



問 15 職業に就いていない理由を次の中から選んでください。(複数回答可)

●上位2項目は「学校に通っているから」「定年退職したため」



※1 「育児や介護等のため」は、平成 26 年度調査より新たに設けた選択肢。

※2 「病気やけがなどのため、働ける状態ではないから」は、平成 26 年度調査より新たに設けた選択肢。

※3 「働きたいが仕事がないから」は、平成 26 年度調査より新たに設けた選択肢。

※4 「専業主婦(主夫)も立派な職業だから」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「家事も立派な職業だから」と比較を行った。

その他の理由
家族の協力が得られにくい
仕事量と給料面が割に合わない
十分働いてきた。次は、自分の残された時間を世の中の面白いことに目を開き、自分のやりたいことに時間を充実させたい
子どもが産まれて7年家庭に入っているため、社会復帰に不安があり、なかなか前向きになれない
次の仕事が決まっているため、その仕事に必要な勉強に時間をさく必要があるため
定年退職後は受けた情は地域に恩返しと思い地域活動に参加している
老人だから
老齢だから

◆20 歳以上結果

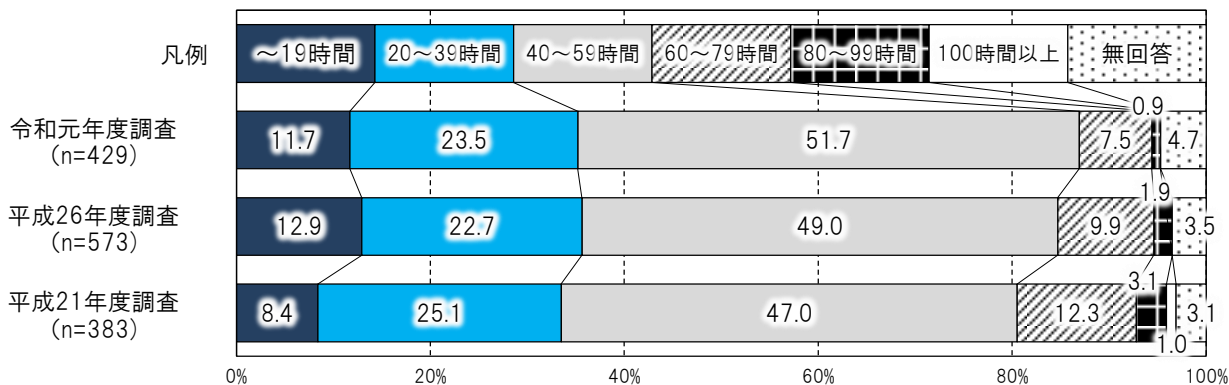
◇性別:「定年退職したため」の回答割合は、「男性」(58.7%)が「女性」(24.4%)より 34.3 ポイント高い。  
また、「育児や介護等のため」の回答割合は、「女性」(32.2%)が「男性」(2.2%)より 30.0 ポイント高い。

## (5) 週の就労時間と就労日数

※ 問14で「1(職業に)就いている」と答えた方にお尋ねします。

問 16 ①平均すると1週間に何時間働いていますか。2つ以上の仕事に就いている方はその合計でお答えください。ただし、仕事の休息時間は除きます。

●女性も男性も最多は「40～59時間」。



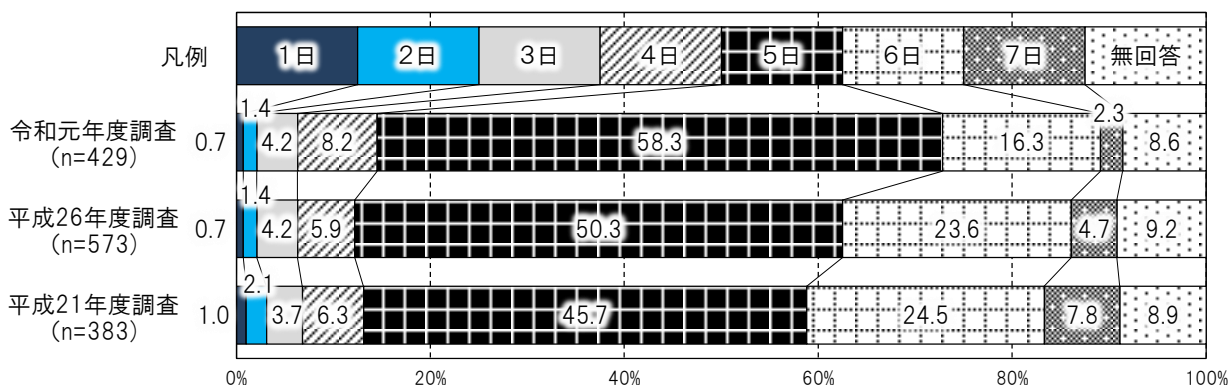
### ◆20歳以上結果

◇性別:『40時間以上』の回答割合は、「男性」(75.8%)が「女性」(46.2%)より29.6ポイント高い。

◇性・年代別:女性で『40時間以上』と回答した人は、「30歳代」(61.2%)では6割を占めている。男性で『40時間以上』と回答した人は、「40歳代」(95.0%)では9割強を占めている。

問 16 ②日数では週に何日働いていますか。(仮に、1日1~2時間でも働いていれば、1日と数えてお答えください。)

●女性も男性も最多は「5日」。



### 20歳以上結果

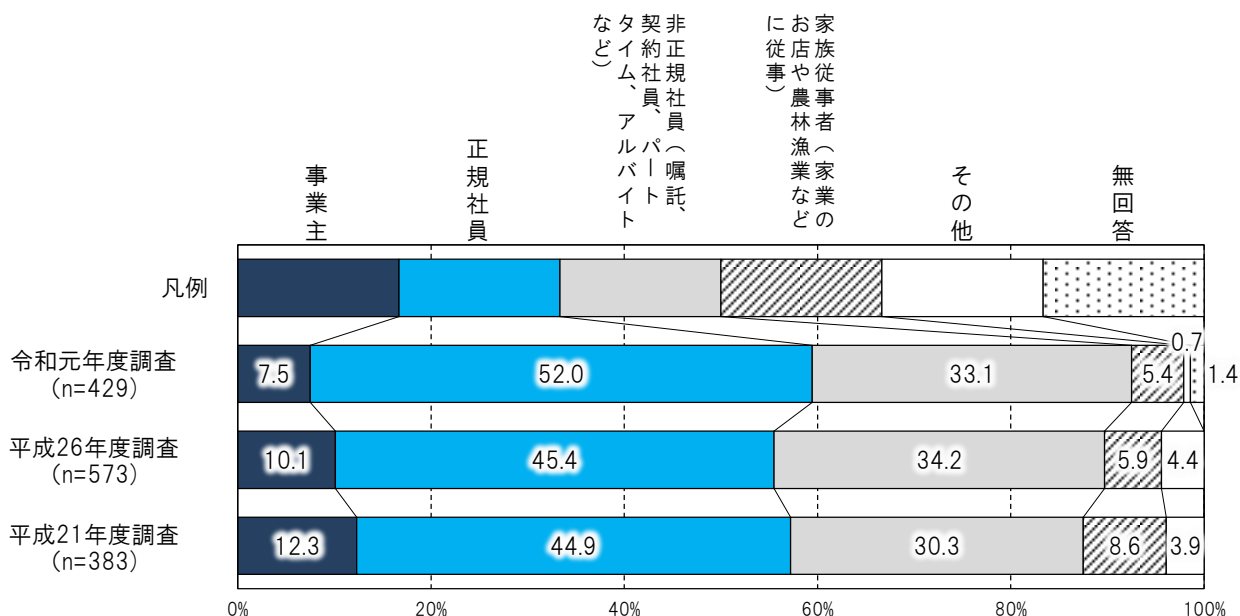
◇性別:『5日以上』の回答割合は、「男性」(80.3%)が「女性」(73.8%)より6.5ポイント高い。

◇性・年代別:女性で『5日以上』と回答した人は、「30歳代」(81.6%)では8割を占めている。男性で『5日以上』と回答した人は、「40歳代」(97.5%)では9割強を占めている。

## (6) 就労形態等

問 17 今どのような形で働いていますか。

●「正規社員」が半数を超え、「非正規社員」は約3割を占める



### ◆20歳以上結果

◇性別: 「正規社員」の回答割合は、「男性」(63.6%)が「女性」(41.2%)より22.4ポイント高い。

なお、女性は「非正規社員(嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど)」(45.2%)が「正規社員」(41.2%)より多い。

◇性・年代別: 女性で「正規社員」と回答した人は、「20歳代」(65.4%)では6割以上を占めている。

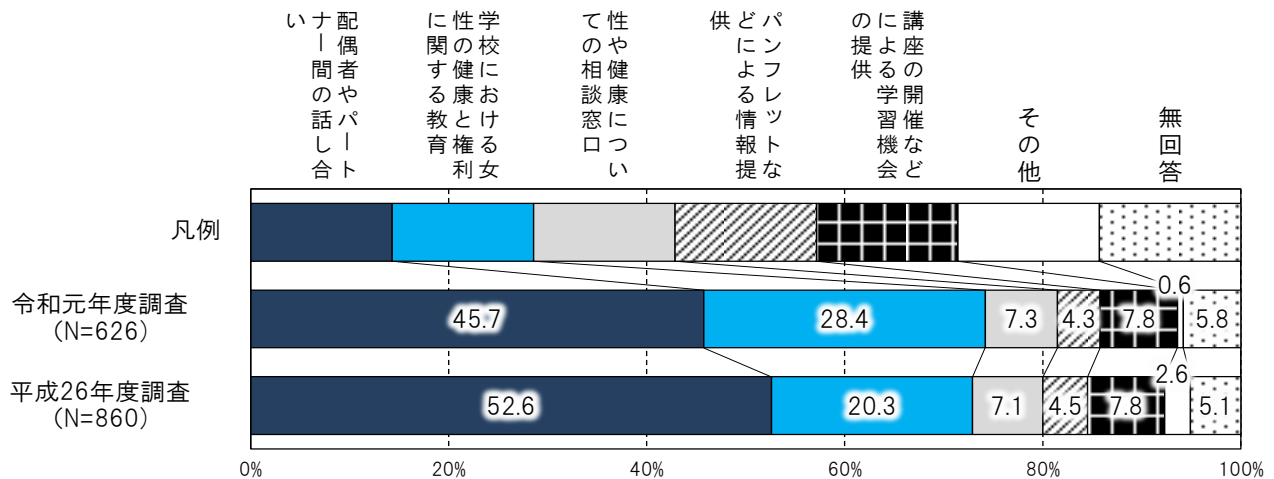
男性で「正規社員」と回答した人は、「30歳代」(88.9%)では約9割を占めている。

## 4 健康・福祉について

### (1) 妊娠、出産、性生活に対する考え

問 18 妊娠・出産・性生活にかかわる女性の権利・健康や性感染症の予防について、みんなが互いに理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。

●「配偶者やパートナー間の話し合い」の回答が4割強で最も多い



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:「配偶者やパートナーとの話し合い」の回答割合は、女性(65.4%)が男性(47.6%)より 17.8 ポイント高い。

#### ◆20歳以上結果

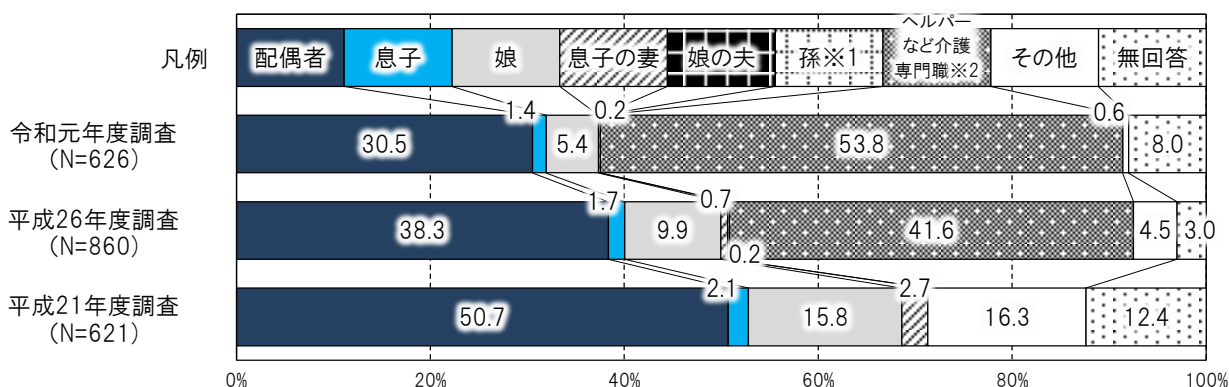
◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示しているが、「配偶者やパートナーとの話し合い」の回答割合は「男性 20歳代」(63.6%)が他の層に比べ最も高い。

## (2) 望ましい介護者

問 19 「寝たきり」や「認知症」などにより、もしも在宅で介護を受けるようになった場合、誰に介護をしてもらいたいですか。

●女性「ヘルパーなどの介護専門職」、中・高年層の男性は「配偶者」を希望



※平成 21 年度調査では選択肢に「その他の家族」があったため「その他」に合算した。

※1 「孫」は、令和元年度調査より新たに設けた選択肢。

※2 「ヘルパーなど介護専門職」は、平成 26 年度調査より新たに設けた選択肢。

### ◆性別(女性計、男性計)結果

「ヘルパーなど介護専門職」の回答割合は、「女性」(66.0%)が「男性」(37.9%)より 28.1 ポイント高い。一方、男性は「配偶者」(49.6%)の回答割合が最も高い。

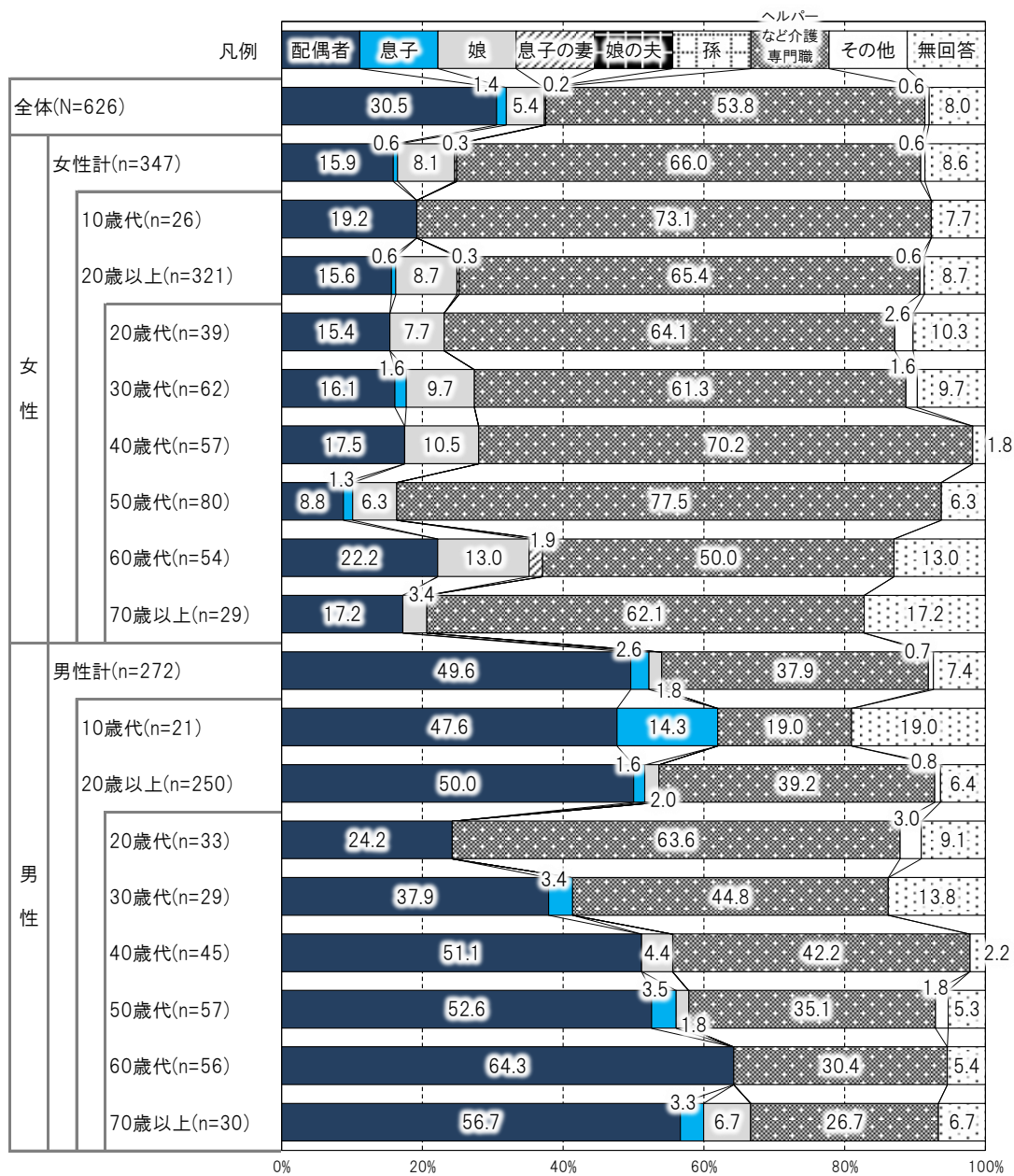
### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

◇性別: 女性は「ヘルパーなど介護専門職」(73.1%)、男性は「配偶者」(47.6%)の回答割合が最も高い。

### ◆20 歳以上結果

◇性別: 女性は「ヘルパーなど介護専門職」(65.4%)、男性は「配偶者」(50.0%)の回答割合が最も高い。

◇性・年代別: 女性は、すべての年代で「ヘルパーなど介護専門職」の回答割合が最も高く、中でも「40 歳代」(70.2%)、「50 歳代」(77.5%)で多くみられる。男性では、「20 歳代」及び「30 歳代」は「ヘルパーなど介護専門職」の回答割合が最も高く、『40 歳代以上』では「配偶者」の回答割合が最も高い。



## 5 女性の活躍について【新規項目】

### (1) 地域での女性の活躍状況

問 20 お住まいの地域では、下記の分野でどれくらい女性が活躍していると思いますか。【新規設問】

#### A 自治会

●『活躍している』(「とても活躍している」+「ある程度活躍している」)が約7割を占めている

#### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

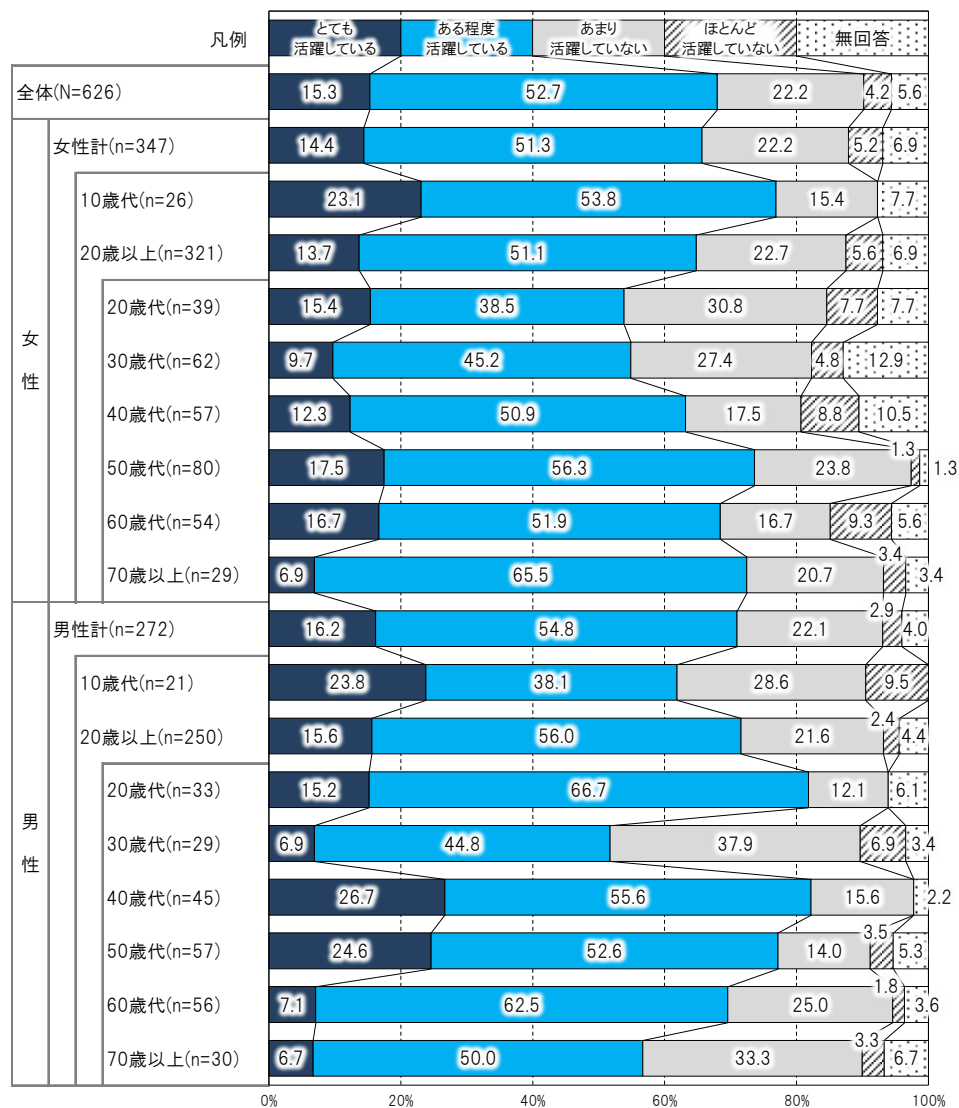
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『活躍している』と回答した人の割合は、「女性」(76.9%)が「男性」(61.9%)より15.0ポイント高い。

#### ◆20歳以上結果

◇性別:『活躍している』と回答した人の割合は、「男性」(71.6%)が「女性」(64.8%)より6.8ポイント高い。

◇性別・年代別:女性は、すべての年代で『活躍している』の回答割合が過半数を占め、中でも「50歳代」(73.8%)の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『活躍している』の回答割合が過半数を占め、中でも「40歳代」(82.3%)の割合が最も高い。



## B 子ども会、PTA、部活動の役員など

●『活躍している』(「とても活躍している」+「ある程度活躍している」)が8割以上を占めている

### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

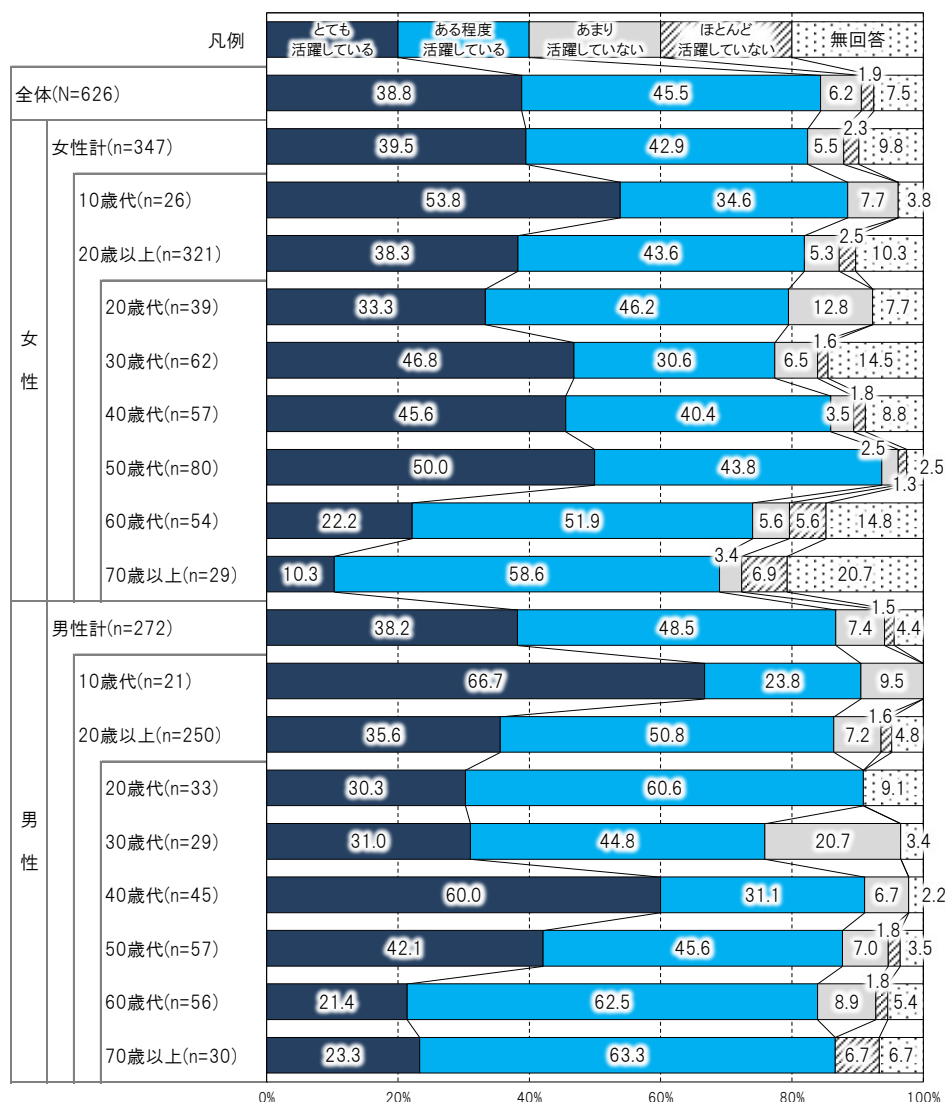
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:男女とも「とても活躍している」と回答した人の割合が突出している。

### ◆20歳以上結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:女性は、すべての年代で『活躍している』の回答割合が6割以上を占め、中でも「50歳代」(93.8%)の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『活躍している』の回答割合が7割以上を占め、中でも「40歳代」(91.1%)の割合が最も高い。



C 消防団・防災関係

●『活躍していない』(「あまり活躍していない」+「ほとんど活躍していない」)が7割強を占めている

◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

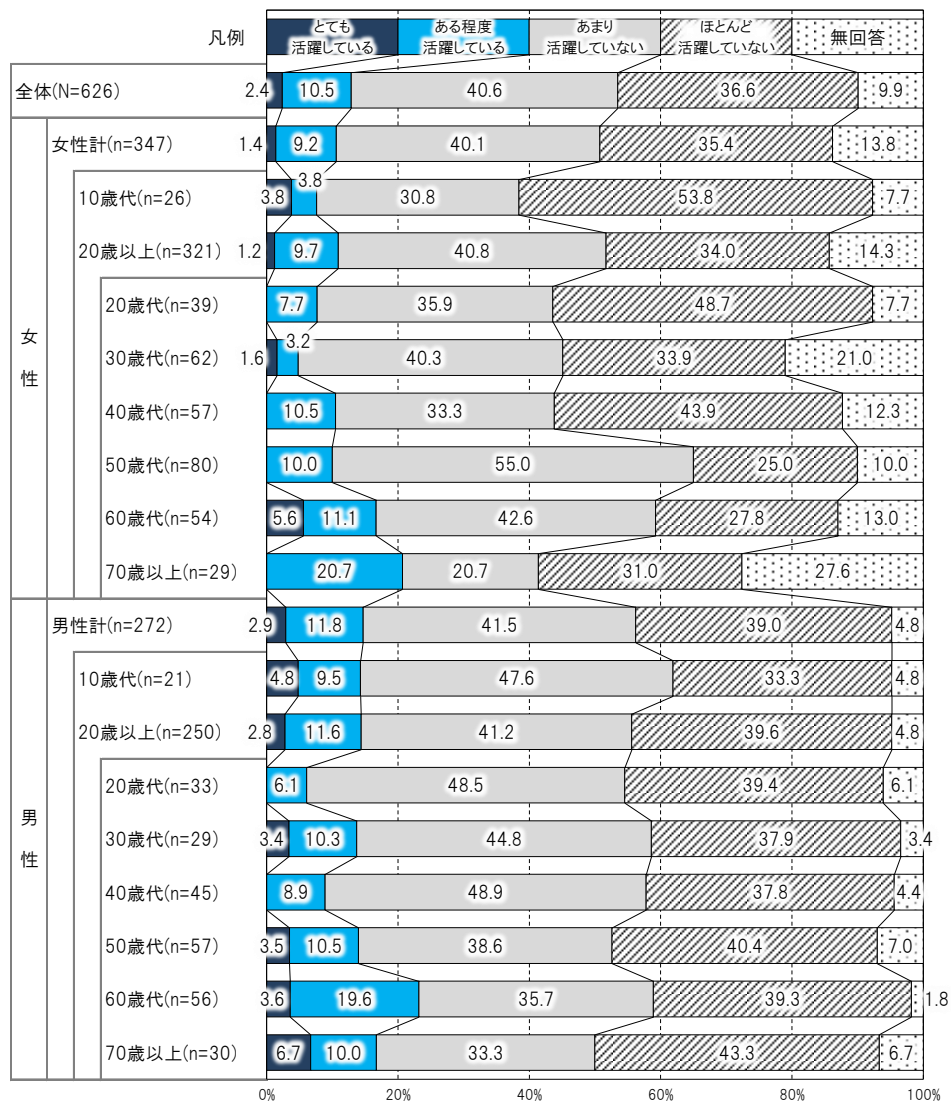
◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◆20歳以上結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:女性は、すべての年代で『活躍していない』の回答割合が過半数を占め、中でも「20歳代」(84.6%)の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『活躍していない』の回答割合が7割以上を占め、中でも「20歳代」(87.9%)の割合が最も高い。



D 民生委員・児童委員

●『活躍している』(「とても活躍している」+「ある程度活躍している」)が6割以上を占めている

◆性別(女性計、男性計)結果

『活躍している』と回答した人の割合は、「男性」(70.6%)が「女性」(59.6%)より11.0ポイント高い。

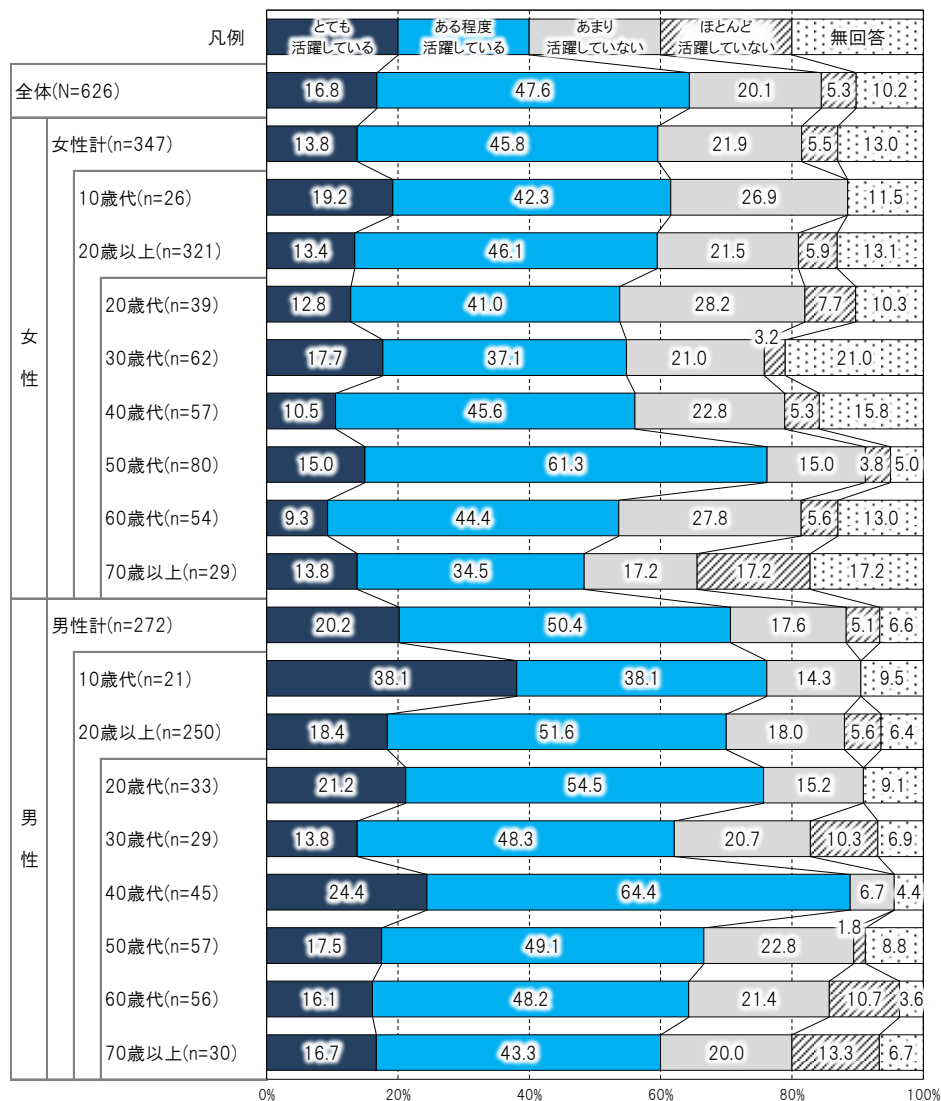
◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『活躍している』と回答した人の割合は、「男性」(76.2%)が「女性」(61.5%)より14.7ポイント高い。

◆20歳以上結果

◇性別:『活躍している』と回答した人の割合は、「男性」(70.0%)が「女性」(59.5%)より10.5ポイント高い。

◇性・年代別:女性は、「70歳以上」を除けば『活躍している』の回答割合が過半数を占め、中でも「50歳代」(76.3%)の割合が最も高い。一方、男性はすべての年代で『活躍している』の回答割合が6割以上を占め、中でも「40歳代」(88.8%)の割合が最も高い。



## E 体育協会・スポーツ関係の行事

●『活躍している』と『活躍していない』の回答に2分されている

### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

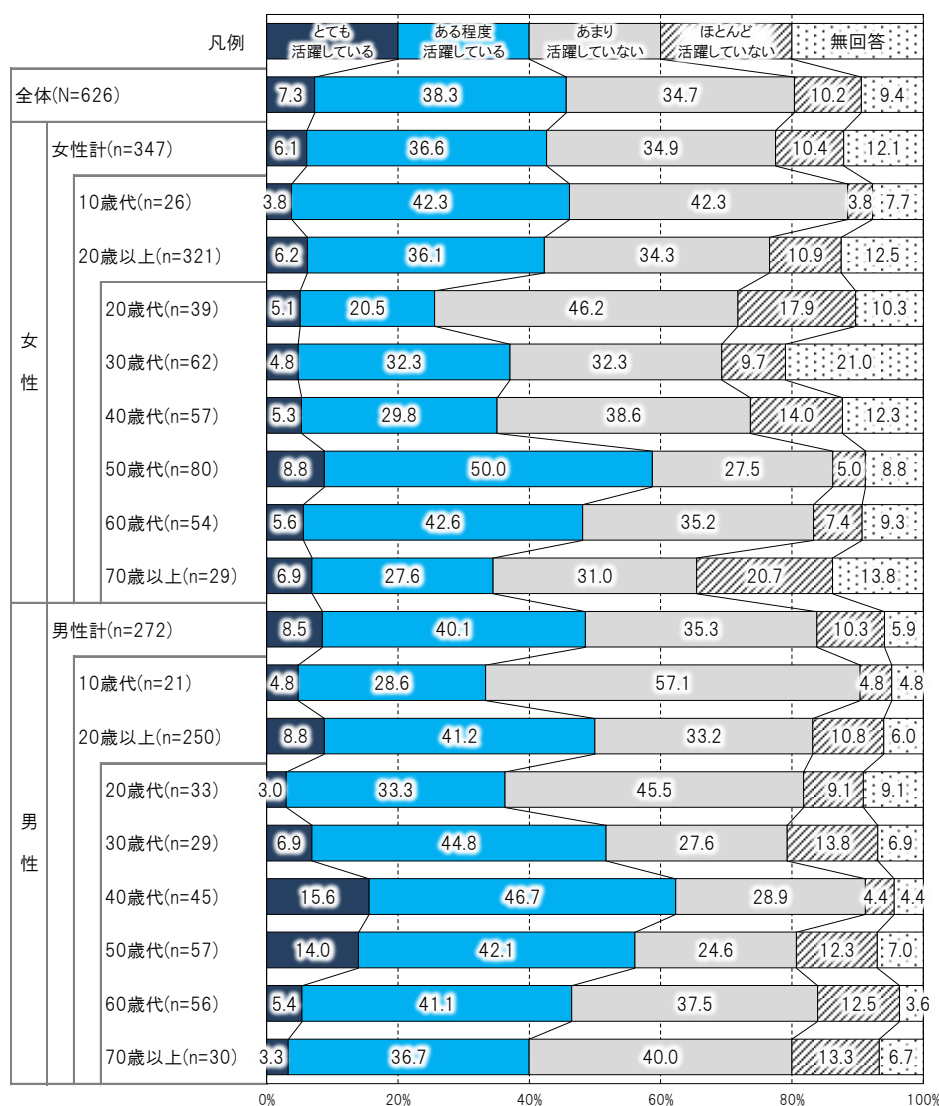
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別: 女性は全体結果とほぼ同様の回答傾向を示しているが、男性は『活躍していない』が61.9%で『活躍している』(33.4%)より28.5ポイント高い。

### ◆20歳以上結果

◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性別・年代別: 女性は年代により回答傾向が異なり、『活躍している』では「50歳代」(58.8%)、『活躍していない』では「20歳代」(64.1%)の割合が最も高い。一方、男性も年代により回答傾向が異なり、『活躍している』では「40歳代」(62.3%)、『活躍していない』では「20歳代」(54.6%)の割合が最も高い。



F 政治・議会

●『活躍していない』(「あまり活躍していない」+「ほとんど活躍していない」)が7割を占めている

◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

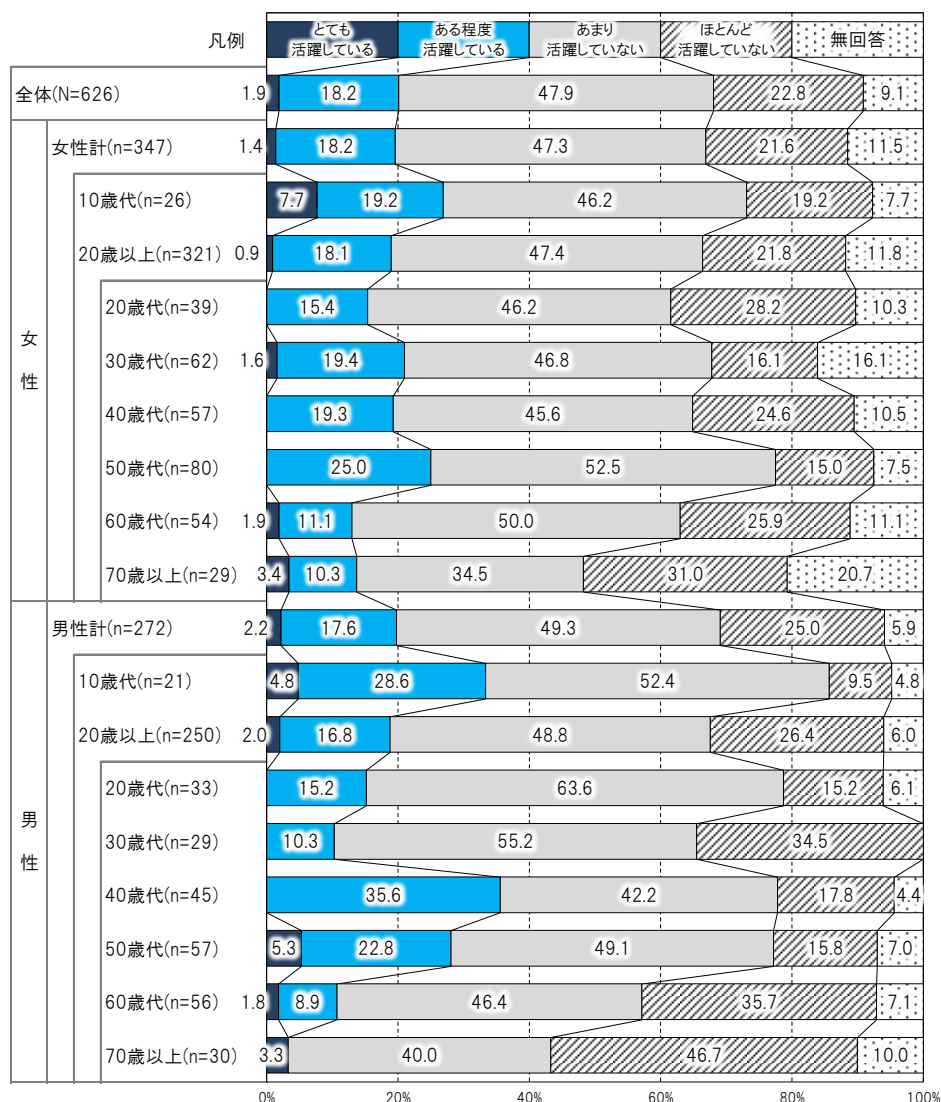
◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◆20歳以上結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

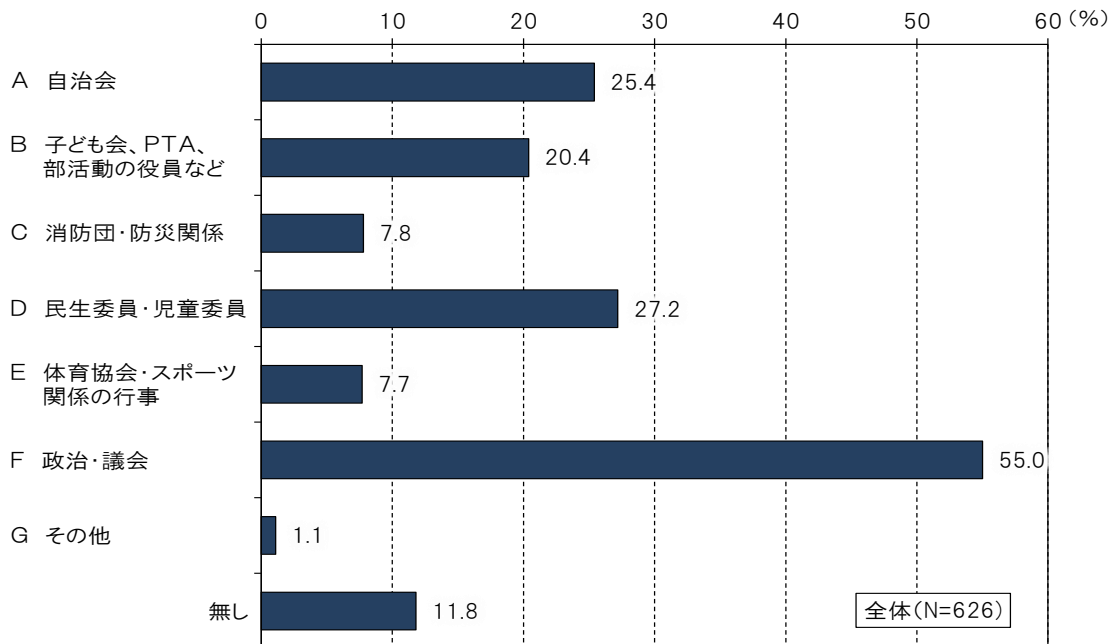
◇性・年代別:女性は、すべての年代で『活躍していない』の回答割合が6割以上を占め、中でも「60歳代」(75.9%)の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『活躍していない』の回答割合が6割以上を占め、中でも「30歳代」(89.7%)の割合が最も高い。また、男性の40歳代(35.6%)は「活躍している」と回答している割合が最も多い。



## (2)女性が活躍した方が良いと思う分野

問 21 どのような分野で、もっと女性が活躍した方が良いと思いますか。(複数回答可) 【新規設問】

●「政治・議会」が 55.0%で最も多い



### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:男女とも「政治・議会」と答えた人が最も多いが、「女性」(61.5%)が「男性」(38.1%)より 23.4 ポイント高い。

### ◆20歳以上結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:「男性 70 歳以上」を除くすべての層で「政治・議会」と回答する人が最も多く、男性 70 歳以上は「子ども会、PTA、部活動の役員など」(46.7%)を1番目にあげている。

### (3)市の方針決定等への女性の意見や考え方の反映程度

問 22 市の予算の使い方や市の方針を決めることについて、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。【新規設問】

●「わからない」が4割を占めるが、『反映されていない』は3割強、『反映されている』は2割弱

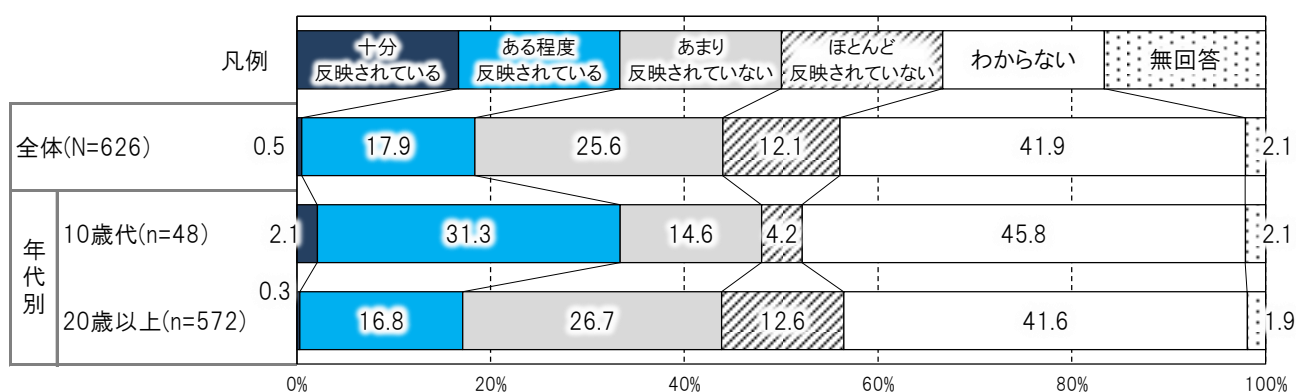
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別: 男性は、『反映されている』と答える人が42.9%と、『反映されていない』(14.3%)を大きく上回っている。

#### ◆20歳以上結果

◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別: 女性は、すべての年代で『反映されていない』と答える人が多く、中でも「40歳代」(47.4%)の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『反映されていない』と答える人が多く、中でも「70歳以上」(50.0%)の割合が最も高い。

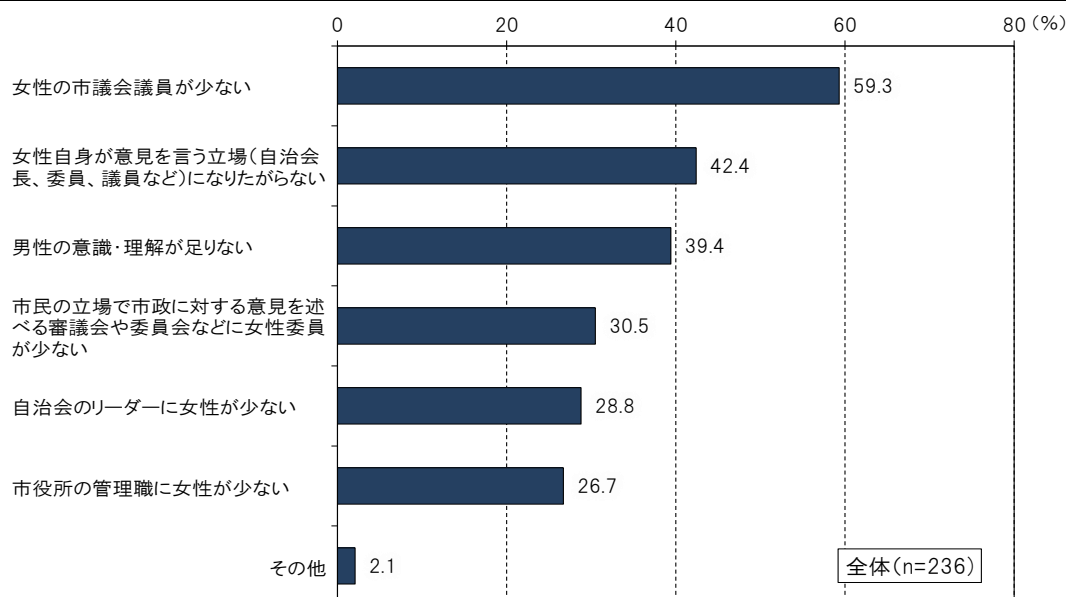


### (4)市の方針決定等に女性の意見や考え方が反映されていない理由

※ 問 22 で「3 あまり反映されていない」「4 ほとんど反映されていない」と答えた方にお尋ねします。

問 23 その理由は何ですか。(複数回答可)

●「女性の市議会議員が少ない」が59.3%で最も多い



## 6 LGBTについて【新規項目】

### (1)「LGBT」の認知

問 24 「LGBT」という用語を聞いたことがありますか。【新規設問】

●LGBTの「内容を知っている」は 53.7%、「聞いたことがある」を含めると 78.0%

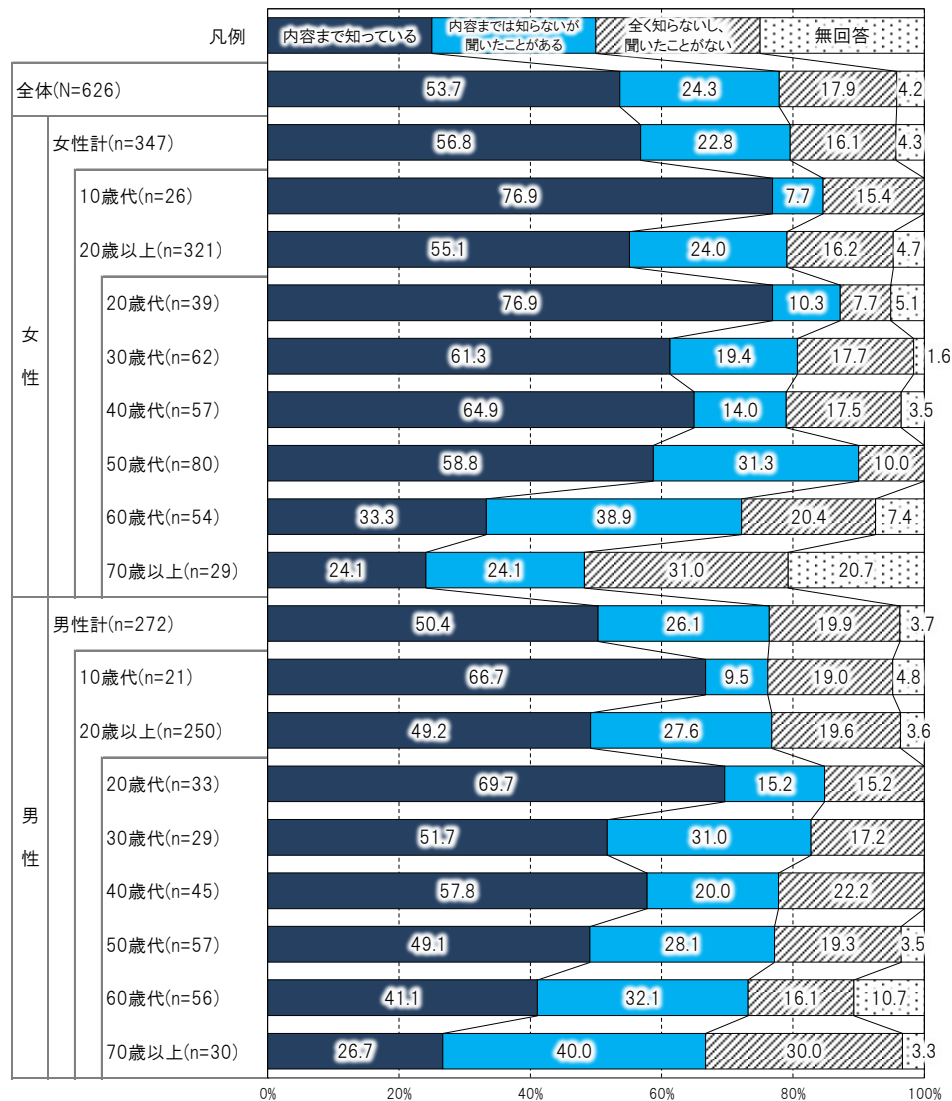
#### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

◇性別:LGBTの「内容まで知っている」と回答した人の割合は、男女とも約7割と高い。

#### ◆20 歳以上結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:女性は、年齢が低いほどLGBTの「内容まで知っている」と答える人が多く、中でも「20 歳代」(76.9%)の割合が最も高い。また、LGBTの「内容までは知らないが聞いたことがある」と答える人を含めると「50 歳代」(90.1%)の割合が最も高い。一方、男性も年齢が低いほどLGBTの「内容まで知っている」と答える人が多く、中でも「20 歳代」(69.7%)の割合が最も高い。また、LGBTの「内容までは知らないが聞いたことがある」と答える人を含めると「20 歳代」(84.9%)の割合が最も高い。



## (2) LGBT関連の取り組みに関する考え

問 25 下記のような取り組みについて、どのような考えをお持ちですか。【新規設問】

### A 制服選択制の導入

※ 学校の制服として、スカートかズボンか、ブレザーか学生服かなどを、性別にかかわらず、生徒自身が選べるようにすること。

●『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が7割を占めており、「男性」より「女性」、高齢者より若年者で『賛成』の人が多い

#### ◆性別（女性計、男性計）結果

男女ともに『賛成』と回答した人の割合が高く、「女性」（78.4%）が「男性」（66.9%）より 11.5 ポイント高い。

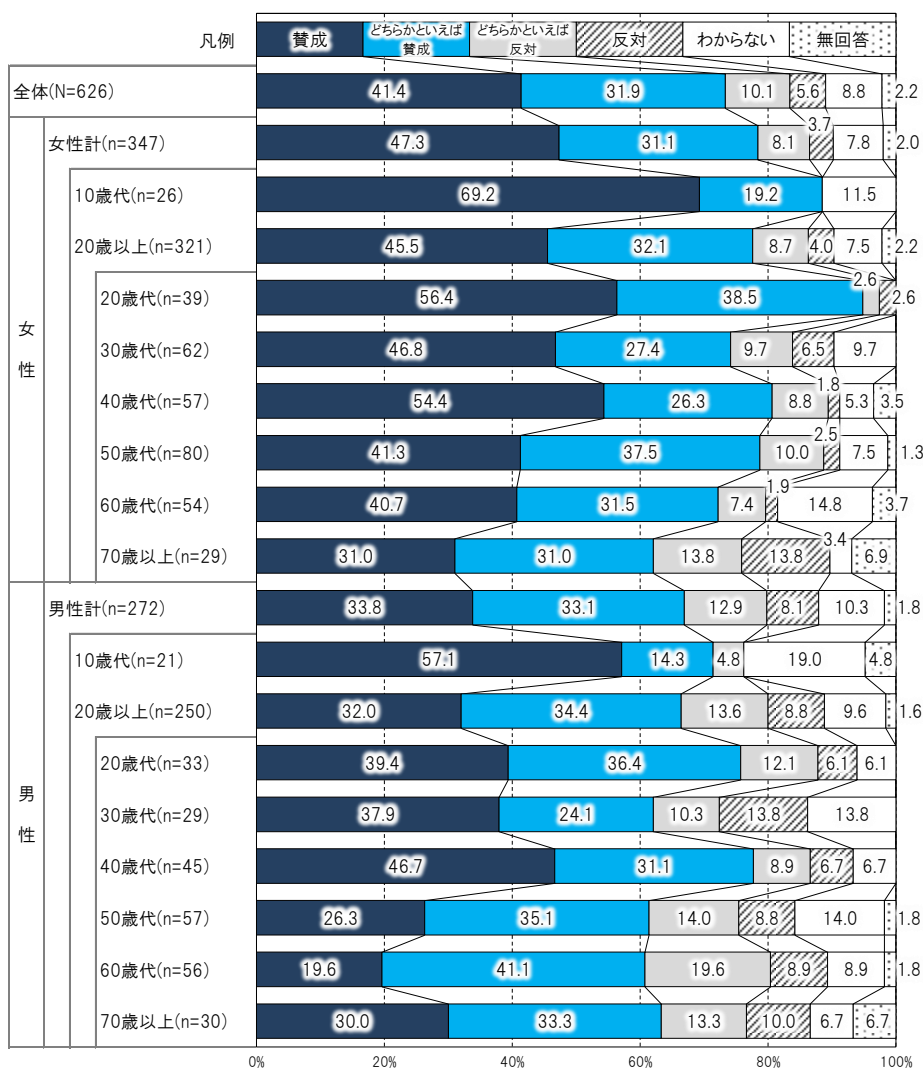
#### ◆10 歳代（16 歳～19 歳）結果

◇性別：『賛成』と回答した人の割合は、「女性」（88.4%）が「男性」（71.4%）より 17.0 ポイント高い。

#### ◆20 歳以上結果

◇性別：『賛成』と回答した人の割合は、「女性」（77.6%）が「男性」（66.4%）より 11.2 ポイント高い。

◇性・年代別：女性は、すべての年代で『賛成』の回答割合が6割以上を占め、年齢が低いほど回答割合が高い傾向がみられる。中でも「20 歳代」（94.9%）の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『賛成』の回答割合が6割以上を占め、中でも「40 歳代」（77.8%）の割合が最も高い。



## B 男女混合名簿の使用

※ 特に学校において、性別に関係なく、生年月日や五十音などにより並べた名簿。

●『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が約7割を占めており、「男性」より「女性」で『賛成』の人が多い

### ◆性別（女性計、男性計）結果

男女ともに『賛成』と回答した人の割合が高く、「女性」（72.9%）が「男性」（62.5%）より 10.4 ポイント高い。

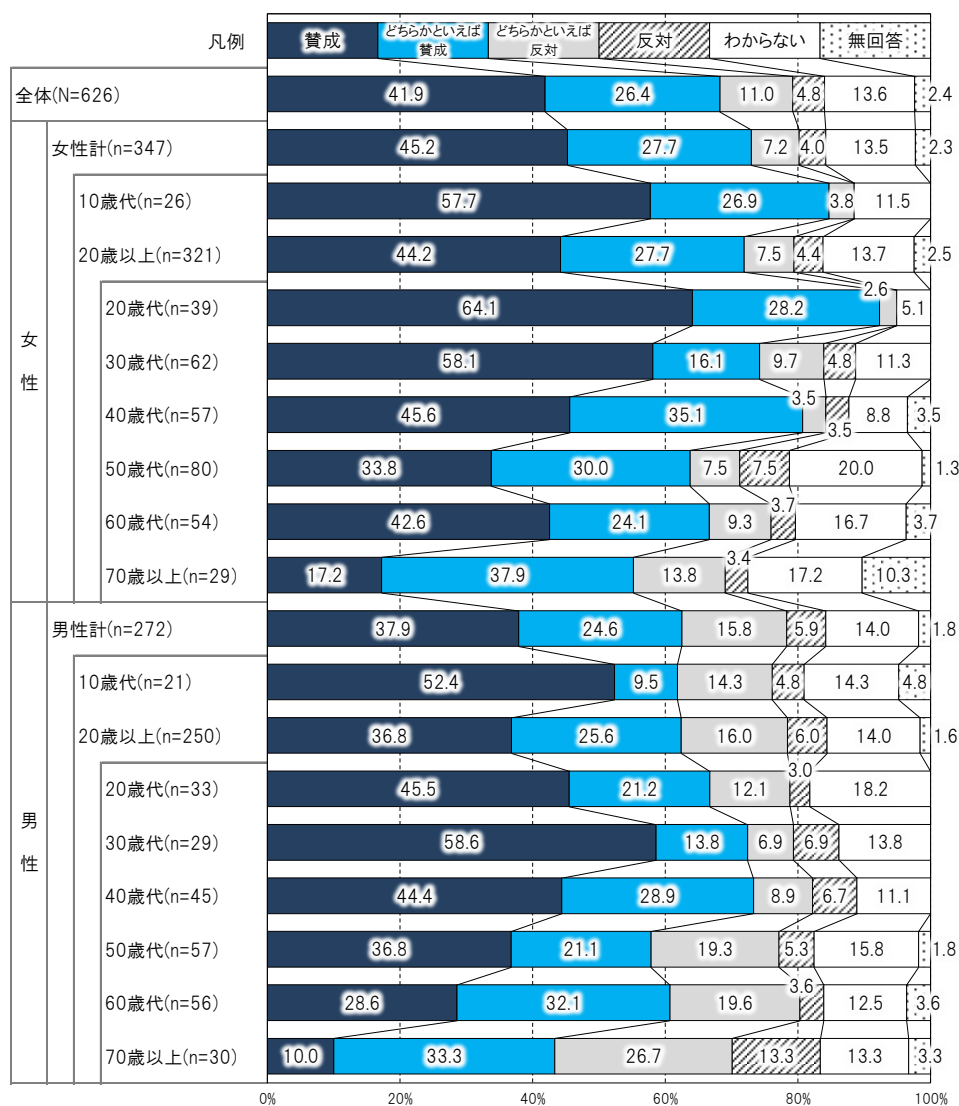
### ◆10歳代（16歳～19歳）結果

◇性別：『賛成』と回答した人の割合は、「女性」（84.6%）が「男性」（61.9%）より 22.7 ポイント高い。

### ◆20歳以上結果

◇性別：『賛成』と回答した人の割合は、「女性」（71.9%）が「男性」（62.4%）より 9.5 ポイント高い。

◇性別・年代別：女性は、すべての年代で『賛成』の回答割合が半数以上を占め、年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられる。中でも「20歳代」（92.3%）の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『賛成』と答える人が多く、中でも「40歳代」（73.3%）の割合が最も高い。



C ジェンダーフリートイレ（みんなのトイレなど）の増設

※ 女性用トイレ、男性用トイレとは別に性別に関係なく使えるトイレ。

●『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が6割を占めており、「男性」より「女性」、高齢者より若年者で『賛成』の人が多い

◆性別（女性計、男性計）結果

男女ともに『賛成』と回答した人の割合が高く、「女性」（67.7%）が「男性」（51.8%）より15.9ポイント高い。

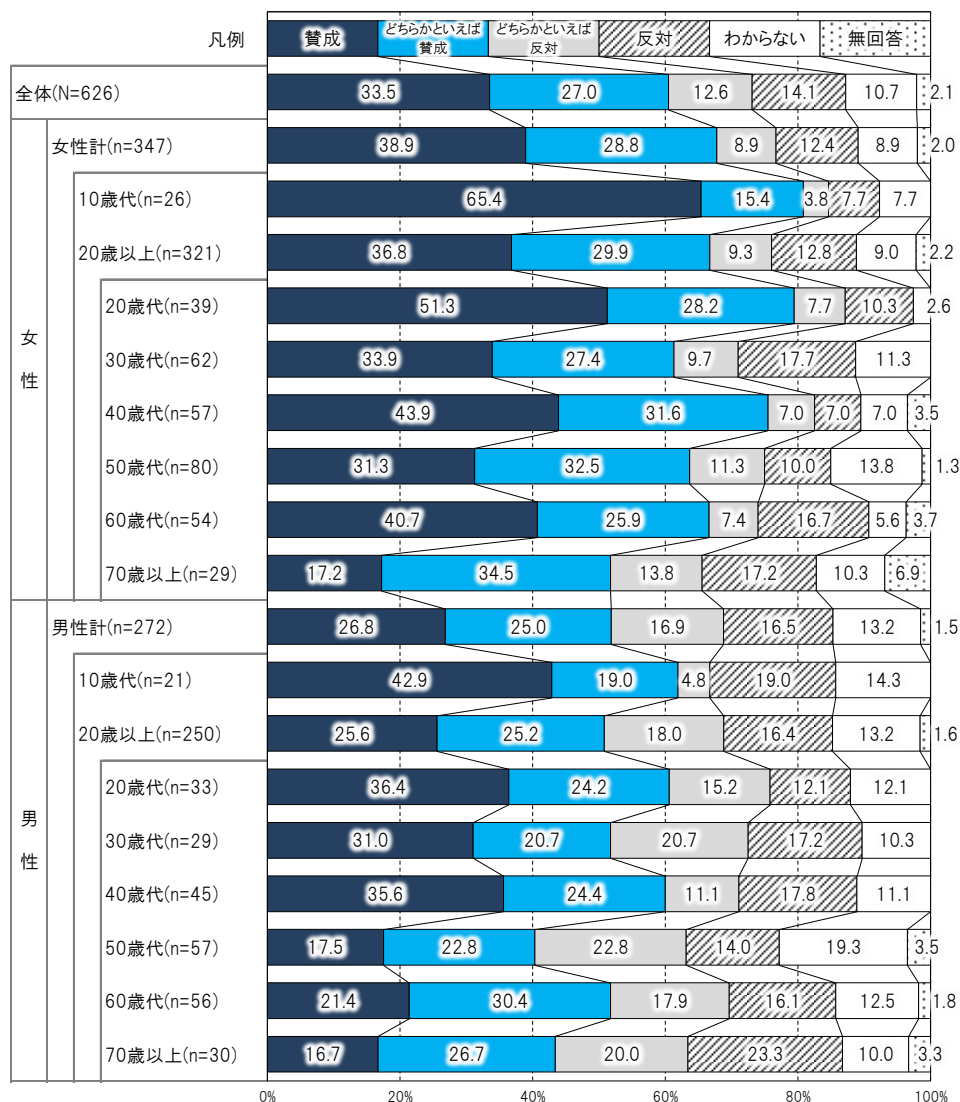
◆10歳代（16歳～19歳）結果

◇性別：『賛成』と回答した人の割合は、「女性」（80.8%）が「男性」（61.9%）より18.9ポイント高い。

◆20歳以上結果

◇性別：『賛成』と回答した人の割合は、「女性」（66.7%）で、「男性」（50.8%）より15.9ポイント高い。

◇性・年代別：女性は、すべての年代で『賛成』の回答割合が半数以上を占め、年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられる。中でも「20歳代」（79.5%）の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『賛成』と答える人が多く、年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられる。中でも「20歳代」（60.6%）の割合が最も高い。



## D 同性婚の法制化

※ 女性と女性、男性と男性のカップルが法律上の結婚ができるよう立法すること。なお、同性婚は日本では法的に認められていないが、ヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国等では法的に認められている。

●『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が6割を占めており、「男性」より「女性」、高齢者より若年者で『賛成』の人が多い

### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに『賛成』と回答した人の割合が高く、「女性」(69.2%)が「男性」(49.6%)より 19.6 ポイント高い。

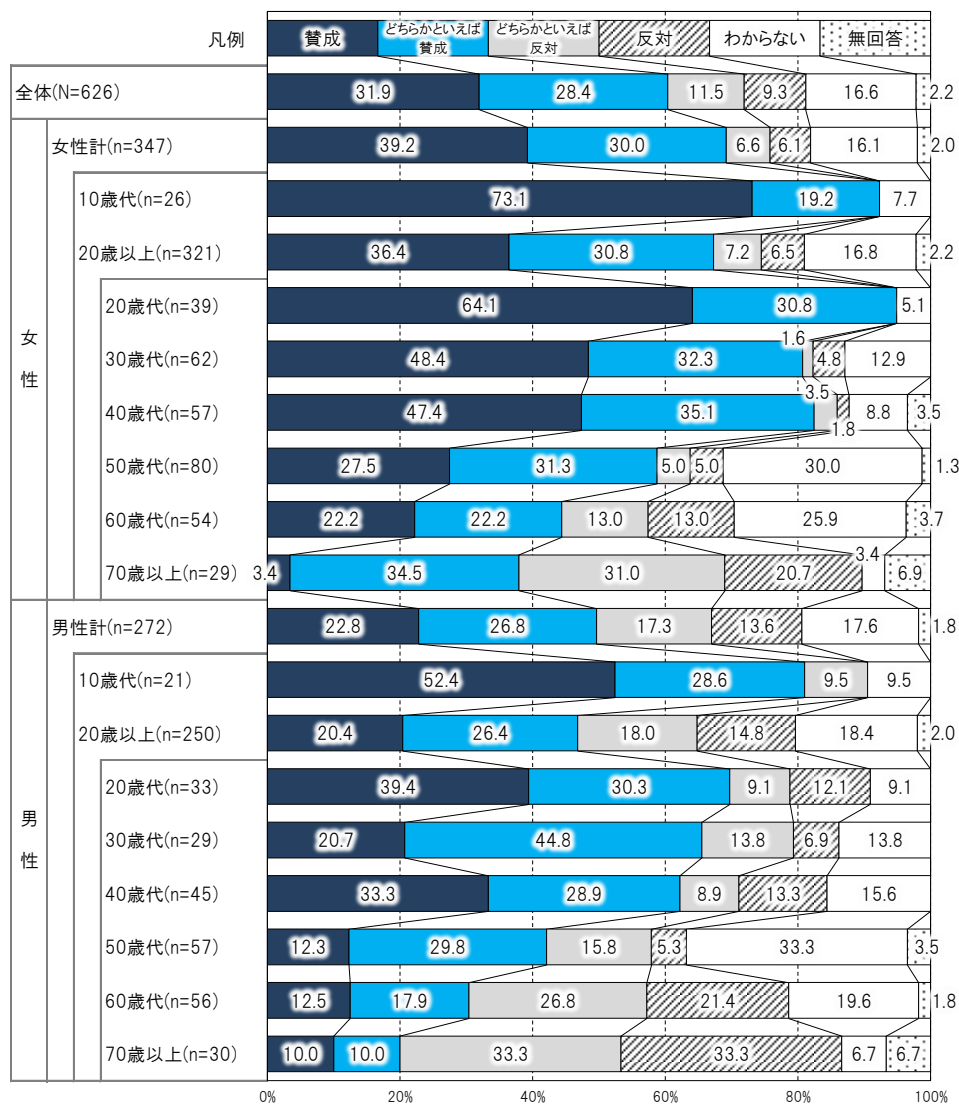
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」(92.3%)が「男性」(81.0%)より 11.3 ポイント高い。

### ◆20歳以上結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」(67.2%)が「男性」(46.8%)より 20.4 ポイント高い。

◇性・年代別:女性は、年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられ、中でも「20歳代」(94.9%)の割合が最も高い。一方、男性も年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられ、中でも「20歳代」(69.7%)の割合が最も高い。



## E パートナーシップ証明制度の導入

※ 同性どうしのカップルについて、結婚に相当するパートナー関係であることを公的に証明する制度で、東京都渋谷区や福岡市などが実施。ただし、法律婚とは異なり法的効力は無い

●『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が6割強を占めており、「男性」より「女性」、高齢者より若年者で『賛成』の人が多い

### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに『賛成』と回答した人の割合が高く、「女性」(71.7%)が「男性」(56.6%)より 15.1 ポイント高い。

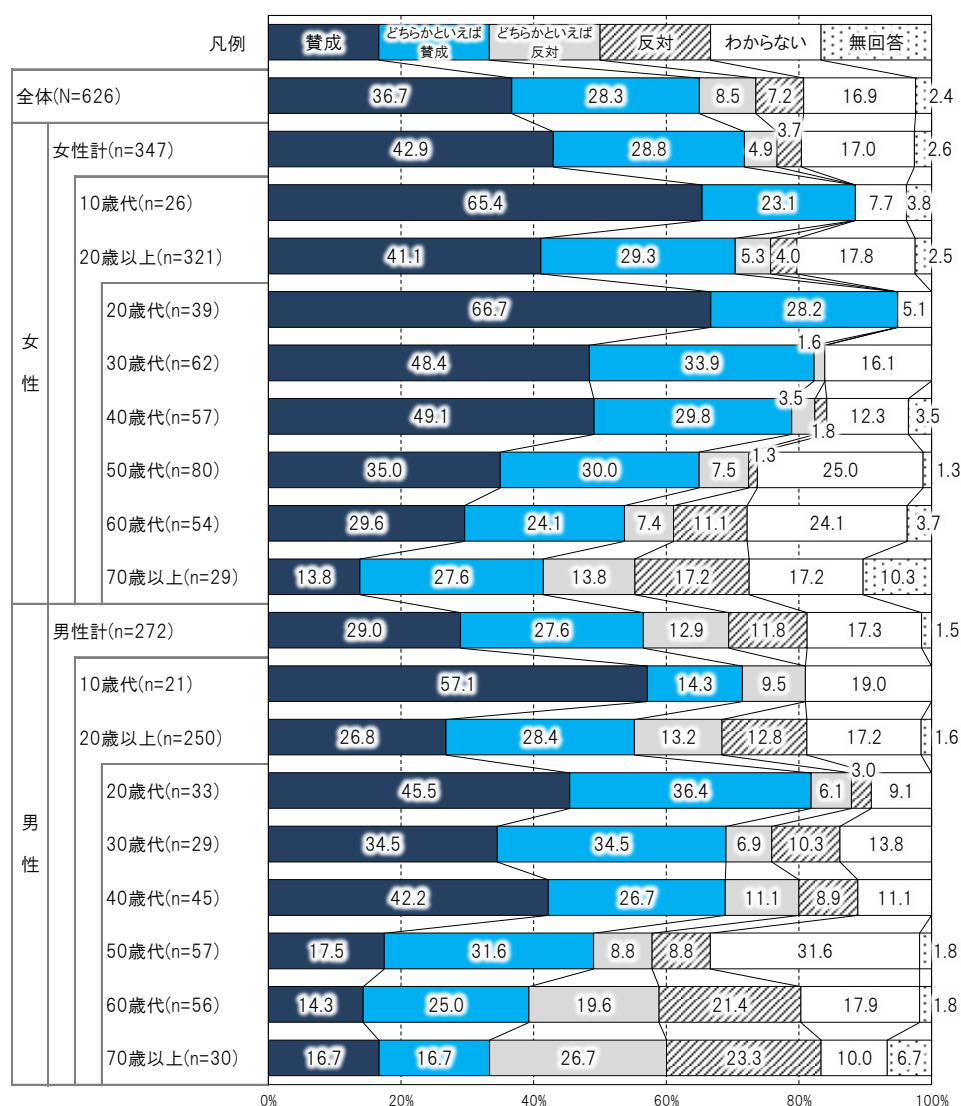
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」(88.5%)が「男性」(71.4%)より 17.1 ポイント高い。

### ◆20歳以上結果

◇性別:『賛成』と回答した人の割合は、「女性」(70.4%)が「男性」(55.2%)より 15.2 ポイント高い。

◇性・年代別:女性は、年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられ、中でも「20歳代」(94.9%)の割合が最も高い。一方、男性も年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられ、中でも「20歳代」(81.9%)の割合が最も高い。

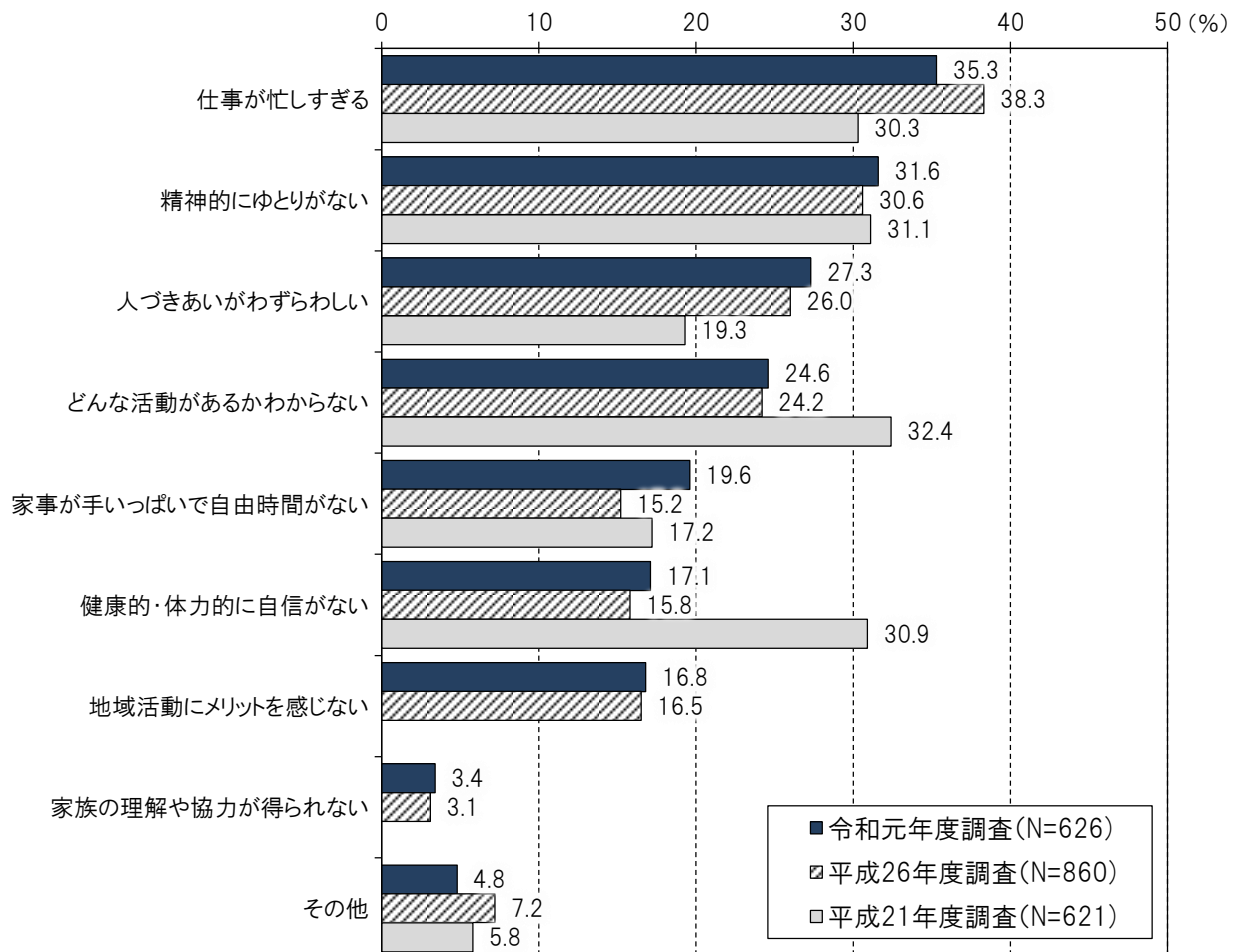


## 7 地域活動について

### (1) 地域活動をする場合の障がい

問 26 自治会などの地域活動をする場合に、障がいになるようなことがありますか。(複数回答可)

●上位3項目は、「仕事が忙しすぎる」「精神的にゆとりがない」「人づきあいがわずらわしい」



※ 平成 21 年度調査では、自治会やボランティアなどの社会活動をする場合の障がいとして質問を行った。

#### ◆20 歳以上結果

◇性別: 女性は「精神的にゆとりがない」、男性は「仕事が忙しすぎる」と回答する人が最も多い。

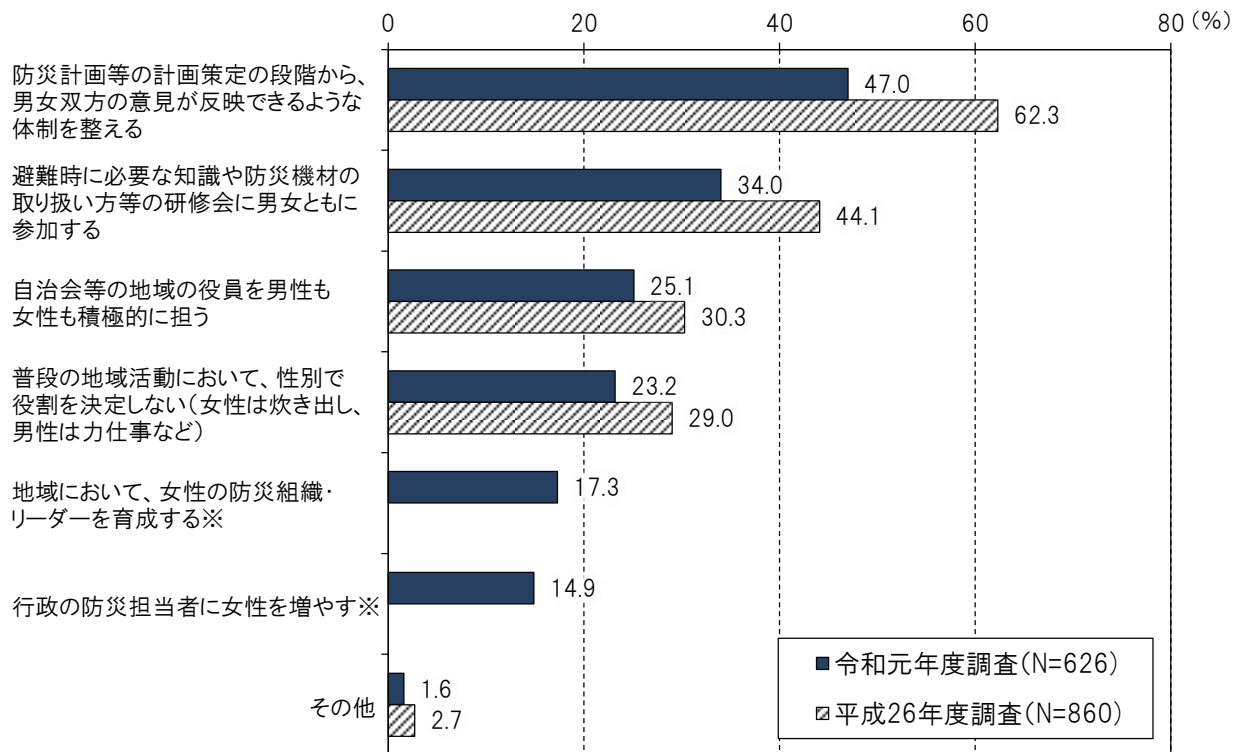
◇性・年代別: 女性は年代により回答傾向が大きく異なるものの、男性は 70 歳以上を除けば各年代とも「仕事が忙しすぎる」と回答する人が最も多い。

## (2)防災・災害復興時において、男女共同参画に根ざした対応をとるために必要なこと

問 27 防災・災害復興時において、男女共同参画に根ざした対応をとるためには何が必要だと思いますか。(複数回答可)

※ 東日本大震災時には、避難所でプライバシーが守られなかったり、共同作業の内容に男女で偏りがみられたりするなど、さまざまな問題が発生しました。

●上位2項目は、「防災計画策定段階から意見が反映される体制整備」「必要な知識や防災機材の取扱い方等の研修会」



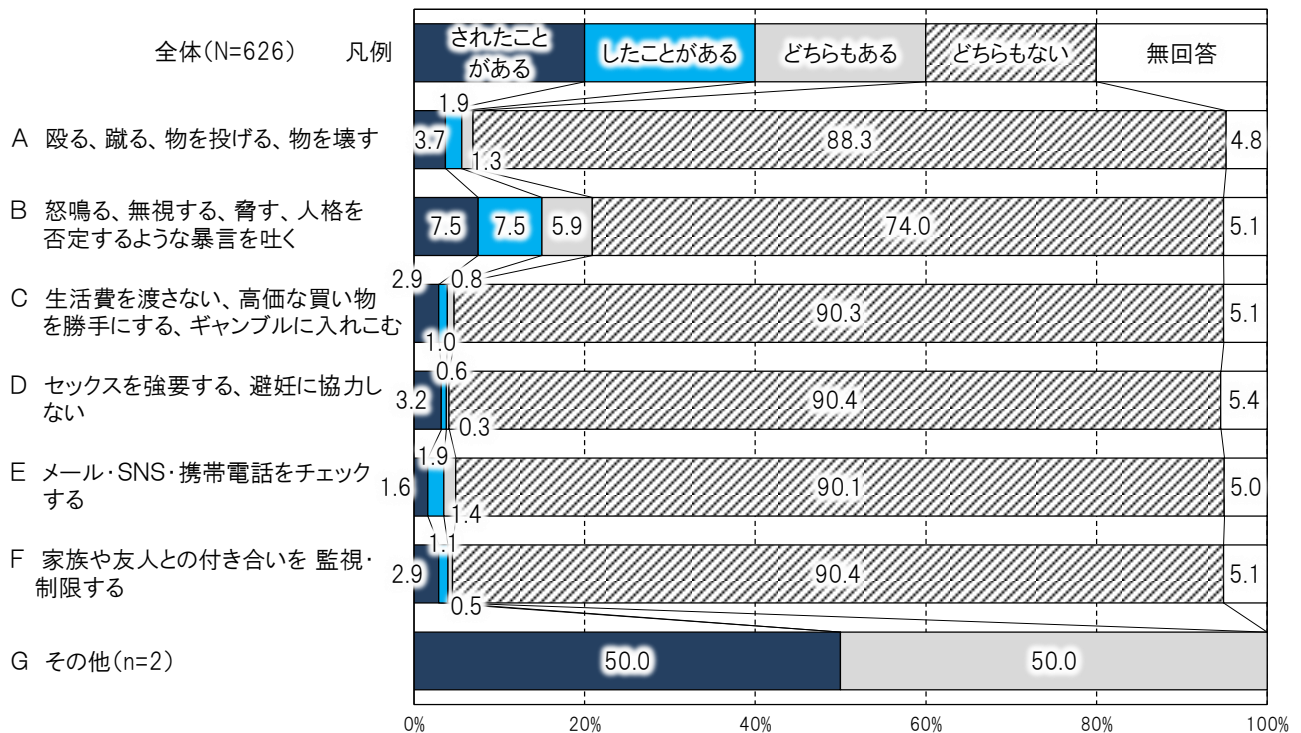
※ 「地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する」「行政の防災担当者に女性を増やす」は、令和元年度調査より新たに設けた選択肢。

## 8 人権について

### (1)ドメスティック・バイオレンスの実態と対応

問 28 この5年以内に夫婦や恋人同士などの親しい間の方からの暴力(DV)について、次にあげるようなことをしたり、されたりしたことがありますか。

●<怒鳴る、無視する、脅す、人格を否定するような暴言を吐く>は、「されたことがある」「したことがある」のいずれも最も多い

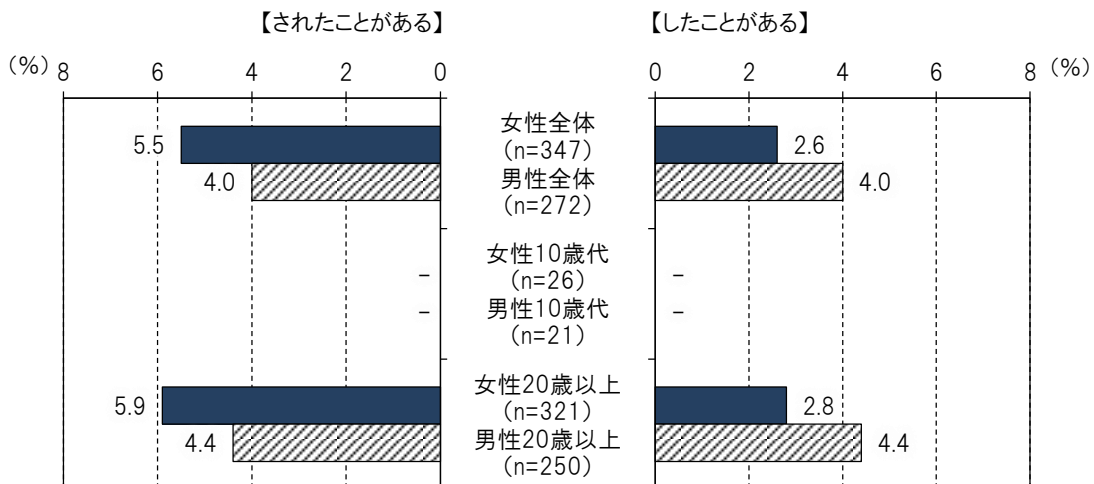


#### ■A 殴る、蹴る、物を投げる、物を壊す

身体的な暴力をについて女性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(5.5%)、「したことがある(能動経験)」(2.6%)であり、受動経験が能動経験を上回っている。

一方、男性全体では、受動経験と能動経験の割合が同率となっている。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の回答傾向となっている。

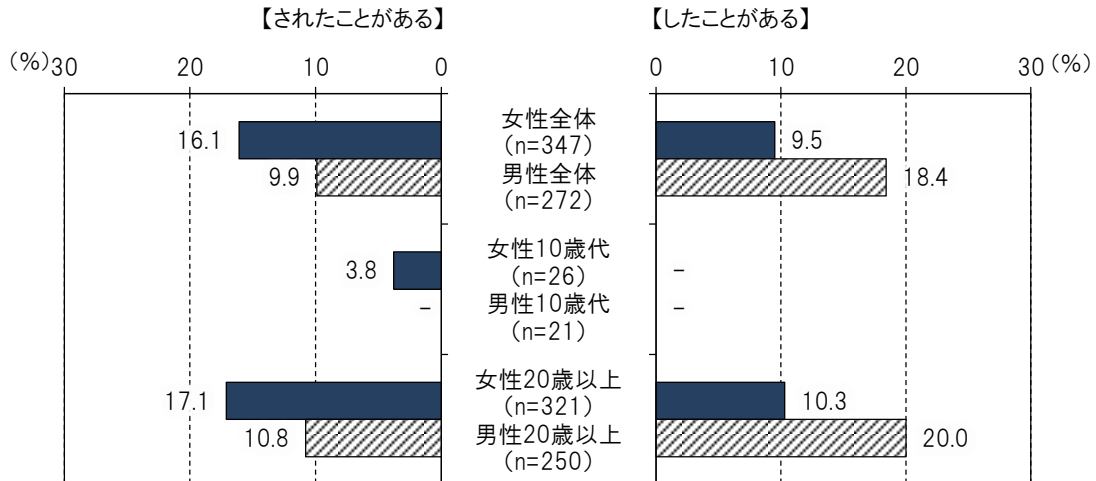


## ■B 怒鳴る、無視する、脅す、人格を否定するような暴言を吐く

精神的な暴力について女性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(16.1%)、「したことがある(能動経験)」(9.5%)であり、受動経験が能動経験を上回っている。

一方、男性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(9.9%)、「したことがある(能動経験)」が(18.4%)であり、女性とは異なり、能動経験が受動経験を上回っている。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の回答傾向となっている。

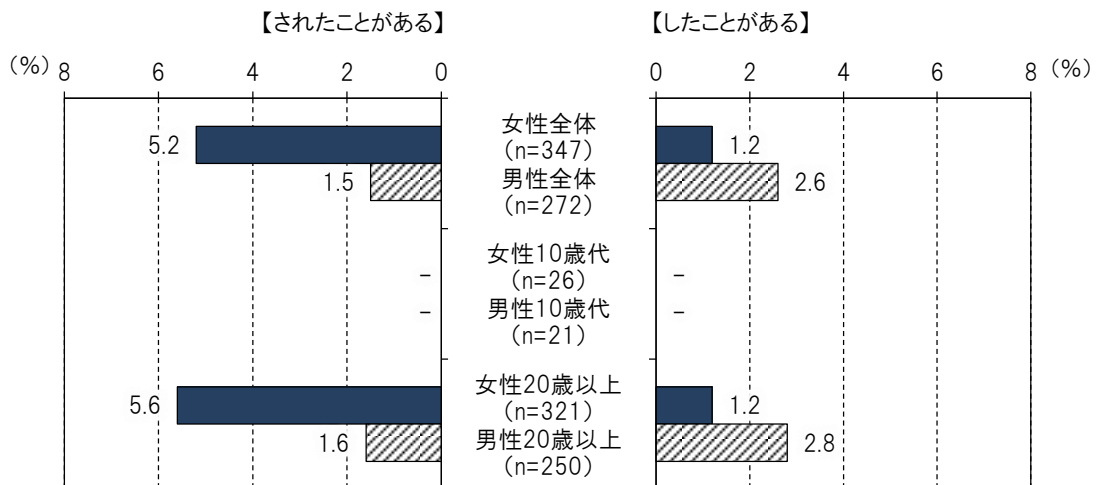


## ■C 生活費を渡さない、高価な買い物を勝手にする、ギャンブルに入れこむ

経済的な暴力について女性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(5.2%)、「したことがある(能動経験)」が1.2%であり、受動経験が能動経験を上回っている。

一方、男性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(1.5%)、「したことがある(能動経験)」(2.6%)となっている。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の回答傾向となっている。

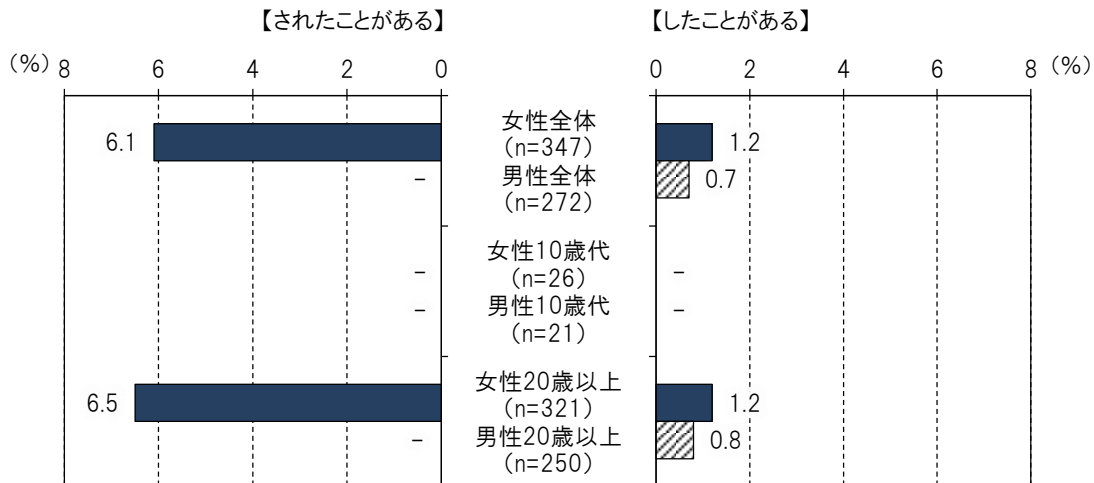


## ■D セックスを強要する、避妊に協力しない

性的な暴力について女性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(6.1%)、「したことがある(能動経験)」(1.2%)であり、受動経験が能動経験を上回っている。

一方、男性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」は皆無だが、「したことがある(能動経験)」(0.7%)は僅かながらみられる。

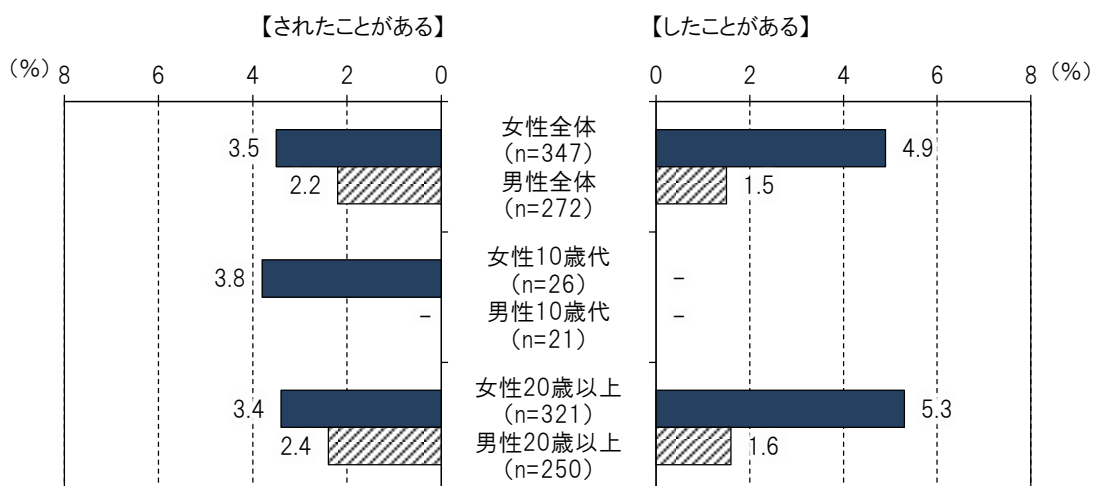
前回調査と比較すると、ほぼ同様の回答傾向となっている。



## ■E メール・SNS・携帯電話をチェックする

メール・SNS・携帯電話をチェックする暴力について女性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(3.5%)、「したことがある(能動経験)」(4.9%)であり、能動経験が受動経験を上回っている。

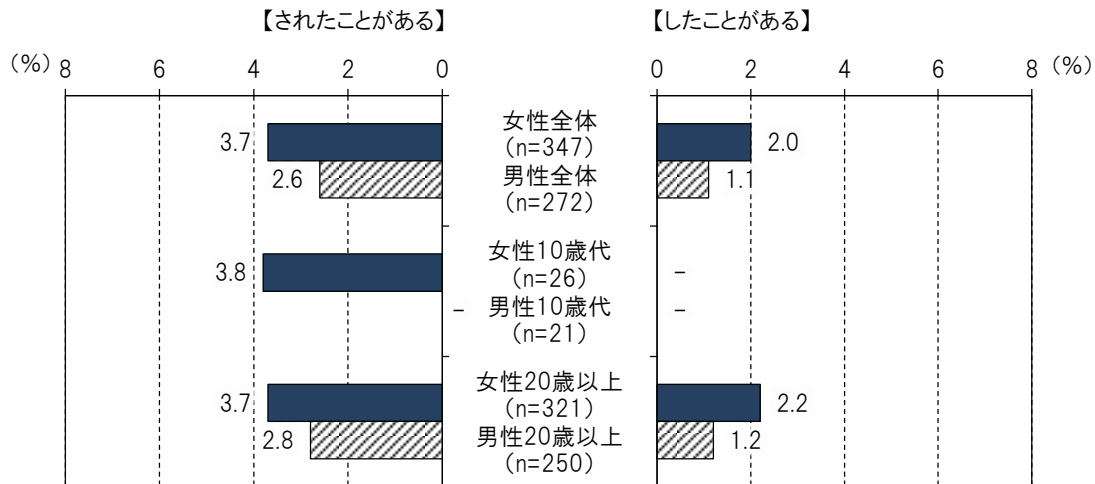
一方、男性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(2.2%)、「したことがある(能動経験)」(1.5%)となっている。



## ■F 家族や友人との付き合いを監視・制限する

家族や友人との付き合いを監視・制限する暴力について女性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(3.7%)、「したことがある(能動経験)」(2.0%)であり、受動経験が能動経験を上回っている。

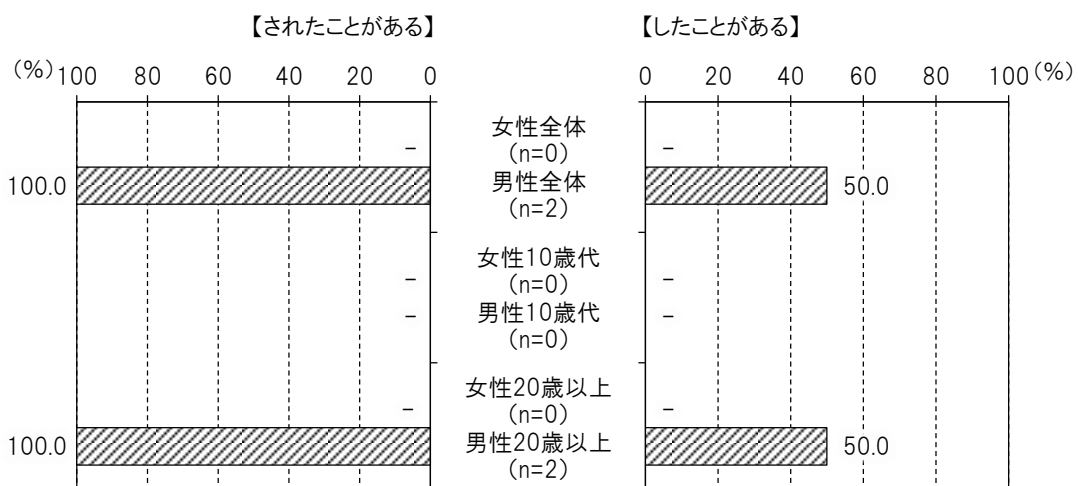
一方、男性全体でみると、「されたことがある(受動経験)」(2.6%)、「したことがある(能動経験)」(1.1%)となっている。



※『F 家族や友人との付き合いを監視・制限する』は、令和元年度調査より新たに設けた質問項目。

## ■G その他

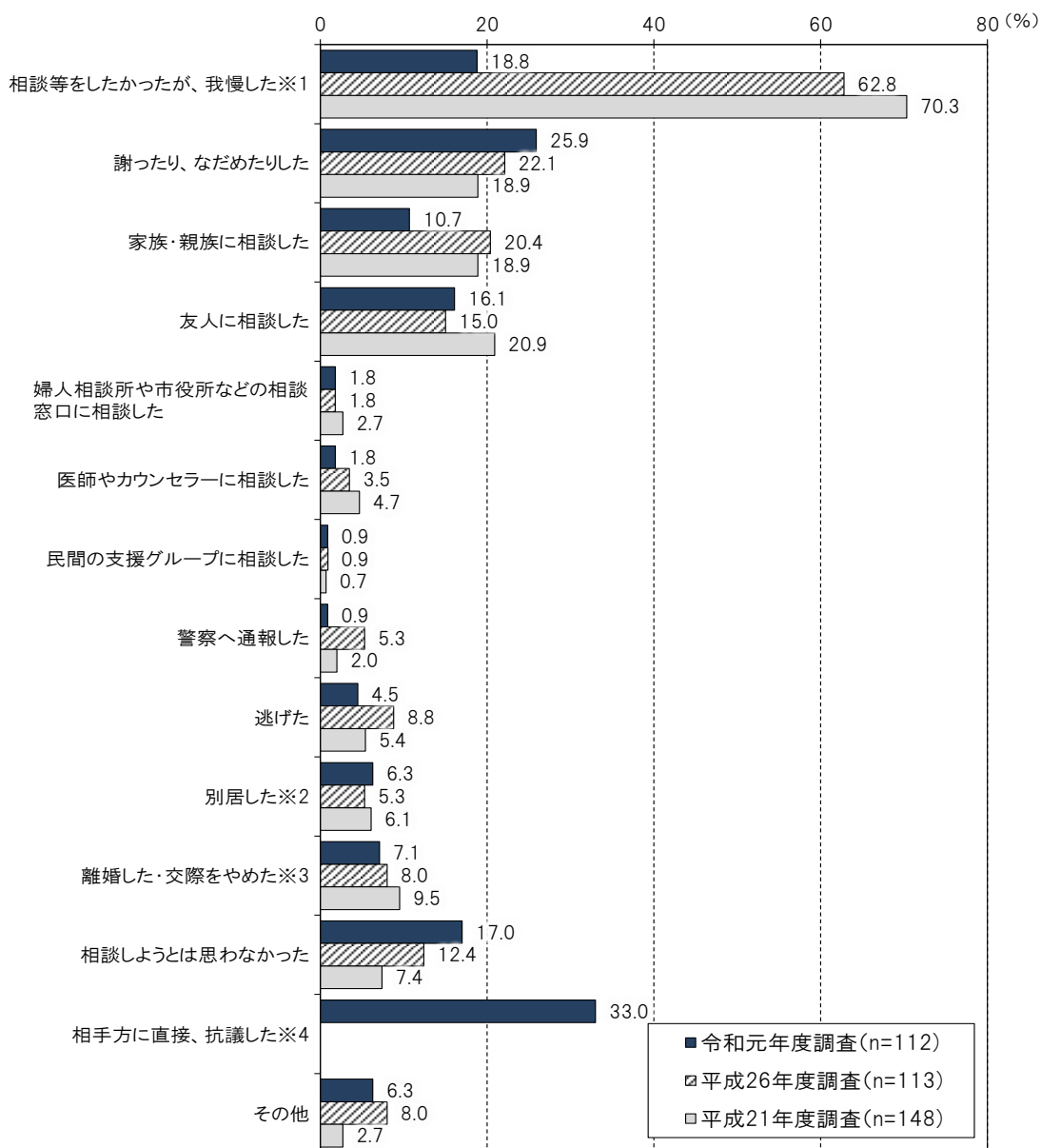
その他については回答者が極めて少ないため、コメントは省略する。



※問28で1つでも「1 されたことがある」「3 どちらもある」と答えた方にお尋ねします。

問 29 そのような行為を受けたとき、どうしましたか。(複数回答可)

●「相談等したかったが、我慢した」は 18.8%、「相談しようとは思わなかった」は 17.0%



※1 「相談等したかったが、我慢した」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「我慢した」と比較を行った。

※2 「別居した」は、平成 21 年度調査の「家を出た(別居した)」と比較を行った。

※3 「離婚した・交際をやめた」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「離婚した」と比較を行った。

※4 「相手方に直接、抗議した」は、令和元年度調査より新たに設けた選択肢。

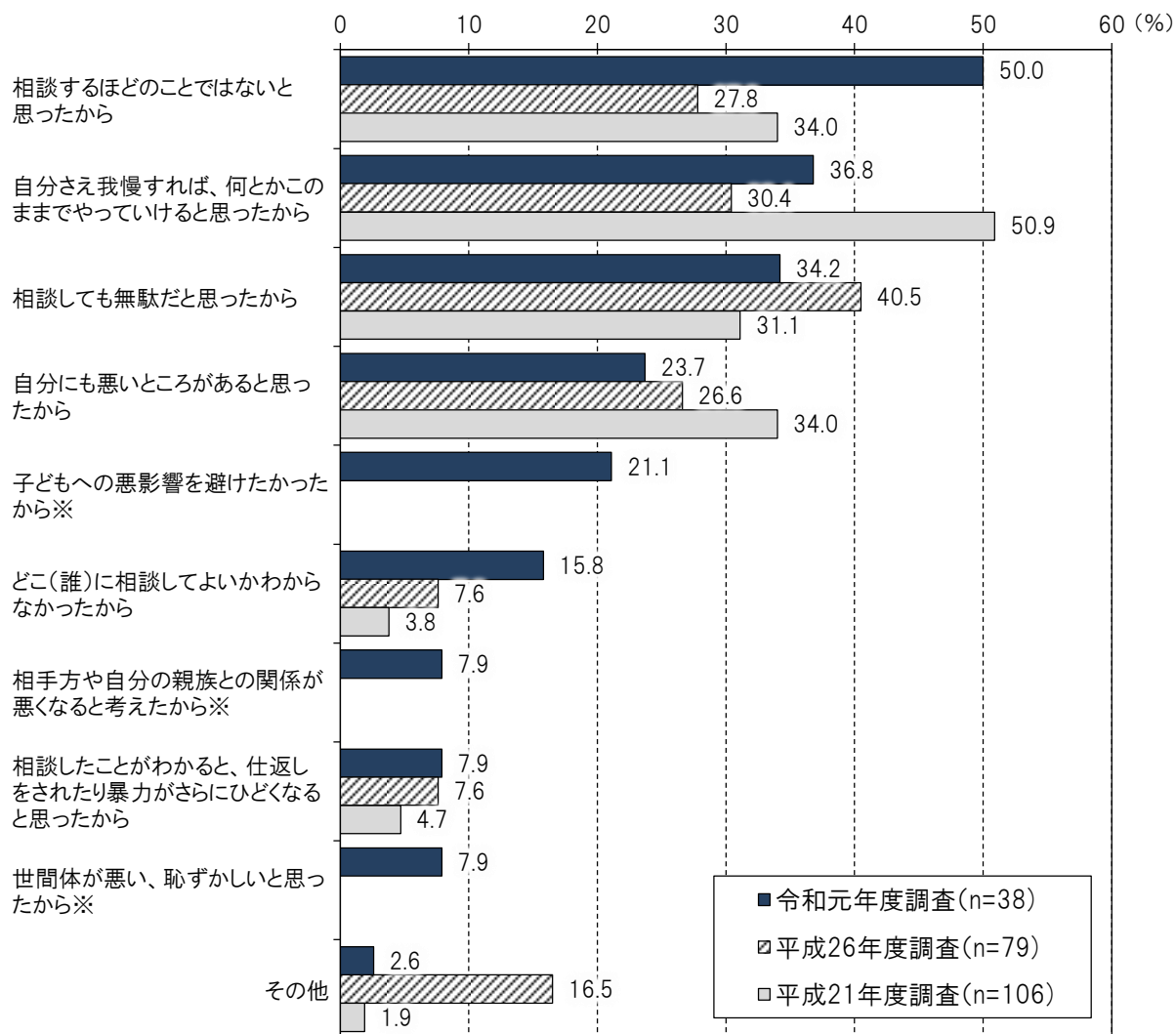
◆20 歳以上結果

◇性別:男女とも「相手方に直接、抗議した」と答える人が最も多くみられる。

※ 問29で「1 相談等したかったが、我慢した」や「12 相談しようとは思わなかった」と答えた方にお尋ねします。

問 30 それはなぜですか。(○はいくつでも)

- 「相談するほどのことではないと思ったから」の回答が半数
- 「相談するほどのことではないと思ったから」は、増加傾向

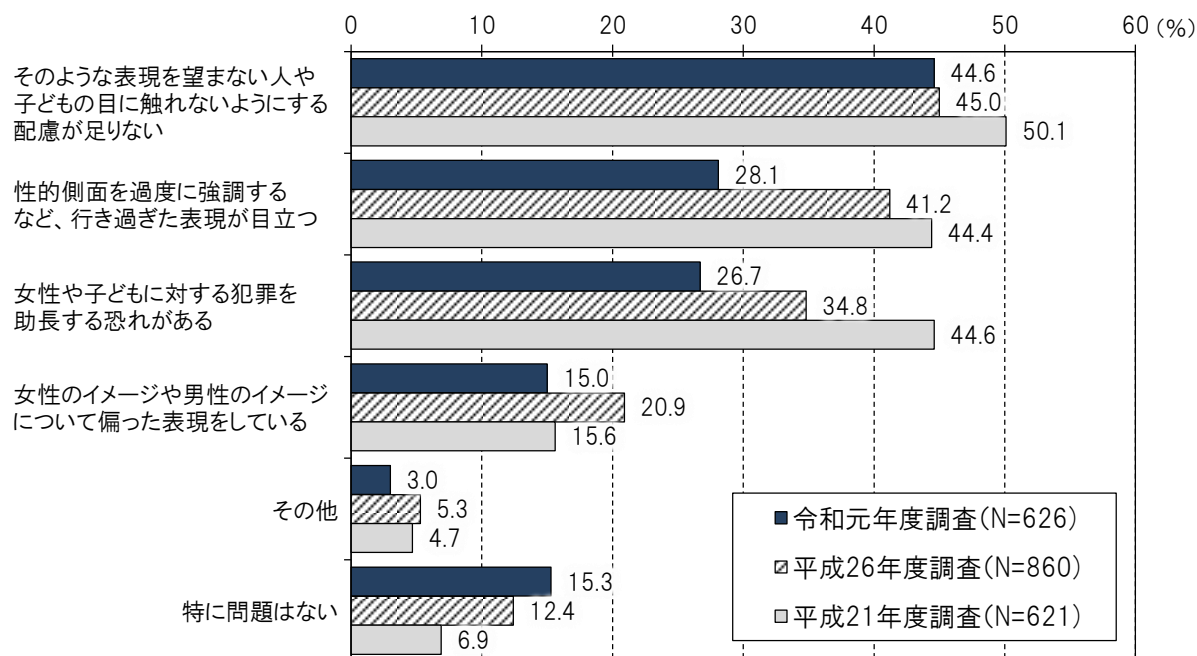


※ 「子どもへの悪影響を避けたかったから」「相手方や自分の親族との関係が悪くなると考えたから」「世間体が悪い、恥ずかしいと思ったから」は、令和元年度調査より新たに設けた選択肢。

## (2)メディアにおける性や暴力の表現に対する考え

問 31 新聞・雑誌・テレビなどメディアやインターネット・SNS・ゲーム等における性や暴力の表現についてどう思いますか。(複数回答可)

●「望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」「行き過ぎた表現が目立つ」が上位にランキング



### ◆20歳以上結果

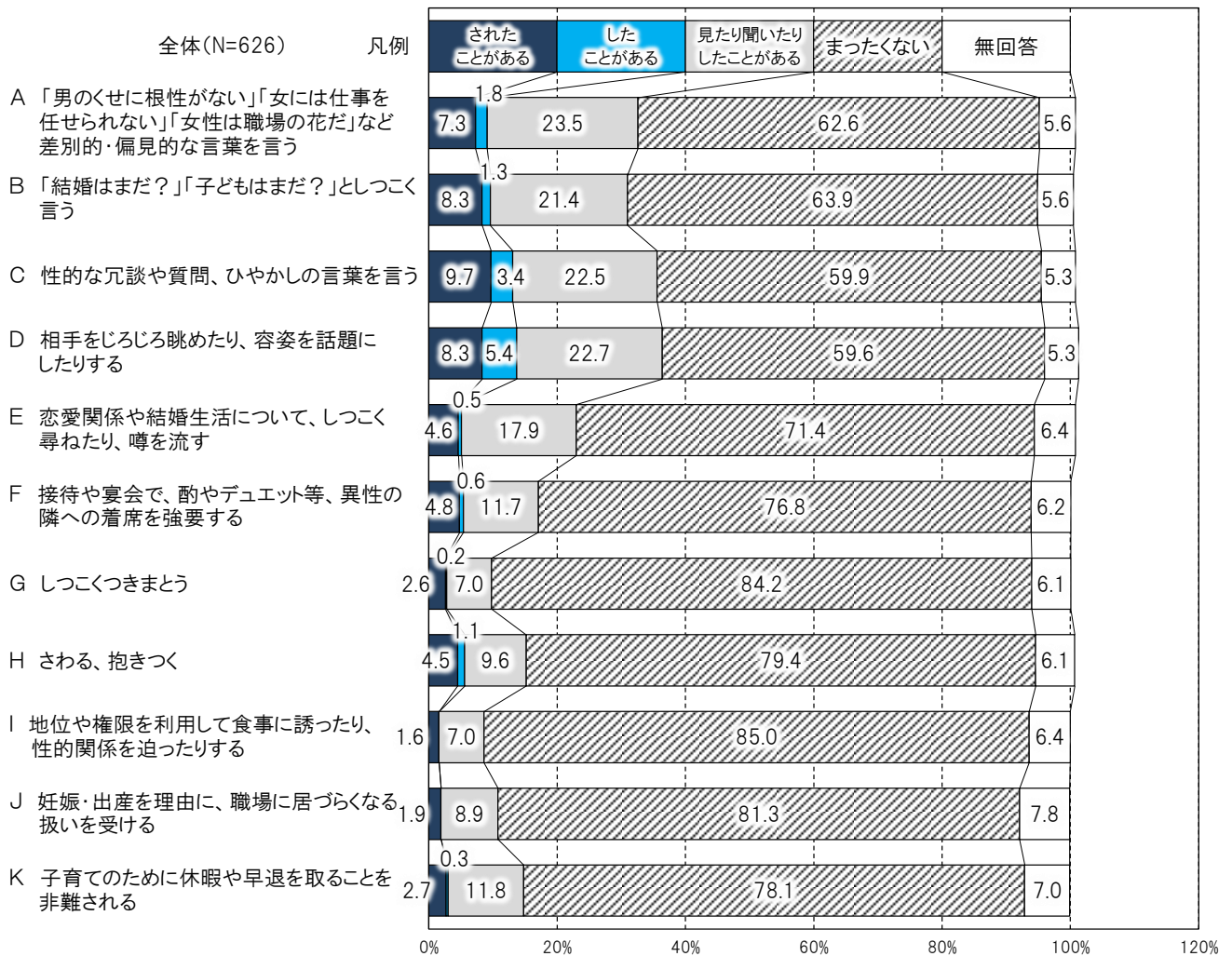
◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別: 男性の『60歳代以上』では、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」と答える人が他の層に比べ多いものの、それ以外の層は全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

### (3)セクシュアル・ハラスメントの実態と対応

問 32 次のような行為はセクシュアル・ハラスメントやマタニティハラスメントですが、あなたは、この5年以内に職場・学校・地域でしたり、されたりしたことがありますか。(複数回答可)

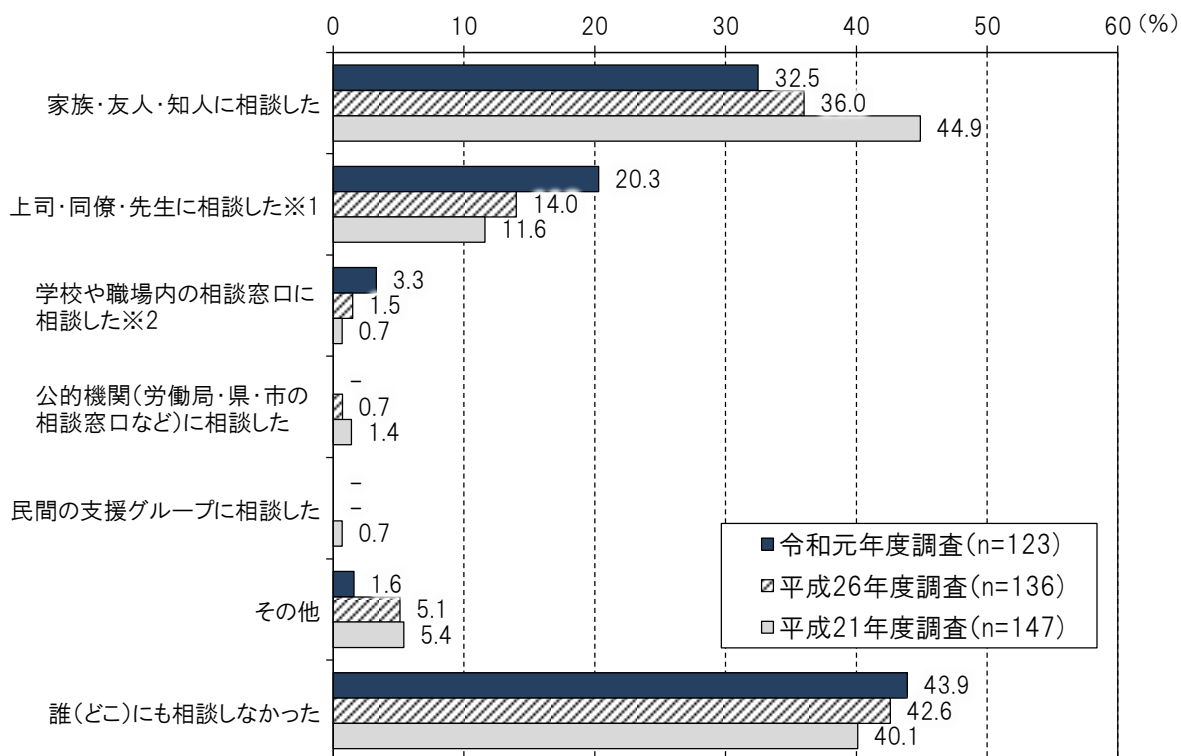
- 「されたことがある(受動経験)」の最多は、「性的な冗談や質問、ひやかしの言葉を言う」
- 「したことがある(能動経験)」の最多は、「相手をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする」
- <「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」としつこく言う>の受動経験と能動経験の回答差が最も大きい



※ 問32 で1つでも「1 されたことがある」と答えた方にお尋ねします。

**問 33 そのことについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可)**

- 4割は「誰にも相談しなかった」と回答
- 前々回から「家族・友人・知人に相談した」は減少傾向で、「上司・同僚・先生に相談した」または「誰(どこ)にも相談しなかった」は増加傾向



※1 「上司・同僚・先生に相談した」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「上司・同僚に相談した」と比較を行った。

※2 「学校や職場内の相談窓口相談した」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「職場内の相談窓口相談した」と比較を行った。

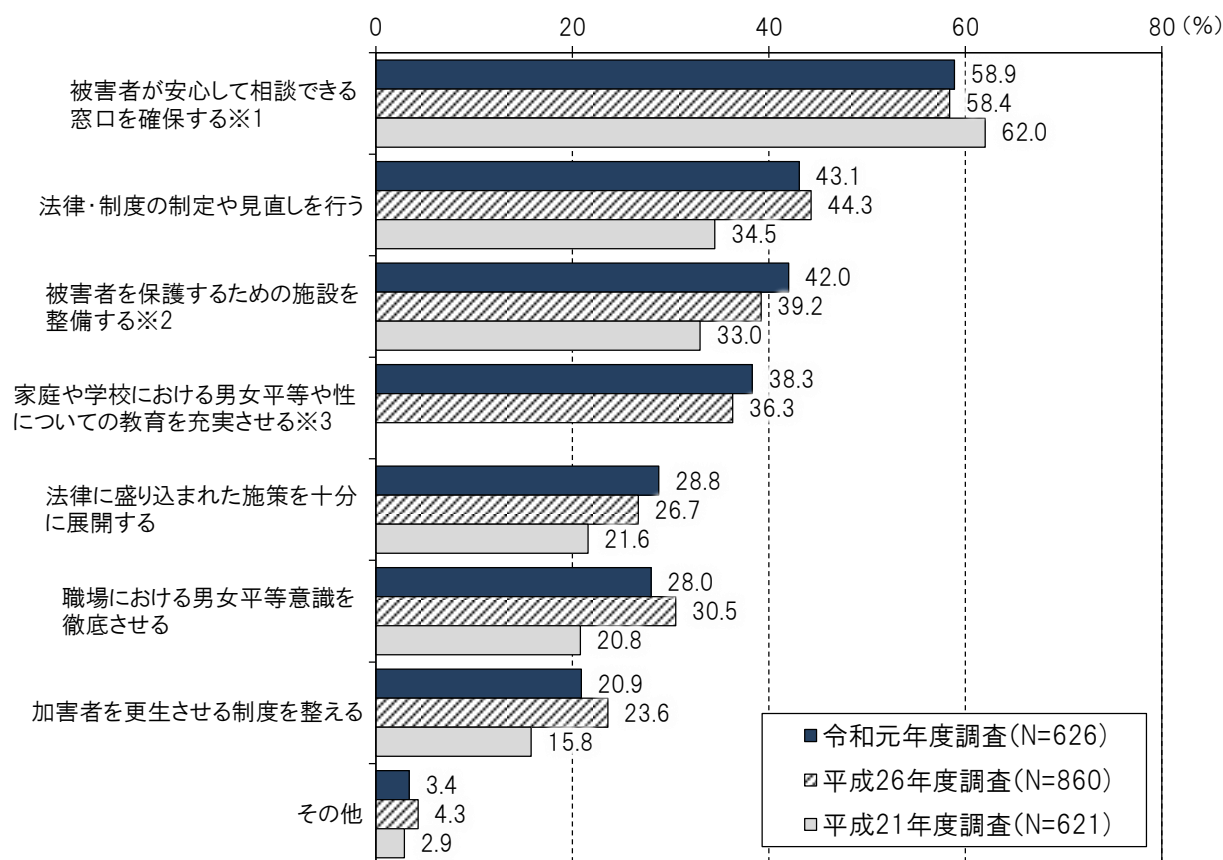
**◆20 歳以上結果**

◇性別:「誰(どこ)にも相談しなかった」の回答割合は、「男性」(53.6%)が「女性」(39.8%)より13.8ポイント高くなっている。

#### (4) 女性に対する暴力への対策

問 34 性暴力(性犯罪、売買春、パートナーからの暴力、セクシュアル・ハラスメントなど)をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでもかまいません)

●約6割が「被害女性が安心して相談できる窓口を確保する」と回答



※1 「被害者が安心して相談できる窓口を確保する」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「被害女性が安心して相談できる窓口を確保する」と比較を行った。

※2 「被害者を保護するための施設を整備する」は、平成 21 年度調査、平成 26 年度調査の「被害女性を保護するための施設を整備する」と比較を行った。

※3 「家庭や学校における男女平等や性についての教育を充実させる」は、平成 26 年度調査より新たに設けた選択肢。

#### ◆20 歳以上結果

◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

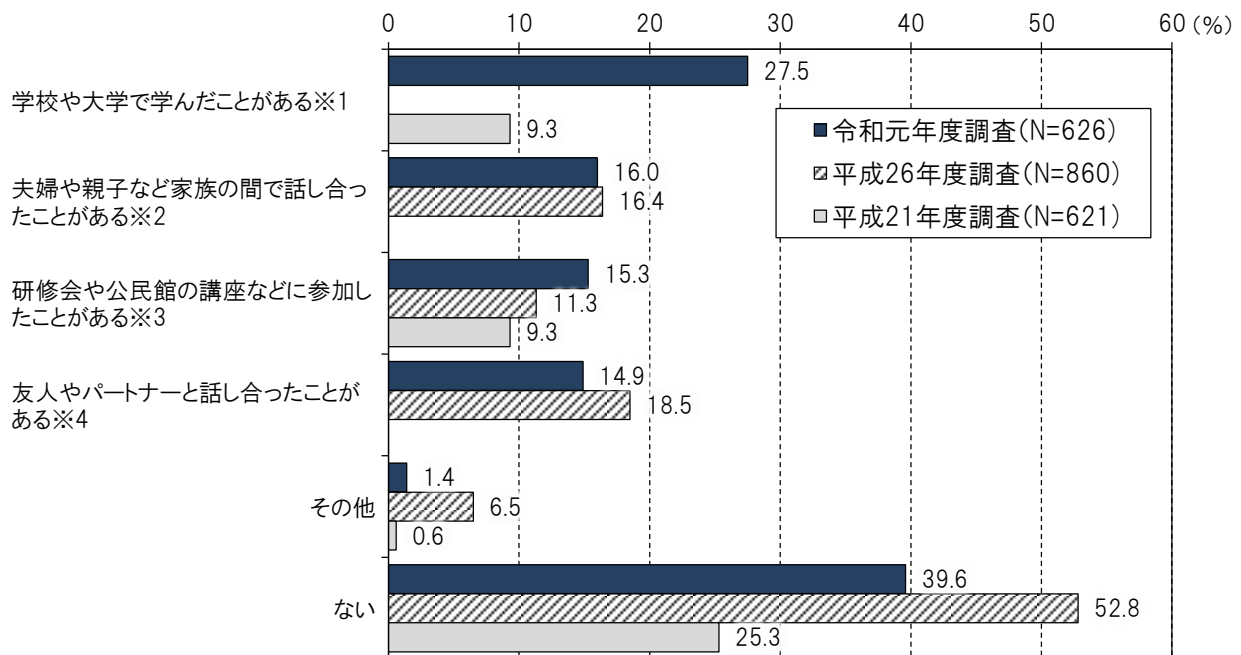
◇性・年代別: 女性は、すべての年代で「被害者が安心して相談できる窓口を確保する」と答える人が最も多く、年齢が高いほど回答割合が高くなる傾向がみられる。中でも「70 歳以上」(79.3%)の割合が最も高い。また、「20 歳代」における「職場における男女平等意識を徹底させる」(46.2%)、「40 歳代」における「被害者を保護するための施設を整備する」(59.6%)の回答割合が、他の層に比べて高い。一方、男性はいずれの年代とも「被害者が安心して相談できる窓口を確保する」は上位にあがっているものの、「30 歳代」では「法律に盛り込まれた施策を十分に展開する」(62.1%)と答える人が最も多い。

## 9 男女平等・男女共同参画社会について

### (1) 男女共同参画についての学習経験

問 35 これまでに、男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことがありますか。  
(複数回答可)

- 約4割が男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことは「ない」と回答
- 「ない」が減少傾向



※1 「学校や大学で学んだことがある」は、平成21年度調査の「学校で話し合ったり学習したりしたことがある」と比較を行った。平成26年度調査ではこの選択肢はない。

※2 「夫婦や親子など家族の間で話し合ったことがある」は、平成26年度調査より新たに設けた選択肢。

※3 「研修会や公民館の講座などに参加したことがある」は、平成21年度調査の「公民館や男女共同参画課主催の講座などに参加したことがある」、平成26年度調査の「佐賀市主催の研修会や公民館の講座などに参加したことがある」と比較を行った。

※4 「友人やパートナーと話し合ったことがある」は、平成26年度調査より新たに設けた「友人との間で話し合ったことがある」と比較を行った。

#### ◆20歳以上結果

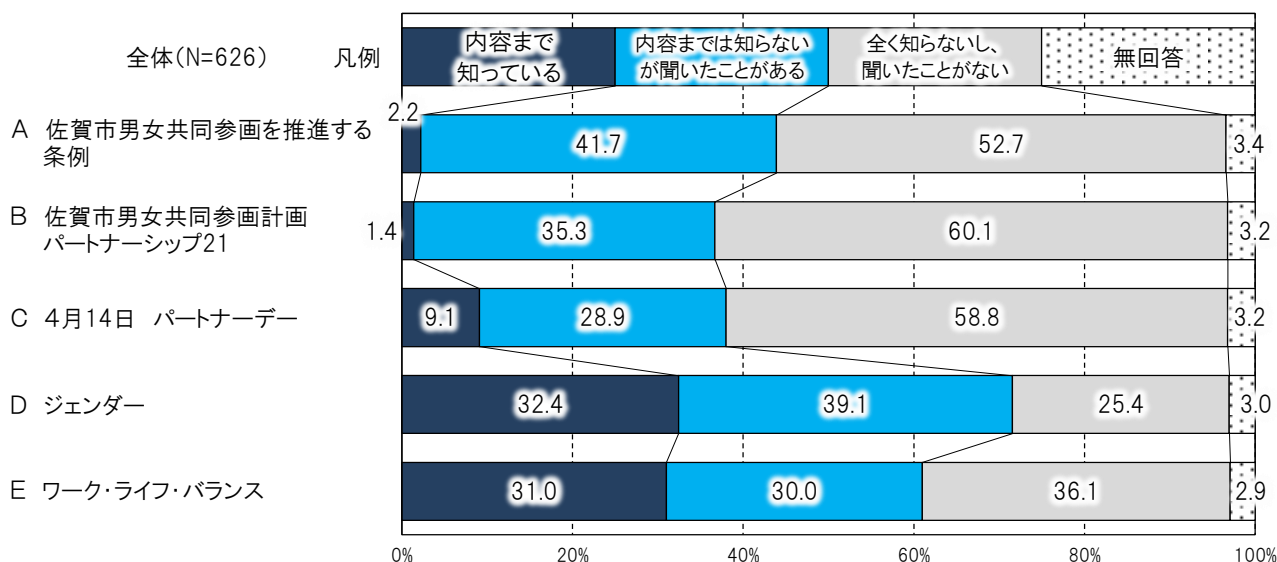
◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別: 女性は、若年層で「学校や大学で学んだことがある」と答える人が最も多く、中でも「20歳代」(82.1%)は8割以上を占めている。一方、男性でも同様の傾向がみられ、「学校や大学で学んだことがある」と答える人は「20歳代」(63.6%)では6割以上を占めている。

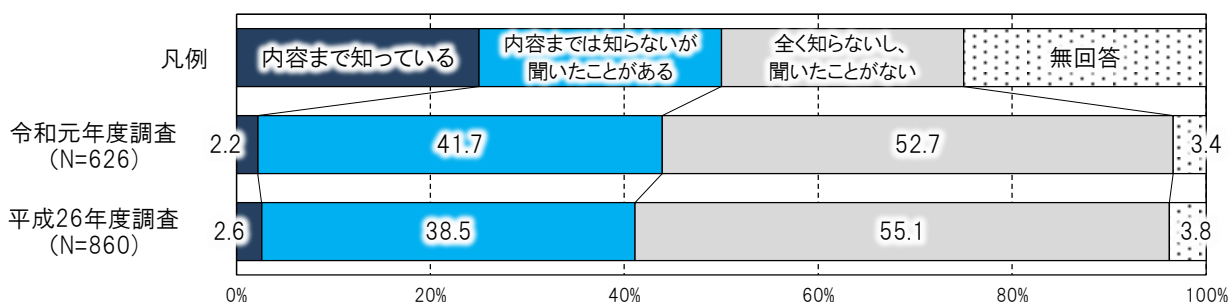
## (2) 男女共同参画関連用語の認知

問 36 男女共同参画に関する次の用語などを聞いたことがありますか。

●<ジェンダー>と<ワーク・ライフ・バランス>は、「内容を知っている」、「聞いたことがある」の回答が、ともに増加傾向を示す



### ■A 佐賀市男女共同参画を推進する条例

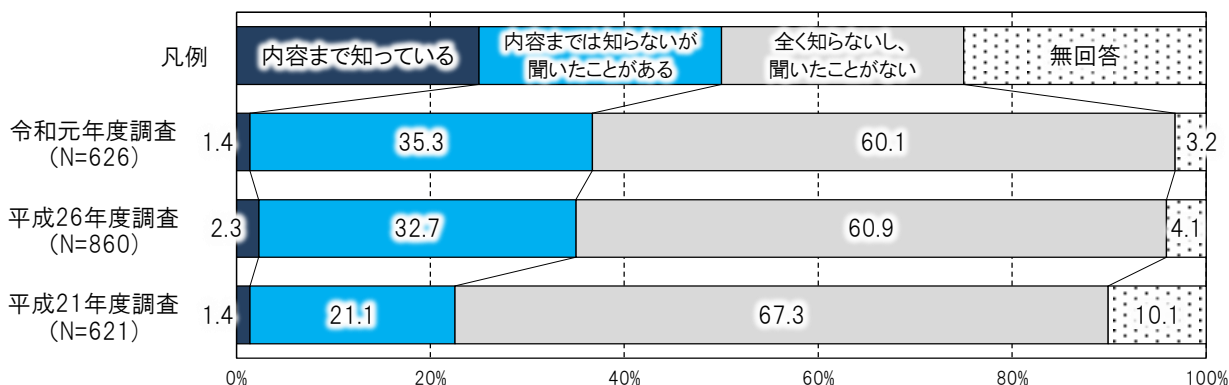


### ◆20歳以上結果

◇性別: 「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と回答した割合は、「女性」(48.6%)が「男性」(40.0%)より8.6ポイント高くなっている。

◇性・年代別: 女性は、年齢が高いほど「内容までは知らないが聞いたことがある」と答える人が多くなる傾向がみられ、中でも「70歳以上」(65.5%)の割合が最も高くなっている。一方、男性は若年齢ほど「全く知らないし、聞いたことがない」と答える人が多くなる傾向がみられ、中でも「30歳代」(62.1%)の割合が最も高くなっている。

## ■B 佐賀市男女共同参画計画パートナーシップ 21

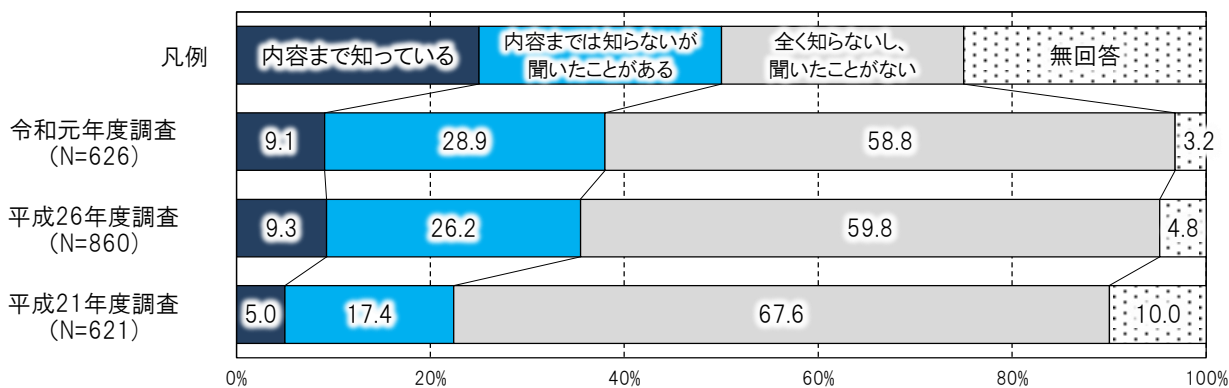


### ◆20歳以上結果

◇性別: 「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と回答した割合は、「女性」(41.4%)が「男性」(32.4%)より9.0ポイント高い。

◇性・年代別: 女性は、年齢が高いほど「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と答える人が多くなる傾向がみられ、中でも「60歳代」(50.0%)の割合が最も高い。一方、男性の「30歳代」は、「全く知らないし、聞いたことがない」と答える人の割合が75.9%を占めている。

## ■C 4月14日 パートナーデー

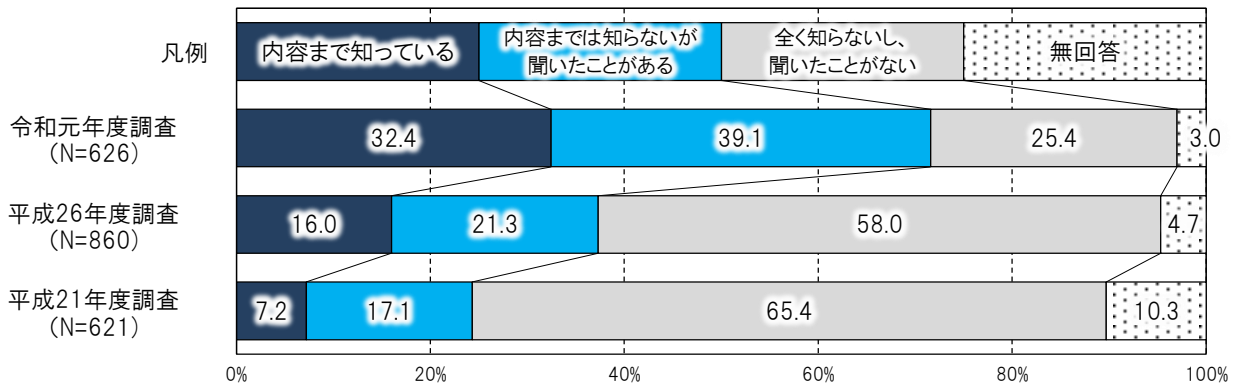


### ◆20歳以上結果

◇性別: 「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と回答した割合は、「女性」(47.9%)が「男性」(26.0%)より21.9ポイント高くなっている。

◇性・年代別: 女性は、「50歳代」において「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と答える人の割合が62.6%を占めている。一方、男性は「30歳代」において「全く知らないし、聞いたことがない」と答える人の割合が75.9%を占めている。

## ■D ジェンダー

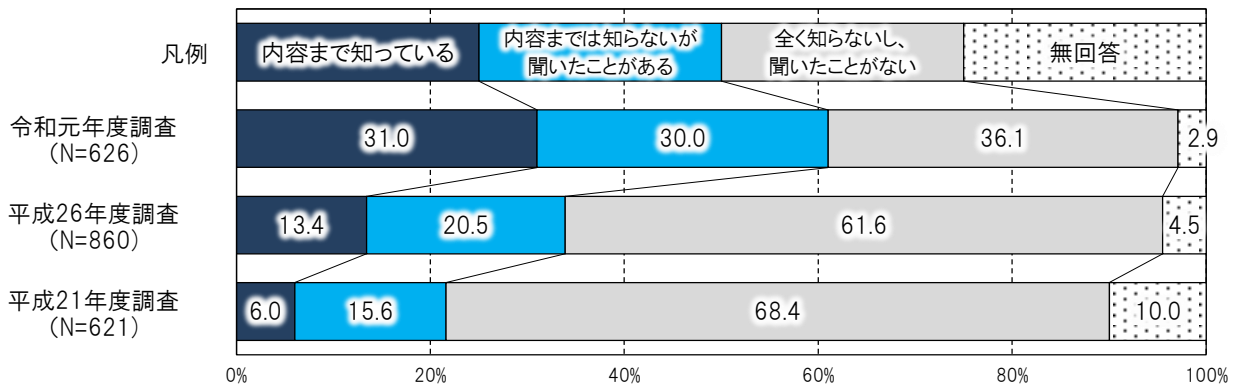


### ◆20歳以上結果

◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別: 女性は、年齢が低いほど「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と答える人が多く、中でも「20歳代」(94.9%)は9割以上を占めている。一方、男性でも年齢が低いほど「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と答える人が多く、中でも「20歳代」(84.8%)は8割以上を占めている。

## ■E ワーク・ライフ・バランス



### ◆20歳以上結果

◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

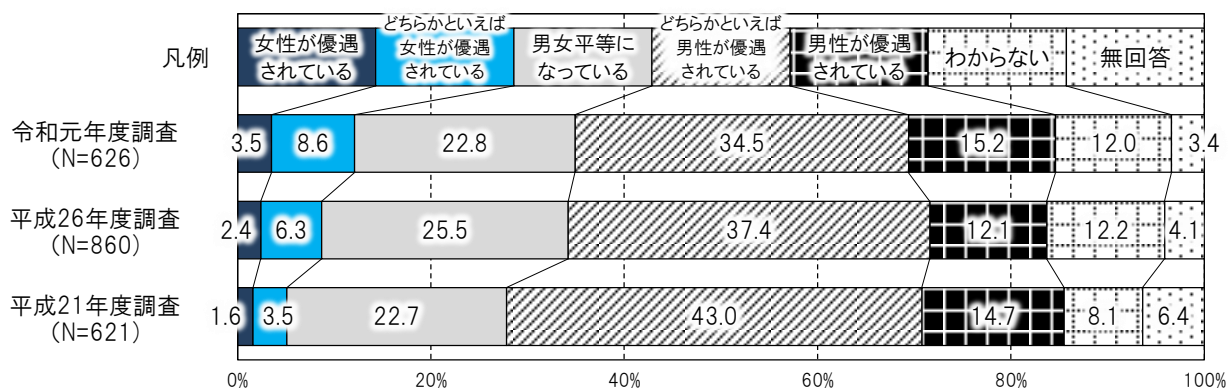
◇性・年代別: 女性は、年齢が低いほど「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と答える人が多く、中でも「20歳代」(71.8%)は7割以上を占めている。一方、男性でも年齢が低いほど「内容まで知っている」または「内容まで知らないが聞いたことがある」と答える人が多く、中でも「20歳代」(81.8%)は8割以上を占めている。

### (3) 男女平等に関する意識

問 37 現在、下記の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

#### A 家庭生活上で

- 約半数が『男性が優遇』と回答し、「男性」より「女性」でその傾向が強い
- 『女性が優遇』が、前々回から増加傾向



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(55.7%)が「男性」(42.3%)より 13.4 ポイント高い。

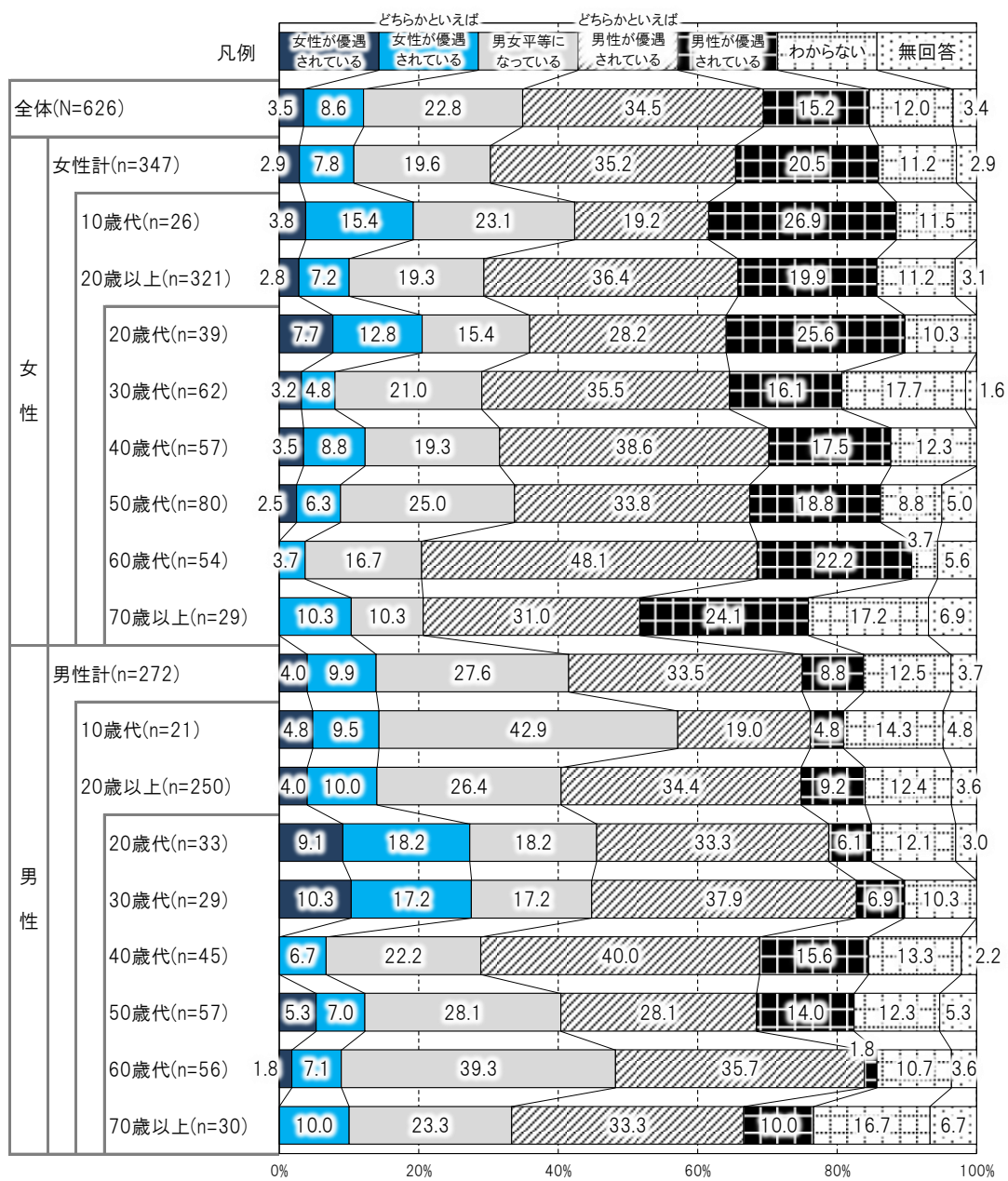
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:「男女平等になっている」と回答した割合は、「男性」(42.9%)が「女性」(23.1%)より 19.8 ポイント低い。

#### ◆20歳以上結果

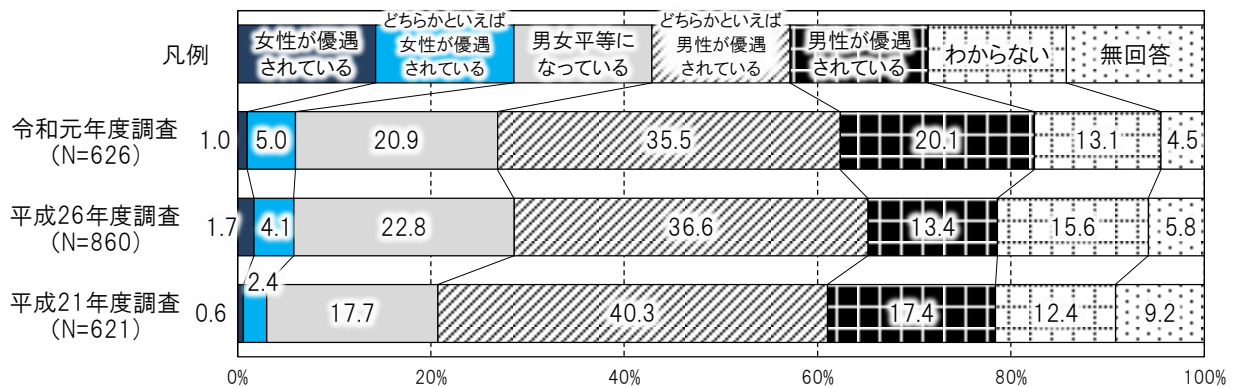
◇性別:『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(56.3%)が「男性」(43.6%)より 12.7 ポイント高い。

◇性・年代別:女性は、すべての年代で『男性が優遇』と回答した割合が、『女性が優遇』と回答した割合を上回っており、中でも「60歳代」における『男性が優遇』の回答割合は 70.3%と7割以上を占めている。一方、男性でもすべての年代で『男性が優遇』と回答した割合が、『女性が優遇』と回答した割合を上回っており、中でも『男性が優遇』の回答割合は「40歳代」(55.6%)が最も高い。



## B 職場で

### ●過半数が『男性が優遇』と回答



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

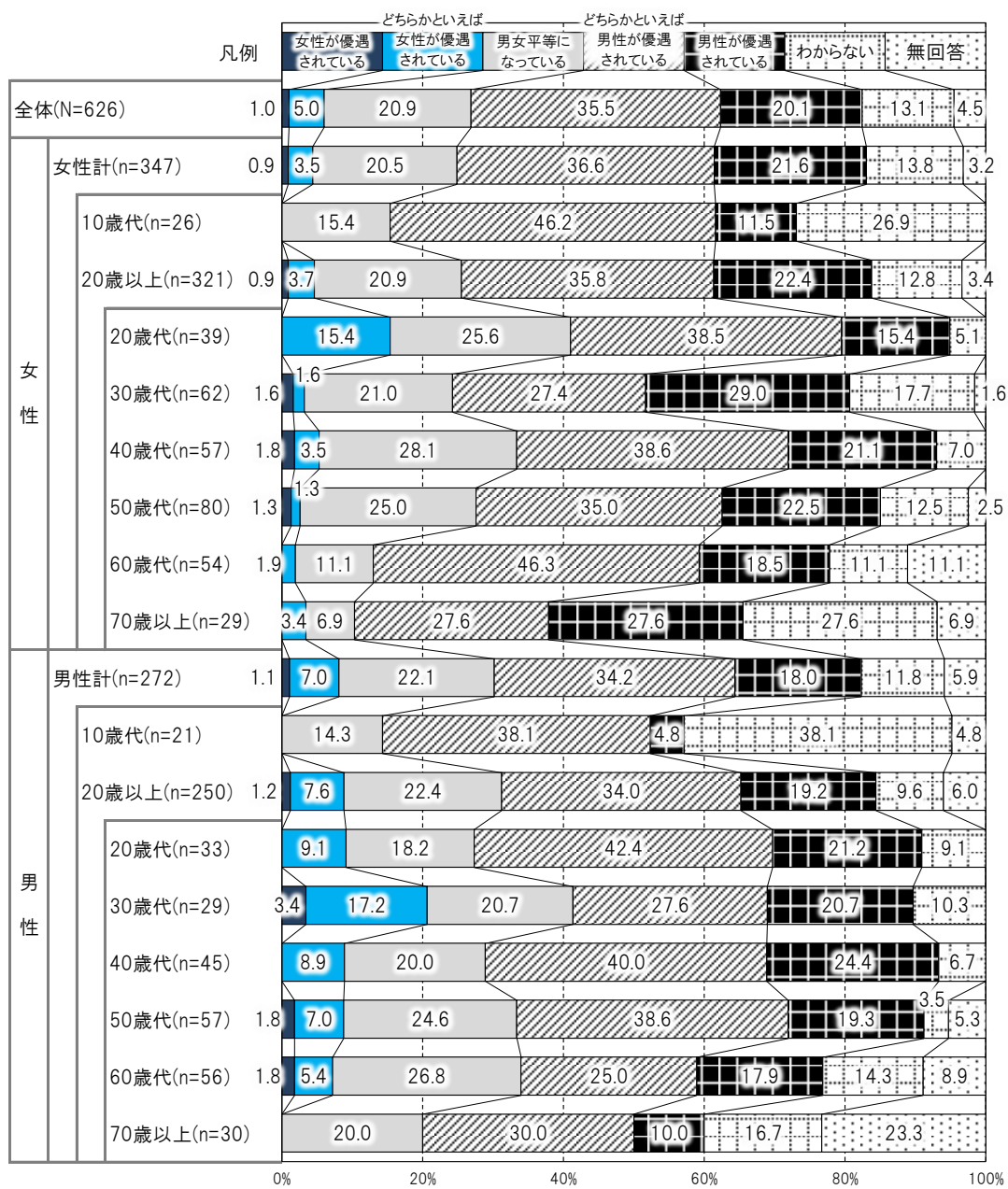
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(57.7%)が「男性」(42.9%)より14.8ポイント高い。一方、「わからない」と回答した割合は、「男性」(38.1%)が「女性」(26.9%)より11.2ポイント高い。

#### ◆20歳以上結果

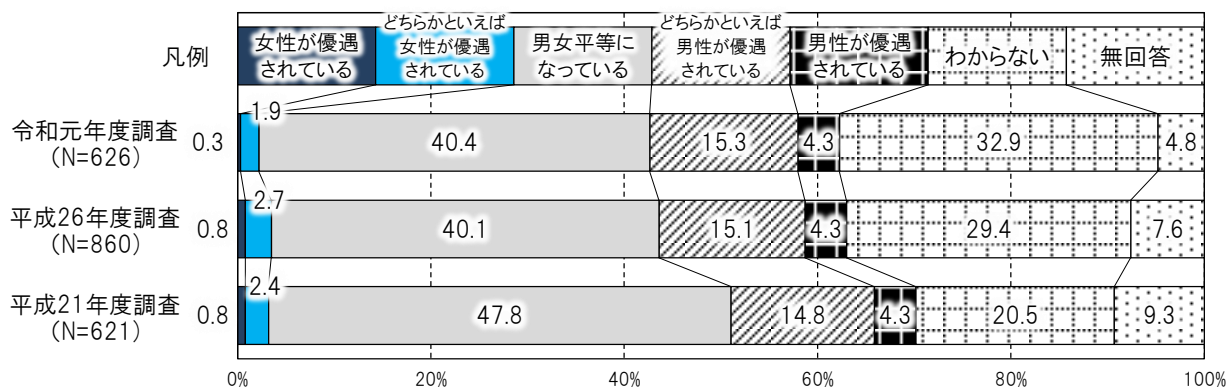
◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:女性は、すべての年代で『男性が優遇』と回答した割合が、『女性が優遇』と回答した割合を上回っており、中でも「60歳代」における『男性が優遇』の回答割合は64.8%と6割以上を占めている。一方、男性でもすべての年代で『男性が優遇』と回答した割合が、『女性が優遇』と回答した割合を上回っており、中でも『男性が優遇』の回答割合は「40歳代」(64.4%)が最も高い。



## C 学校教育の場で

●全体では約4割、10歳代では約6割が「男女平等になっている」と回答



### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

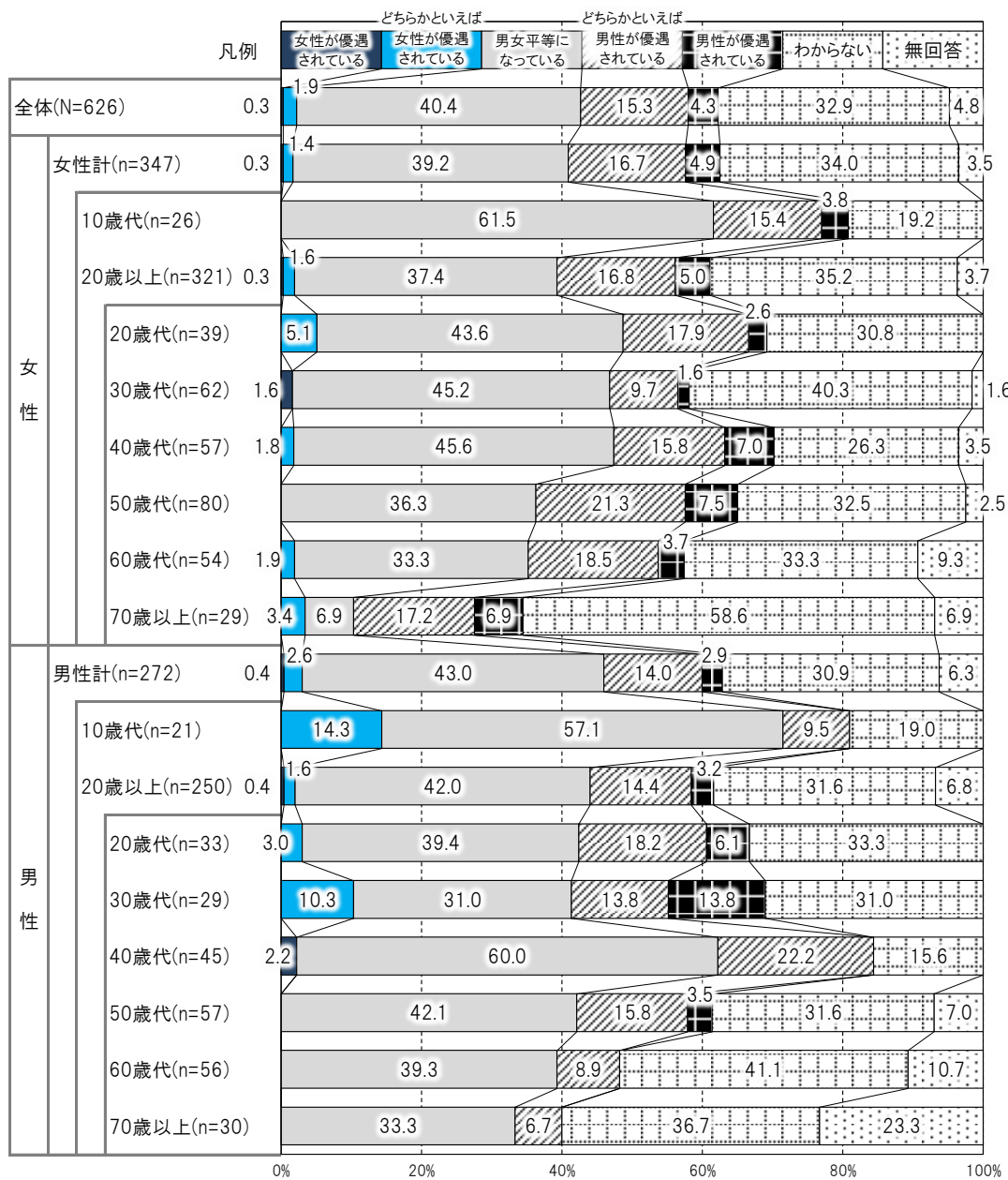
### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

### ◆20歳以上結果

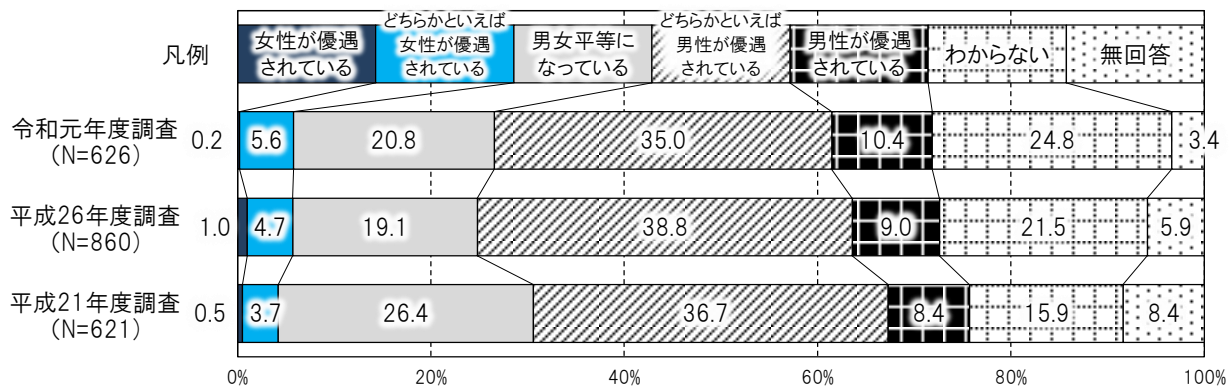
◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別: 女性は、「70歳以上」において「わからない」(58.6%)と答える人が多くみられる。一方、男性は「40歳代」においては、「男女平等になっている」の回答割合が60.0%と高い。



## D 地域や社会活動の場で

### ●4割以上が『男性が優遇』と回答



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

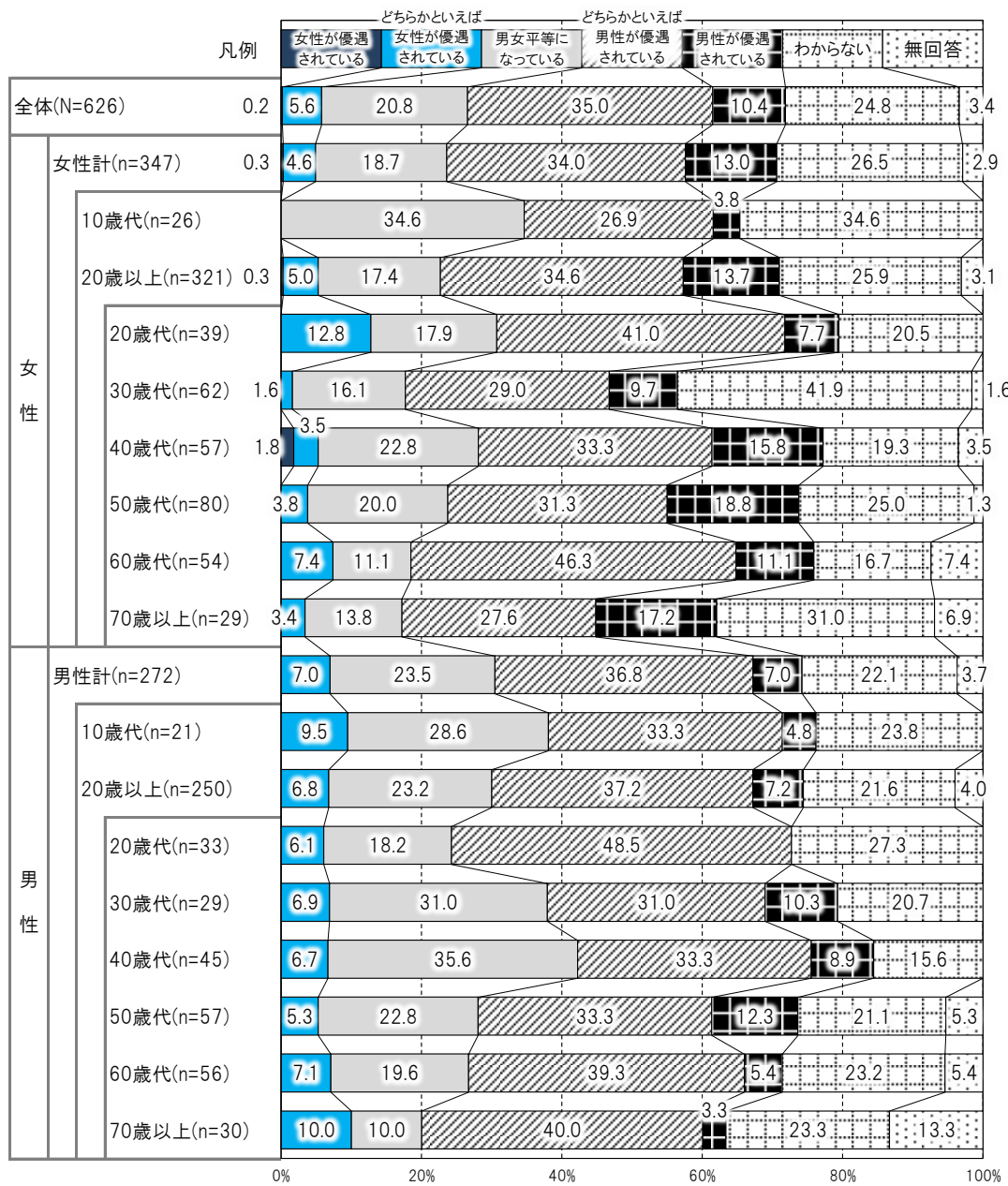
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

#### ◆20歳以上結果

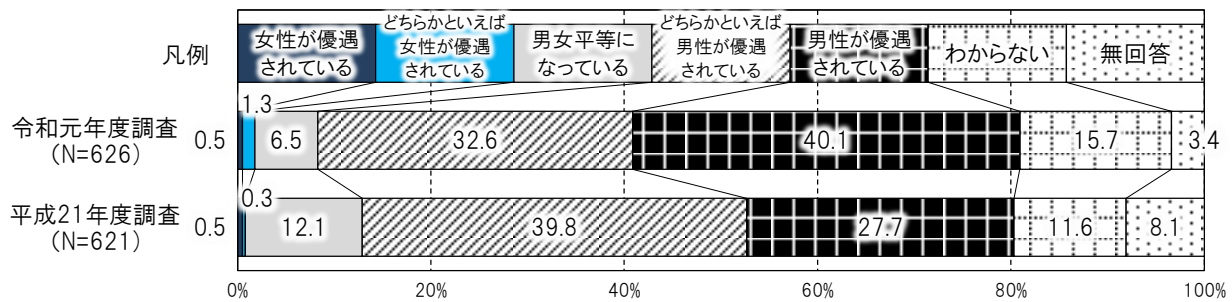
◇性別: 全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別: 女性は、「30歳代」において「わからない」(41.9%)と答える人が多くみられる。一方、男性は「40歳代」においては、「男女平等になっている」(35.6%)と答える人が多くみられる。



## E 政治の場で

●7割が『男性が優遇』と回答し、「男性」より「女性」でその傾向が強い



※『E 政治の場で』は、平成 26 年度調査では質問を行っていない。

### ◆性別(女性計、男性計)結果

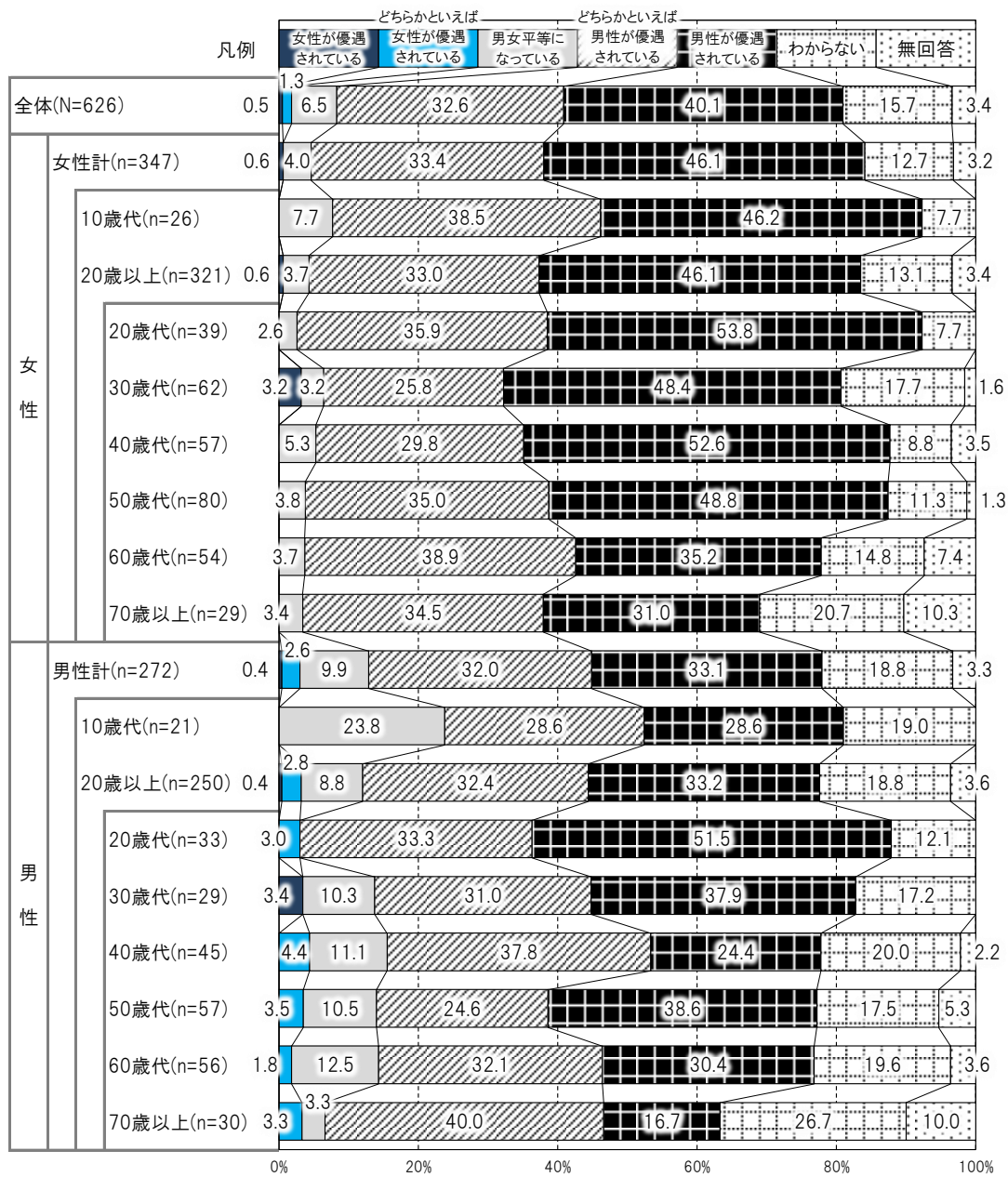
『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(79.5%)が「男性」(65.1%)より 14.4 ポイント高い。

### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

◇性別:『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(84.7%)が「男性」(57.2%)より 27.5 ポイント高い。一方、「男女平等になっている」と回答した割合は、「男性」(23.8%)が「女性」(7.7%)より 16.1 ポイント高い。

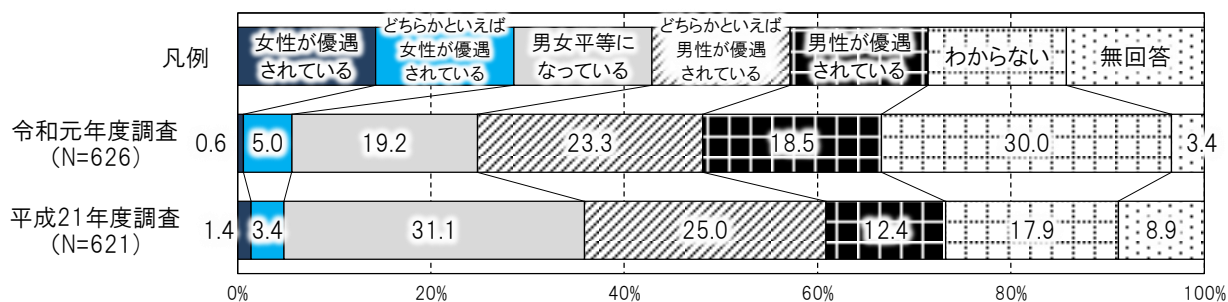
### ◆20 歳以上結果

◇性別:『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(79.1%)が「男性」(65.6%)より 13.5 ポイント高い。  
 ◇性・年代別:女性は、すべての年代で『男性が優遇』の回答割合が6割以上を占めており、中でも「20 歳代」(89.7%)の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『男性が優遇』の回答割合が過半数を占めており、中でも「20 歳代」(84.8%)の割合が最も高い。



## F 法律や制度に関して

●4割が『男性が優遇』と回答し、「男性」より「女性」でその傾向が強い



※『F 法律や制度に関して』は、平成 26 年度調査では質問を行っていない。

### ◆性別(女性計、男性計)結果

『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(48.7%)が「男性」(33.5%)より 15.2 ポイント高い

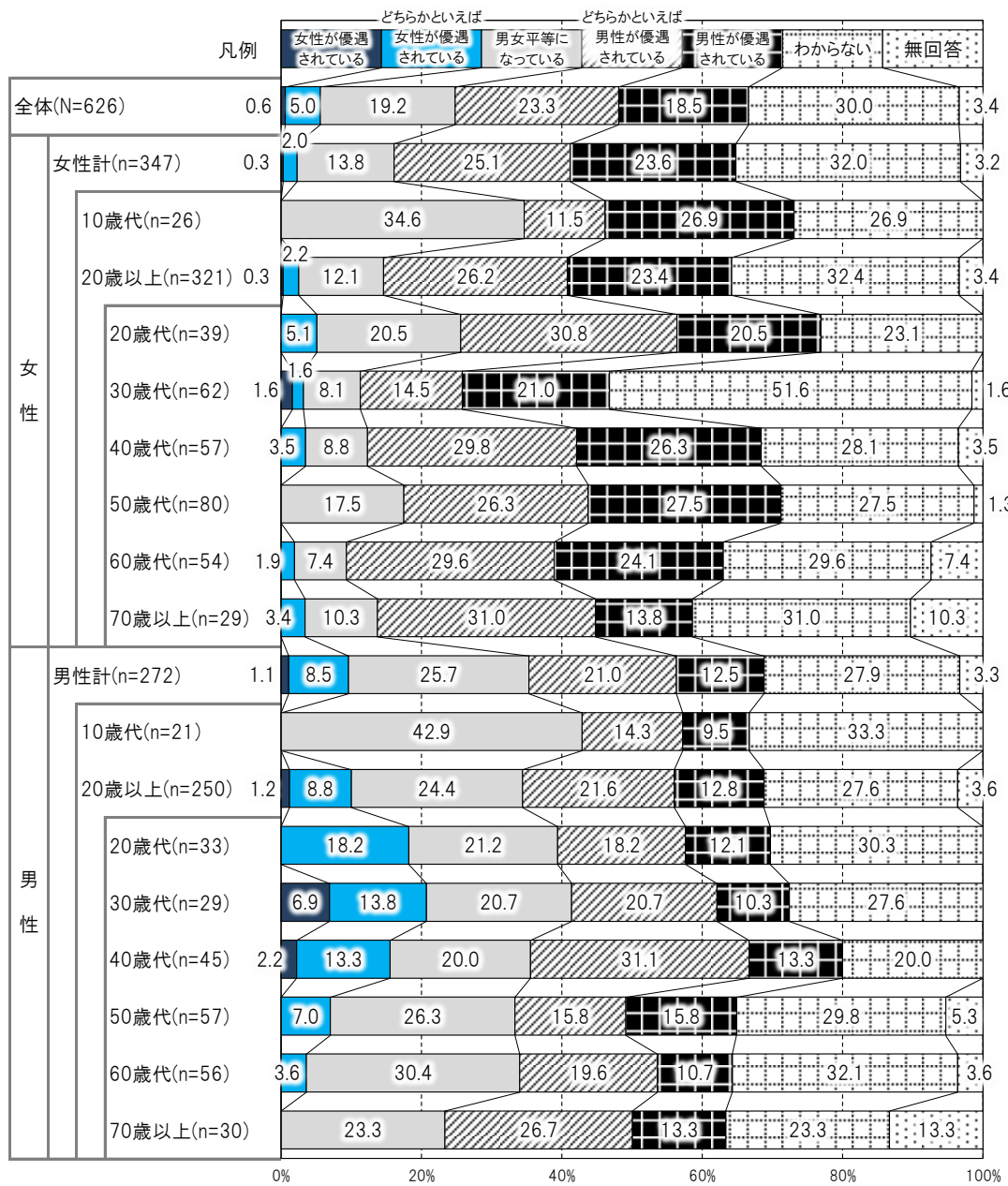
### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

◇性別:『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(38.4%)が「男性」(23.8%)より 14.6 ポイント高い。

### ◆20 歳以上結果

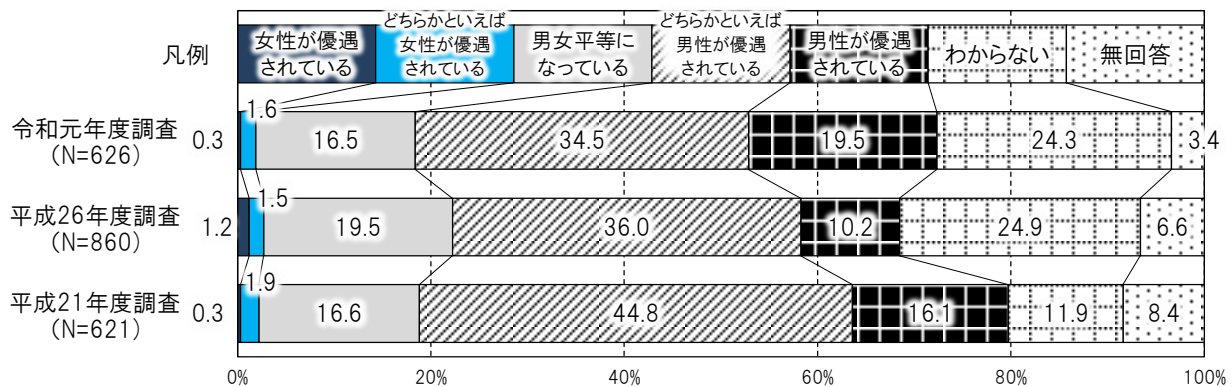
◇性別:『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(49.6%)が「男性」(34.4%)より 15.2 ポイント高い。

◇性・年代別: 女性は、すべての年代で『男性が優遇』の回答割合が、『女性が優遇』の回答割合より高く、中でも「40 歳代」(56.1%)の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『男性が優遇』の回答割合が、『女性が優遇』の回答割合より高く、中でも「40 歳代」(44.4%)の割合が最も高い。



## G 就職採用の際に

### ●過半数が『男性が優遇』と回答



#### ◆性別(女性計、男性計)結果

男女ともに全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

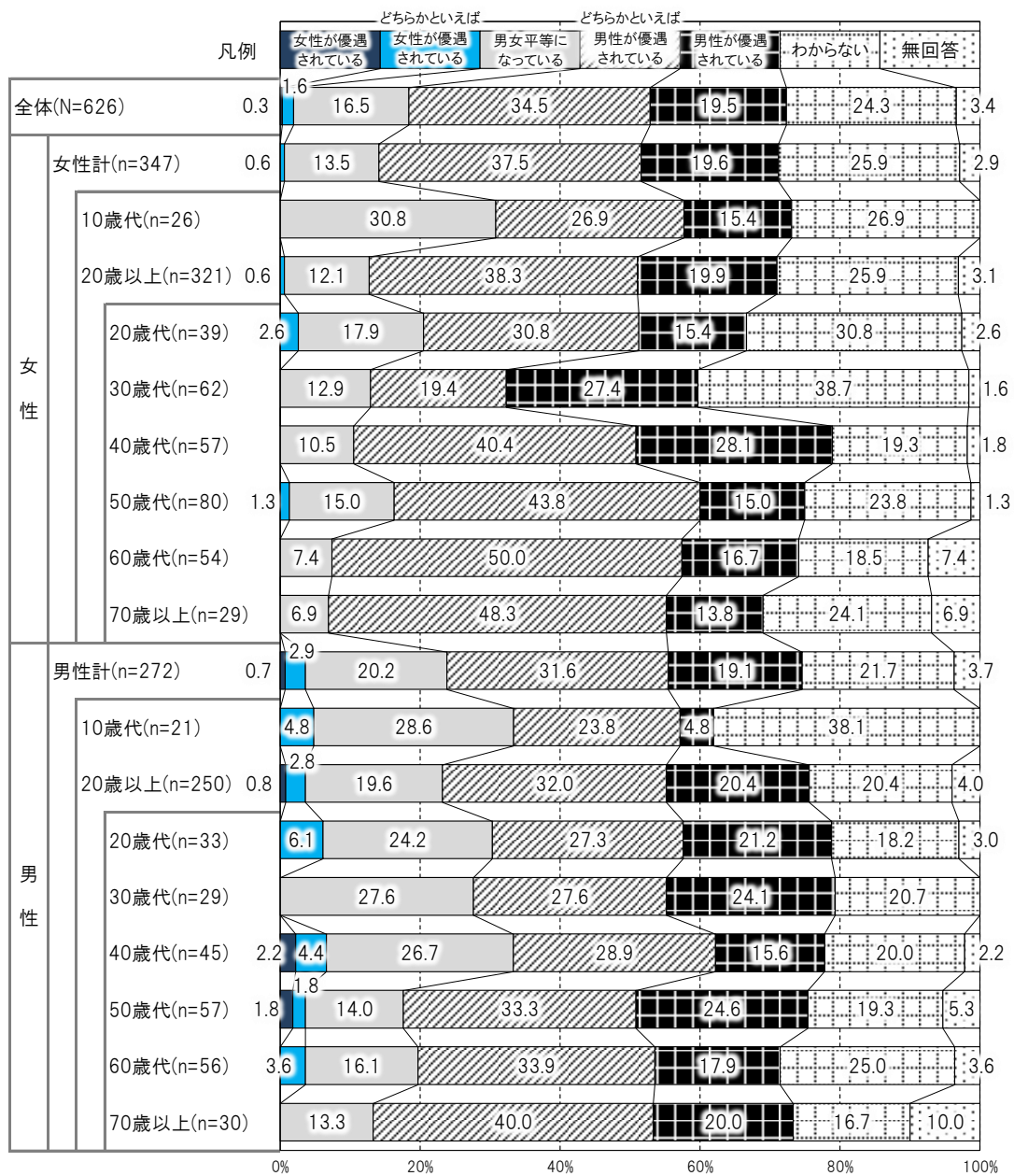
#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

◇性別:『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(42.3%)が「男性」(28.6%)より13.7ポイント高い。

#### ◆20歳以上結果

◇性別:全体結果とほぼ同様の回答傾向を示している。

◇性・年代別:女性は、すべての年代で『男性が優遇』の回答割合が、『女性が優遇』の回答割合より高く、中でも「40歳代」(68.5%)の割合が最も高い。一方、男性もすべての年代で『男性が優遇』の回答割合が、『女性が優遇』の回答割合より高く、中でも「70歳以上」(60.0%)の割合が最も高い。



## 10 自由意見

---

質問の最後に自由記入欄を設けたところ、112 人からの記入があった。

その一部を省略・抜粋し、項目別に表示した。

### 1 男女共同参画・男女平等について

---

#### 【女性】

- らしさも大事だけど平等も同じく大事なもの(10 歳代)
- 男女の平等だけではなく、子どもから高齢の方まで平等な制度であって欲しいです。(50 歳代)
- 北欧の男女平等のスタイルを参考にさせていただきたい。税金は高くともガラス張りで税金の使い方したら、国民・県民・市民は納得できると信じています。(60 歳代)
- 私は昭和 21 年生まれです。私が思うには女性には女性、どんなに頑張ってみても男性にはかなわない。私の考えは古いかもしれない。(70 歳代)

#### 【男性】

- 男女共同参画を進めるのは良い事だと思うし、結構な事だが、その結果、共働きが増えて、子どもの教育がないがしろにされる事で子どもの成長段階に影響が及ぶことも考えられる。その為、男女共同参画を進めるならば、それによって起こりうる問題などもしっかりと考慮し、対策を練って進めて頂きたい(保育施設を充実させるなど)。(10 歳代)
- いくら男女平等とはいっても、数だけ合わせたり割合を決めたりするのは少し違うように感じる。大事なことは性別に関わらず様々な事にチャレンジできる機会を設けることだと思うので、それを実現できるような施策を行ってほしいです。(20 歳代)
- 価値観が多様化している中で、「男」「女」という定義で議論していく事について限界がある様に感じる(もちろん如何ともし難い身体的能力差については、十分考慮する必要はあると思うが)。(30 歳代)
- 男女共同参画については、もっと身近に広報すべきだと思います。(60 歳代)
- 少子高齢化になり、これまでの様に男性だけが社会を支えていく事は出来なくなっています。これまでの様に男性だけが社会を支えていく事は出来なくなっています。女性の参加、参画はこれから大事になってくると思います。男性がもっとこのことを認識して、しくみを作っていく必要があります。これからの市の取組に期待いたします。市民としての協力もしていきます。(70 歳代)

### 2 就労・雇用について

---

#### 【女性】

- 職場における男女差(昇給、昇進等)があるため。また、結婚、妊娠、出産が加わると余計に女性が不利な立場になる(その為退職する人が多いと思う)。(30 歳代)
- 「結婚や出産で職場に居づらい扱いをされる」等の表記があったが、それまでの自らの行いの結果、自業自得の場合が多々ある。最近では「女性」というだけで優遇されすぎている。マタハラ等とすぐに受け取らず、周りにもそれなりの理由がある事をもっと理解して欲しい(子持ちを盾にした周りへの配慮要求等)。(30 歳代)

- 職場での女性の育児休業取得率はほぼ 100%であるのに対し、男性の育児休業取得はまだまだ足りない現状だと思います。女性=出産・育児と結びつくが、男性は「育児休業を取得しても何をするんだろう？」という声が多く、男性自身にも職場に迷惑をかけると思う人がいる事が、男性の育児休業取得率の低さの一因にあると思う。(60 歳代)

#### 【男性】

- 未だ日本では男性が優遇されていると思う。女性の給与を上げれば男性が家事をする事は十分ありだと思う。そのような社会であってほしい。(50 歳代)
- 先ずは、民間であればトップやその下が積極的に管理職に女性の登用を考えなければ始まらない。同時に女性自身が自覚してトップを目指す方向へ行く事が望ましい。家庭での夫の協力が当然必要。(60 歳代)

### 3 教育・子育てについて

---

#### 【女性】

- 得意な事、出来る事、向き不向きで決めればいい。男女では心のつくり体のつくりにもそもそも違いがあるのだから、何でも共同、何でも同じ、一緒にはできない部分が必ずある。LGBTの人も子供も大人もできる出来ないがあるのだから。そんな事をいちいち言うより一人一人の意識(特に年配の方)を変化させつつ(無理だろうけどね)未来を生きる子供たちにしっかりと教育していけばいい(障がい者理解の教育もお願いします)。(40 歳代)
- 少子化がますます進んでいるような気がします。子どもを産んで育てることに、個人の精神論だけではサポート出来ない社会になってきていると思います。産んで育てることで、職場でのプラス評価や賃金アップなど、国が取り組んでバックアップしてくれる社会になると、メリットもあり安心して子どもを育てようとする人も増えると思います。先生の意識に男子優位的な対応だと感じた事がありました。口では言っても、感覚的に染みついたものがある事を感じました。意識改革は学生の時からの教育、家庭教育も影響すると思います。(50 歳代)
- 小学校では名簿等、性別にかかわりない取り組みが進んできていますが、中学、高校はいかがでしょうか。行政からのきちんとしたアドバイスも必要かもしれません。学校現場は一步前進できずにいる様に思います。教師の意識が変わりきれてないのか、忙しすぎる為なのかは分かりませんが。(60 歳代)

#### 【男性】

- まだまだ今の日本では男女平等は難しいと思う。上に立つ人間がいまだにどちらかに偏っていると思う(男性政治家、女性政治家然り)。上の人間の考え方を少しずつ変えていく必要がある。と、同時に新しい世代を教育することに力を入れるべき。教育する側が偏見を持っている間は、絶対に男女平等になることはないと思っています。(20 歳代)
- 男は男らしく、女は女らしくこの考え方、私達の年代でも口にする人が多くいます。この人たちに今さら教育というのも受け入れないだろうし職場でも考えさせられます。(60 歳代)

## 4 人権・LGBTについて

---

### 【女性】

- 男女差別しない事はもちろんだが、それ以上に一人一人が相手の人権を尊重する事が大事だと思うので、学校や職場で話し合いや講習会など定期的実施してほしい。(30 歳代)
- 女性が年齢を重ねると何を言っても良い、セクハラなど関係ないなど思っている男性がまだまだ多く感じる。こちらも一つ一つ真面目に腹を立てても、仕事上やりづらくなるかと思い、我慢したり流したりしている。加害者の方は自分の身内が言われたらと考えてくれれば気が付いてくれるのかなと思います。(50 歳代)
- テレビや新聞などから何となく耳にしていただけで自分自身深く考えた事がないなど気づかされました。私の年代ではLGBTなどは公になることはなかったのも、他人事というか別世界の話というのが正直なところ。これを機に考えろということなのかもしれないと思いました。(50 歳代)

### 【男性】

- 男性だからとか女性だからという事ではなく、一人一人が個人の特長を生かせるような社会や家庭になれば良いと思う。(40 歳代)

## 5 その他

---

### 【女性】

- 男女共同参画に関わらず、まず、一人一人の考え、意識が変わらなるとどれだけ法制度を整えても無意味だと思います。(10 歳代)
- 大学の時までにはなかったが、社会人になってあまりにも容姿や恋人の有無の話題をされることが多くなりうんざりしている。特に 50 代以上の人からが多く、この年代は昔はそれが許されていたが、今はもうそのような時代ではない事を理解して欲しい。女性、男性の前にそうしたモラルを身につけさせることも大事なのではないかと思う。(20 歳代)
- 人それぞれ個性を生かして生きやすい世の中になってほしいと思う。人の生活に口出す人の気持ちかわからない。その人が幸せで笑顔になれる生活だったら、どうでもいい。すべきなどの固定観念は捨てるべきだと思う。(30 歳代)
- 相談出来ずに悩んでる人を少しでも減らしてほしい。(30 歳代)
- 全ての人々が生きがいを持って日々生活が出来る様な社会になって欲しいと願います。男だから女だからという事も時には必要な場面もあると思うが、全てをそのくりに入れ込むことがない様に自分も偏見持たずに努力していこうと思う。(40 歳代)

### 【男性】

- 男女で出来る事、関係ない事があると思う。全てを男女平等で解決するのではなく、相手のことを思いやれる心を養える研修等を増やせば。(20 歳代)
- 女性が優遇されていないから、もっと女性を優遇する。LGBT が少数派で優遇されていないからもっと優遇するという方向性は誤りだと感じる。男と女で分けるのではなく、個々人が活躍できる社会を目指した動きをすべき。(40 歳代)

- 結局のところ、女性を優遇する施策が多く、男性からの不満が多いと思われる。(40 歳代)
- 家事だって重要な仕事であることは確かです。ただ、お金は稼げていない。しかし、女性が家事をする事で男性がお金を稼ぎ易い事もある。当然その逆でもいい。お互いに適していれば、無理をしていなければ。(50 歳代)

【性別無回答】

- 子どもを産める人が安心して子育てをできる環境になってほしい。例えば精神疾患等あっても地域や行政でサポートして、子どもを望む全ての人が、子どもを産み育てられる環境になって欲しい。そして、パートナーから暴力を受ける事のない環境になってほしい。性犯罪やストーカー被害の起きない、全ての愛が受け入れられて、安心して穏やかな人生が過ごせるような、そんな社会を望みます。(無回答)

## V 調査票



## 令和元年度

### 男女共同参画に関する市民意識調査

#### 【アンケートご協力のお願い】

日ごろから市政全般にわたり、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
佐賀市では、男女共同参画社会（男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現をめざして取り組みを進めております。  
このたび、男女共同参画に関する日常生活の実態や住民の皆様のご意見をお聞かせいただき、今後の取り組みに向けた基礎資料とするために調査を実施いたします。  
このアンケートは、佐賀市にお住まいの16歳以上の方から無作為に抽出した2,300人の方にお送りしています。  
お答えいただいた内容については、すべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありませんし、他の目的のために使うことはありません。また、お名前を記入していただく必要もございません。なお、結果の概要については、佐賀市ホームページ等にて公表いたします。  
アンケートのご回答には、15分程度の時間を要すると思われませんが、調査の趣意をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

令和元年7月  
佐賀市長 秀島 敏行

#### 〔ご記入にあたってのお願い〕

1. アンケートは、**封筒のあて名の方**が記入してください。
2. 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号に○をつけてください。
3. 回答はすべて任意です。答えられる質問にお答えいただければ結構です。
4. ご記入が終わりましたら、**7月26日（金）までに** 同封の返信用封筒に入れて、返送してください。（切手を貼っていただく必要はありません。）
5. アンケートについて、不明な点やご質問がありましたら、お問い合わせください。

#### 【問い合わせ】

佐賀市 市民生活部 人権・同和政策・男女参画課（担当）南雲・芦原  
TEL 40-7014 / FAX 34-4549  
Eメール jinken@city.saga.lg.jp

## V

## 調査票

### あなた自身についておうかがいします

それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

Q 1 男女共同参画に関心がありますか。

- 1 とても関心がある      2 どちらかといえば関心がある  
3 どちらかといえば関心がない      4 全く関心がない

Q 2 あなたの性別をお答えください。

- 1 女性      2 男性      3 その他（      ）

※体の性別や戸籍上の性別にかぎらず、心の性別（性自認）を選んでいただくことも可能です。

Q 3 あなたの年代をお答えください。

- 1 10歳代      2 20歳代      3 30歳代      4 40歳代  
5 50歳代      6 60歳代      7 70歳以上

Q 4 あなたは結婚されていますか。

- 1 結婚している（事実婚等を含む）      2 結婚したが離別・死別      3 結婚していない

※ **結婚している方にお尋ねします。**

Q 4 共働きですか。（パートや内職を含む）

- 1 共働きである      2 共働きではない

Q 5 あなたの家族構成をお答えください。

- 1 ひとり暮らし      2 夫婦のみ（事実婚等を含む）      3 二世大家族（親と子ども）  
4 三世大家族（親と子どもと孫）      5 その他（具体的に      ）

### 結婚や家庭生活についておうかがいします

問 1 あなたは結婚・家庭についてどのように考えますか。次のA～Cについて、あなたの考えに近い番号（1～5）に○をつけてください。○は1つずつ

賛 成

い ち だ い ち だ い  
え ば ば 反 対 反 対  
成 成 対 対

1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5

- A 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい  
B 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」と思う  
C 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

問2 家庭での役割分担について、あなたはどのように思いますか。

① あなたは、家庭での役割を誰が行うべきだと思いますか。次のA～Eについて、あてはまる番号(1～5)に○をつけてください。○は1つずつ

	主に妻(母)	主に夫(父)	度(父)と分(母)に同じ担	家族全員	その他
A 家計を支える(生活費を稼ぐ)	1	2	3	4	5
B 炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5
C 子育てや介護など家族の世話	1	2	3	4	5
D 自治会・町内会などの地域活動	1	2	3	4	5
E PTA活動などの学校行事への参加	1	2	3	4	5

② あなたの家庭では、実際に誰がその役割を行っていますか。次のA～Eについて、あてはまる番号(1～5)に○をつけてください。○は1つずつ

	主に妻(母)	主に夫(父)	度(父)と分(母)に同じ担	家族全員	その他
A 家計を支える(生活費を稼ぐ)	1	2	3	4	5
B 炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5
C 子育てや介護など家族の世話	1	2	3	4	5
D 自治会・町内会などの地域活動	1	2	3	4	5
E PTA活動などの学校行事への参加	1	2	3	4	5

問3 あなたは、1日に平均してどれくらいの時間を家事(育児・介護を含む)にかけていますか。次のA・Bについて、あてはまる番号(1～6)に○をつけてください。○は1つずつ

	全くして いない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上
A 平日	1	2	3	4	5	6
B 休日	1	2	3	4	5	6

問4 仕事と生活についてお尋ねします。あなたは希望として何を優先したいですか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。○はいくつでもかまいません。  
※「地域・個人の生活」とは、自治会などの地域活動、個人の趣味や自己啓発などをさします。

	1 仕事	2 家庭生活	3 地域・個人の生活
問5 それでは、あなたは現実には何を優先していますか。次の中から現実に近い番号に○をつけてください。○はいくつでもかまいません。 ※「地域・個人の生活」とは、自治会などの地域活動、個人の趣味や自己啓発などをいいます。			

	1 仕事	2 家庭生活	3 地域・個人の生活
--	------	--------	------------

### 教育・子育て・介護についておうえがいたします

問6 あなたは、子どもの育て方についてどのような考えをお持ちですか。次のA～Eについて、あなたの考えに最も近い番号(1～5)に○をつけてください。※子どものいない方も、あなたがどう思われるかでお答えください。○は1つずつ

	費 成	い ば 費 成	ど ち ら か と	い ど ち ら か と	反 対	わ か ら な い
A 女の子も男の子も、経済的に自立できるように育てたほうがよい	1	2	3	4	5	
B 女の子も男の子も、炊事、掃除、洗濯など、生活していくために必要な技術を身につけるように育てたほうがよい	1	2	3	4	5	
C 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい	1	2	3	4	5	
D 女の子も男の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てたほうがよい	1	2	3	4	5	
E 女の子も男の子も同じ程度の学歴を持たせたほうがよい	1	2	3	4	5	

問7 わが国では近年少子化傾向にありますが、その理由は何だと思えますか。次の中からあなたの考えに近い番号に○をつけてください。○は3つ以内

1 子育てのための経済的な負担が大きいため	
2 子育てを支援するためのサービス(保育所・児童クラブ等)が不十分だから	
3 配偶者の育児に対する協力が少ないから	
4 生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから	
5 雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから	
6 その他(具体的に)	

問 8 あなたは、性差別（性別による差別）のない社会をつかっていくために、学校教育の場でどのようなことに力を入れたほうがよいと思いますか。次の中からあはまる番号に○をつけてください。**○は3つ以内**


- 1 男女平等の意識を育てる授業をする
- 2 生活面の指導や進路指導において、男女を区別せずに子どもに興味・関心や能力を尊重する
- 3 教師自身の男女平等についての意識を高めるような研修を行う
- 4 校長や教頭に女性を増やしていく
- 5 児童生徒の年齢に応じた性についての教育を実施する
- 6 その他（具体的に）

問 9 あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることにどう思いますか。次の中からあなたの考えに近い番号に○をつけてください。**○は3つ以内**

- 1 家族として当然である
- 2 男性自身の成長のためにも、とることが望ましい
- 3 職場の上司や同僚が育児休業や介護休業をとることに理解がないのでとりにくい
- 4 職場において育児休業や介護休業の制度が整備されていないためとれない
- 5 収入が減ると困るのでとれない
- 6 育児や介護は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない
- 7 その他（具体的に）

問 10 最近、介護をするために転職、離職する人が増加していますが、何が原因だと思いますか。次の中からあはまる番号に○をつけてください。**○は3つ以内**  
 ※平成29年 就業構造基本調査結果によると、平成28年10月からの1年間で9万9千人が介護離職しており、「介護と仕事の両立」が大きな課題になっています。

- 1 職場の上司や同僚に介護に対する理解がない
- 2 職場において介護休業などの制度が整備されていない
- 3 共働き家庭や単身者が増加しているため、家庭内に介護に専念する人がいない
- 4 介護サービスや施設などが整備されていない
- 5 介護と仕事を両立するための支援制度や相談窓口等の情報が得にくい
- 6 その他（具体的に）

 **職業生活についておうかがいします** 

問 11 あなたは、「女性が職業に就くこと」についてどう思われますか。次の中からあなたの考えに近い番号に○をつけてください。**○は1つ**

- 1 女性は職業に就かないで、家事に専念するほうがよい
- 2 結婚や妊娠・出産するまでは、職業に就いているほうがよい
- 3 出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい
- 4 結婚や出産後も、産休や育児なども利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい
- 5 その他（具体的に）

問 12 あなたは、女性が仕事を続けていくうえで、障がいになっていくことは何だと思えますか。次の中からあなたの考えに近い番号に○をつけてください。**○はいくつでもかまいません**

- 1 結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気職場にある
- 2 昇進、昇給に男女格差がある
- 3 家事・育児・介護への家族の協力が不十分である
- 4 家事・育児・介護のための福祉制度や施設等が不十分である
- 5 その他（具体的に）
- 6 特に障がいはない

問 13 現在、女性が結婚や出産によって仕事をやめる場合がありますが、女性が再び仕事に就くためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近い番号に○をつけてください。**○はいくつでもかまいません**

- 1 雇用の場を増やす
- 2 再就職のための講座や技術訓練等を充実させる
- 3 社会全体で「男は仕事・女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識をなくす
- 4 家族のための休暇がとりにやすい職場や柔軟な労働時間を選べる職場を増やす
- 5 家族や夫の理解・協力を得る
- 6 保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる
- 7 その他（具体的に）

問 14 あなたは、現在職業に就いていますか。次のどちらかの番号に○をつけてください。

- 1 就いている（自営業・パート・内職を含む）
- 2 就いていない



問 16、17へお進みください（次ページ）

問 15 職業に就いていない理由を次の中から選び、その番号に○をつけてください。**○はいくつでもかまいません**

- 1 働きたいが仕事がないから
- 2 経済的に働く必要がないから
- 3 専業主婦（主夫）も立派な職業だから
- 4 育児や介護等のため
- 5 現在、学校に通っているから
- 6 定年退職したため
- 7 病気やけがなどのため、働ける状態ではないから
- 8 その他（具体的に）



問 18へお進みください（次ページ）

※ 問 1.4 で「1. (職業に) 就いている」と答えた方にお尋ねします。

問 1.6 ① あなたは平均すると 1 週間に何時間働いていますか。2 つ以上の仕事に就いている方はその合計でお答えください。ただし、仕事の休息時間は除きます。

② また、日数では週に何日働いていますか。(仮に、1 日 1 ~ 2 時間でも働いていれば、1 日と数えてお答えください。) 下の枠の中に、それぞれ数字を記入してください。

①  時間 / 週      ②  日 / 週

※ 問 1.4 で「1. (職業に) 就いている」と答えた方にお尋ねします。

問 1.7 あなたは、今どのような形で働いていますか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。○は1つずつ

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| 1 | 事業主                            |
| 2 | 正規社員                           |
| 3 | 非正規社員 (傭託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど) |
| 4 | 家族従事者 (家業のお店や農林漁業などに従事)        |
| 5 | その他 (具体的に )                    |

## 健康・福祉についておうかがいします

問 1.8 妊娠・出産・性生活にかかわる女性の権利・健康や性感症の予防について、みんなが互いに理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。次の中からあなたの考えに近い番号に○をつけてください。○は1つ

- |   |                   |   |                      |
|---|-------------------|---|----------------------|
| 1 | 配偶者やパートナー間の話し合い   | 2 | 学校における女性の健康と権利に関する教育 |
| 3 | 性や健康についての相談窓口     | 4 | パンフレットなどによる情報提供      |
| 5 | 講座の開催などによる学習機会の提供 |   |                      |
| 6 | その他 (具体的に )       |   |                      |

問 1.9 あなたが「寝たきり」や「認知症」などにより、もしも在宅で介護を受けるようになった場合、誰に介護をしてもらいたいですか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。○は1つ

- |   |             |   |    |   |             |   |      |
|---|-------------|---|----|---|-------------|---|------|
| 1 | 配偶者         | 2 | 息子 | 3 | 娘           | 4 | 息子の妻 |
| 5 | 娘の夫         | 6 | 孫  | 7 | ヘルパーなど介護専門職 |   |      |
| 8 | その他 (具体的に ) |   |    |   |             |   |      |

## 女性の活躍についておうかがいします

問 2.0 あなたのお住まいの地域では、下記の分野でどれくらい女性が活躍していると思いますか。次のA~Gについて、あてはまる番号 (1~4) に○をつけてください。○は1つずつ

- |   |           |            |            |             |
|---|-----------|------------|------------|-------------|
|   | とても活躍している | ある程度活躍している | あまり活躍していない | ほとんど活躍していない |
| A | 1         | 2          | 3          | 4           |
| B | 1         | 2          | 3          | 4           |
| C | 1         | 2          | 3          | 4           |
| D | 1         | 2          | 3          | 4           |
| E | 1         | 2          | 3          | 4           |
| F | 1         | 2          | 3          | 4           |
| G | 1         | 2          | 3          | 4           |
- 子ども会、PTA、部活動の役員など  
消防団・防災関係  
民生委員・児童委員  
体育協会・スポーツ関係の行事  
政治・議会  
その他 (具体的に )

問 2.1 どのような分野で、もっと女性が活躍した方が良いと思いますか。問 2.0 の A ~ G の中から、あてはまる番号に○をつけてください。○は3つ以内

A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F ・ G ・ 無し

問 2.2 あなたは、市の予算の使い方や市の方針を決めることについて、女性の意見や考えがどの程度反映されていると思いますか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。○は1つ

- |   |             |   |              |
|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 十分反映されている   | 2 | ある程度反映されている  |
| 3 | あまり反映されていない | 4 | ほとんど反映されていない |
| 5 | わからない       |   |              |

※ 問 2.2 で「3. あまり反映されていない」「4. ほとんど反映されていない」と答えた方にお尋ねします。

問 2.3 その理由は何ですか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。○は3つ以内

- |   |                                       |   |                |
|---|---------------------------------------|---|----------------|
| 1 | 女性の市議会議員が少ない                          | 2 | 市役所の管理職に女性が少ない |
| 3 | 自治会のリーダーに女性が少ない                       | 4 | 男性の意識・理解が足りない  |
| 5 | 市民の立場で市政に対する意見を述べる審議会や委員会などに女性委員が少ない  |   |                |
| 6 | 女性自身が意見を言う立場 (自治会長、委員、議員など) になりにがたがない |   |                |
| 7 | その他 (具体的に )                           |   |                |

## LGBT についておうかがいします

問 2 4 あなたは、「LGBT」という用語を聞いたことがありますか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。【○は1つ】

- 1 内容まで知っている  
2 内容までは知らないが聞いたことがある  
3 全く知らないし、聞いたことがない

問 2 5 あなたは、下記のような取り組みについて、どのような考えをお持ちですか。次のA～Eについて、あなたの考えに最も近い番号（1～5）に○をつけてください。【○は1つずつ】

賛成 反対  
いどちえいどち  
えばら反ら  
成と対と  
成 対

A 制服選択制の導入  
※ 学校の制服として、スカートかズボンか、ブレザーか学生服かなどを、性別にかかわらず、生徒各自が選べるようにすること。

B 男女混合名簿の使用  
※ 特に学校において、性別に関係なく、生年月日や五十音順などにより並べた名簿。

C ジェンダーフリートイレ（みんなのトイレなど）の増設  
※ 女性用トイレ、男性用トイレとは別に性別に関係なく使えるトイレ。

D 同性婚の法制化  
※ 女性と女性、男性と男性のカップルが法律上の結婚ができるよう立法すること。なお、同性婚は日本では法的に認められていないが、ヨーロッパやアメリカや合衆国等では法的に認められている。

E パートナーシップ証明制度の導入  
※ 同性どうしのカップルについて、結婚に相当するパートナー関係であることを公的に証明する制度で、東京都渋谷区や福岡市などが実施。ただし、法律婚とは異なり法的効力は無い。

## 地域活動についておうかがいします

問 2 6 あなたが自治会などの地域活動をする場合に、障がいになるようなことがありますか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。【○は3つ以内】

- 1 仕事に忙しい  
2 家事が手いっぱい  
3 精神的にゆとりがない  
4 健康的・体力的に自信がない  
5 家族の理解や協力が得られない  
6 人づきあいがわづらわしい  
7 どんな活動があるかわからない  
8 地域活動にメリットを感じない  
9 その他（具体的に）

問 2 7 防災・災害復興時において、男女共同参画に根ざした対応をとるためには何かが必要だと思いますか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。【○は2つ以内】

※ 東日本大震災時には、避難所でプライバシーが守られなかったり、共同作業の内容に男女で偏りがみられたりするなど、さまざまな問題が発生しました。

- 1 自治会等の地域の役員を男性も女性も積極的に担う  
2 普段の地域活動において、性別で役割を決定しない（女性は炊き出し、男性は力仕事など）  
3 地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する  
4 避難時に必要な知識や防災機材の取り扱い方等の研修会に男女ともに参加する  
5 防災計画等の計画策定の段階から、男女双方の意見が反映できるような体制を整える  
6 行政の防災担当者に女性を増やす  
7 その他（具体的に）

## 人権についておうかがいします

問 2 8 あなたは、この5年以内に夫婦や恋人同士などの親しい間の方からの暴力（DV）について、次にあげるようなことをしたり、されたりしたことがありますか。次のA～Gについて、あてはまる番号（1～4）に○をつけてください。【○は1つずつ】

されたことがある  
しなかった  
どち  
ち  
ら  
も  
あ  
る  
ど  
ち  
ら  
も  
あ  
り  
ま  
せ  
ん

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

- A 殴る、蹴る、物を投げる、物を壊す  
B 怒鳴る、無視する、脅す、人格を否定するような暴言を吐く  
C 生活費を渡さない、高価な買い物を手にする、ギャンブルに連れこむ  
D セックスを強要する、避妊に協力しない  
E メール・SNS・携帯電話をチェックする  
F 家族や友人との付き合いを監視・制限する  
G その他（具体的に）

※ 問28で1つでも「1.されたことがある」「3.どちらもある」と答えた方にお尋ねします。  
 該当しない方は問3.1へお進みください。

問29 あなたはどのような行為を受けたとき、どうしましたか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。○はいくつでもかまいません

- |    |                       |    |                |
|----|-----------------------|----|----------------|
| 1  | 相談等しなかったが、我慢した        | 2  | 謝ったり、なだめたりした   |
| 3  | 家族・親族に相談した            | 4  | 友人に相談した        |
| 5  | 婦人相談所や市役所などの相談窓口で相談した | 6  | 医師やカウンセラーに相談した |
| 7  | 民間の支援グループに相談した        | 8  | 警察へ通報した        |
| 9  | 逃げた                   | 10 | 別居した           |
| 11 | 離婚した・交際をやめた           | 12 | 相談しようとは思わなかった  |
| 13 | 相手方に直接、抗議した           |    |                |
| 14 | その他（具体的に）             |    |                |

※ 問29で「1相談等しなかったが、我慢した」や「12 相談しようとは思わなかった」と答えた方にお尋ねします。 該当しない方は問3.1へお進みください。

問30 それほなせですか。次の中からあてはまる番号に○をつけてください。○はいくつでもかまいません

- |    |                                       |
|----|---------------------------------------|
| 1  | どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから                |
| 2  | 子どもへの悪影響を避けたかったから                     |
| 3  | 相手方や自分の親族との関係が悪くなると考えたから              |
| 4  | 相談しても無駄だと思ったから                        |
| 5  | 相談したことがわかると、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから |
| 6  | 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから         |
| 7  | 世間体が悪い、恥ずかしいと思ったから                    |
| 8  | 自分にも悪いところがあると思ったから                    |
| 9  | 相談するほどのことではないと思ったから                   |
| 10 | その他（具体的に）                             |

問31 あなたは新聞・雑誌・テレビなどのメディアやインターネット・SNS・ゲーム等における性暴力の表現についてどう思いますか。次の中からあなたの考えに近い番号に○をつけてください。○は2つ以内

- |   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 1 | そのような表現を望まない人や子どもに触れないようにする配慮が足りない |
| 2 | 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ         |
| 3 | 女性や子どもに対する犯罪を助長する恐れがある             |
| 4 | 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている      |
| 5 | その他（具体的に）                          |
| 6 | 特に問題はない                            |

問32 次のような行為はセクシュアル・ハラスメントやマタニティハラスメントですが、あなたは、この5年以内に職場・学校・地域でしたり、されたりしたことがありますか。次のA～Kについて、あてはまる番号（1～4）に○をつけてください。○はいくつでもかまいません

※セクシュアル・ハラスメントとは、性的な言動により相手方を不快にさせ、その者の生活環境を書き換えること。また、性的な言動に対する相手方の対応によりその者に不利益を与えること。

※マタニティハラスメントとは、働く女性が妊娠・出産を理由に解雇・雇止めをされることや、妊娠・出産にあたって職場で受ける精神的・肉体的なハラスメントのこと。

- |        |   |   |   |   |
|--------|---|---|---|---|
| されたこと  | あ | あ | あ | あ |
| ることがある | あ | あ | あ | あ |
| し      | あ | あ | あ | あ |
| た      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| ある     | あ | あ | あ | あ |
| 見      | あ | あ | あ | あ |
| たり     | あ | あ | あ | あ |
| する     | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ | あ | あ | あ |
| あ      | あ | あ | あ | あ |
| る      | あ | あ | あ | あ |
| こと     | あ | あ | あ | あ |
| が      | あ |   |   |   |

※問32で1つでも「1.されたことがある」と答えた方にお尋ねします。  
該当しない方は問34へお進みください。

問33 そのことについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあらはまる番号に○をつけてください。○はいくつでもかまいません

1	上司・同僚・先生に相談した	
2	学校や職場内の相談窓口相談した	
3	公的機関(労働局・県・市の相談窓口など)に相談した	
4	民間の支援グループに相談した	
5	家族・友人・知人に相談した	
6	その他(具体的に)	
7	誰(どこ)にも相談しなかった	

問34 あなたは、性暴力(性犯罪、売買春、パートナーからの暴力、セクシュアル・ハラスメントなど)をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。次の中からあらはまる番号に○をつけてください。○はいくつでもかまいません

※こうした性暴力については、性別を問わず、誰もが被害者になります

1	法律・制度の制定や見直しを行う	
2	法律に盛り込まれた施策を十分に展開する	
3	加害者を更生させる制度を整える	
4	被害者が安心して相談できる窓口を確保する	
5	被害者を保護するための施設を整備する	
6	家庭や学校における男女平等や性についての教育を充実させる	
7	職場における男女平等意識を徹底させる	
8	その他(具体的に)	



### 男女平等・男女共同参画社会についておうちがいろいろ

問35 あなたはこれまでに、男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことがありますか。次の中からあらはまる番号に○をつけてください。  
○はいくつでもかまいません

1	友人やパートナーと話し合ったことがある	
2	夫婦や親子など家族の間で話し合ったことがある	
3	研修会や公民館の講座などに参加したことがある	
4	学校や大学で学んだことがある	
5	その他(具体的に)	
6	ない	

問36 あなたは、男女共同参画に関する次の用語などを聞いたことがありますか。次のA～Eについて、あてはまる番号(1～3)に○をつけてください。○は1つずつ

	知内 つ容 てい ま で	た ら な い と が あ る	内 容 が あ る	し、 と が な い	全 く 知 ら な い
A	佐賀市男女共同参画を推進する条例	1	2	3	3
B	佐賀市男女共同参画計画パートナーシップ21	1	2	3	3
C	4月14日 パートナーデー	1	2	3	3
D	ジェンダー	1	2	3	3
E	ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	3

問37 あなたは現在、下記の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

次のA～Gについて、あてはまる番号(1～6)に○をつけてください。○は1つずつ

さ女 優え ど な 男 優え ど さ 男  
れ性 が 遇さ ば女 っ女 っ女 性 性 性 性  
い優 る 遇さ ば女 っ女 っ女 性 性 性 性  
る遇 る 遇さ ば女 っ女 っ女 性 性 性 性  
る遇 る 遇さ ば女 っ女 っ女 性 性 性 性

A	家庭生活で	1	2	3	4	5	6
B	職場で	1	2	3	4	5	6
C	学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
D	地域や社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
E	政治の場で	1	2	3	4	5	6
F	法律や制度に関して	1	2	3	4	5	6
G	就職・採用の際に	1	2	3	4	5	6



---

---

令和元年度 男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和2年3月

編集・発行 佐賀市 市民生活部 人権・同和政策・男女参画課  
〒840-8501 佐賀市栄町1番1号  
電話番号 0952-40-7014(直通)  
ファックス 0952-34-4549  
E-mail jinken@city.saga.lg.jp

---

---